

BLUETREND XA コマンドリファレンス

BLUETREND XA の各プログラムのコマンドを
紹介しています。

コマンドの詳細はヘルプを参照してください。

※解説内容がオプションプログラムの
説明である場合があります。
ご了承ください。



目次

BLUETREND XA コマンドリファレンス

現場管理

1 現場管理の画面構成	2
2 現場管理のコマンドの紹介	3
[ファイル]メニューのコマンド	3
[工区]メニューのコマンド	3
[現場]メニューのコマンド	4
[表示]メニューのコマンド	4
[ツール]メニューのコマンド	4
[メンテナンス]メニューのコマンド	7
[ヘルプ]メニューのコマンド	8

メインメニュー

1 メインメニューの画面構成	10
2 メインメニューのコマンドの紹介	11
[ファイル]メニューのコマンド	11
[編集]メニューのコマンド	14
[表示]メニューのコマンド	15
[作業データ]メニューのコマンド	15
[ツール]メニューのコマンド	15
[ウィンドウ]メニューのコマンド	16
[ヘルプ]メニューのコマンド	16

座標管理

1 座標管理の画面構成	18
2 座標管理のコマンドの紹介	19
[専用コマンド]メニューのコマンド	19
[セル]メニューのコマンド	20

地番管理

1 地番管理の画面構成	23
2 地番管理のコマンドの紹介	24
[専用コマンド]メニューのコマンド	24

CAD

1 CADの画面構成	27
2 CADのコマンドの紹介	28
[汎用]メニューのコマンド	28
[データ編集]メニューのコマンド	41
[配置]メニューのコマンド	44
[数値地形]メニューのコマンド	48
[設定]メニューのコマンド	49
[配筋図]メニューのコマンド	51

宅地割り計画

1 宅地割り計画のコマンドの紹介	54
[汎用]メニューのコマンド	54
[データ編集]メニューのコマンド	57
[専用]メニューのコマンド	59
[設定]メニューのコマンド	60
[図面]メニューのコマンド	62

電子野帳取込

1 電子野帳取込のコマンドの紹介	64
[生データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	64
[測点データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	64
[手簿データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	64

電子野帳座標入出力

1 電子野帳座標入出力のコマンドの紹介	67
[座標取込み]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	67
[座標送出]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	67

電子レベル

- 1 電子レベルのコマンドの紹介 _____ 69
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 69
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 69

トラバース計算

- 1 トラバース計算のコマンドの紹介 _____ 71
 - [野帳データ]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 71
 - [野帳データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 71
 - [路線データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 71
 - [観測データ]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 71
 - [観測データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 71

逆トラバース計算

- 1 逆トラバース計算のコマンドの紹介 _____ 74
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 74
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 74

交点計算

- 1 交点計算のコマンドの紹介 _____ 76
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 76
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 76

座標プリント

- 1 座標プリントのコマンドの紹介 _____ 78
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 78
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 78

ST 計算

- 1 ST計算のコマンドの紹介 _____ 80
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 80
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 80

用地境界点計算

- 1 用地境界点計算のコマンドの紹介 _____ 82
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 82
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 82

拡張計算

- 1 拡張計算のコマンドの紹介 _____ 84
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 84
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 84

境界点成果対比計算

- 1 境界点成果対比計算のコマンドの紹介 _____ 86
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 86
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 86

直線巾杭計算

- 1 直線巾杭計算のコマンドの紹介 _____ 88
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 88
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 88

スライド計算

- 1 スライド計算のコマンドの紹介 _____ 90
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 90
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 90

回帰直線

- 1 回帰直線のコマンドの紹介 _____ 92
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 92
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 92

定面積分割

- 1 定面積分割のコマンドの紹介 _____ 94
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 94
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 94

地番プリント

- 1 地番プリントのコマンドの紹介 _____ 96
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 96
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 96

面積計算

- 1 面積計算のコマンドの紹介 _____ 98
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 98
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 98

街区一連計算

- 1 街区一連計算のコマンドの紹介 _____ 100
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 100
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 100

多角形座標変換

- 1 多角形座標変換のコマンドの紹介 _____ 102
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 102
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 102

凸凹補正計算

- 1 凸凹補正計算のコマンドの紹介 _____ 104
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 104

路線地番交点計算

- 1 路線地番交点計算のコマンドの紹介 _____ 106
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 106
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 106

N 点固定面積調整変換

- 1 N点固定面積調整変換のコマンドの紹介 _____ 108
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 108
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 108

基準点測量

- 1 基準点測量のコマンドの紹介 _____ 110
 - [ファイル]メニューのコマンド _____ 110
 - [生データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 110
 - [測点]タブの[基準点測量]メニューのコマンド _____ 110
 - [手簿]タブの[基準点測量]メニューのコマンド _____ 111
 - [点検路線]タブの[基準点測量]メニューのコマンド _____ 111
 - [厳密網測点]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 112
 - [厳密網測点]タブの[厳密網]メニューのコマンド _____ 112
 - [厳密網球距離][厳密網観測角][厳密網高低角]タブの
[厳密網]メニューのコマンド _____ 113
 - [任網水平]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 113
 - [任網水平]タブの[任意網]メニューのコマンド _____ 113
 - [任網高低]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 113
 - [任網高低]タブの[任意網]メニューのコマンド _____ 114
 - [単路水平]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 114
 - [単路水平]タブの[単路線]メニューのコマンド _____ 114
 - [単路高低]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 114
 - [単路高低]タブの[単路線]メニューのコマンド _____ 115

ST 計算(検定)

- 1 ST計算(検定)のコマンドの紹介 _____ 117
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 117
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 117

経緯度座標変換(検定)

- 1 経緯度座標変換(検定)のコマンドの紹介 _____ 119
[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 119
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 119

水準測量

- 1 水準測量のコマンドの紹介 _____ 121
[手簿]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 121
[手簿]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 121
[路線]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 121
[路線]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 121
[成果]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 122
[成果]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 122

点の記

- 1 点の記のコマンドの紹介 _____ 124
[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 124
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 124

数値地籍情報

- 1 数値地籍情報のコマンドの紹介 _____ 126
[地区情報][地図番号][図根点][筆・長挟物][仮行政界]タブの
[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 126
[筆界点]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 126
[筆属性]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 126
[共有者]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 126
[筆界未定構成]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 126

精度管理表(地籍)

- 1 精度管理表(地籍)のコマンドの紹介 _____ 128
[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 128
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 128

精度管理表(座標)

- 1 精度管理表(座標)の命令の紹介 _____ 130
 - [データ入力]タブの[専用命令]メニューの命令 _____ 130

地積測定

- 1 地積測定の命令の紹介 _____ 132
 - [求積地番][外周地番]タブの[ファイル]メニューの命令 _____ 132
 - [求積地番][外周地番]タブの[専用命令]メニューの命令 _____ 132

路線測量

- 1 路線測量の命令の紹介 _____ 134
 - [路線計画]タブの[ファイル]メニューの命令 _____ 134
 - [路線計画][巾杭]タブの[路線条件]メニューの命令 _____ 134
 - [路線計画][巾杭]タブの[路線計画]メニューの命令 _____ 134
 - [路線計画][巾杭]タブの[汎用命令]メニューの命令 _____ 137
 - [巾杭]タブの[ファイル]メニューの命令 _____ 137
 - [巾杭]タブの[巾杭]メニューの命令 _____ 137

縦横断測量

- 1 縦横断測量の命令の紹介 _____ 139
 - [縦断入力]タブの[ファイル]メニューの命令 _____ 139
 - [縦断入力]の[縦断共通]メニューの命令 _____ 139
 - [縦断入力]の[縦断野帳]タブの[縦断測量]メニューの命令 _____ 140
 - [縦断入力]の[縦断現況]タブの[縦断測量]メニューの命令 _____ 140
 - [縦断入力]の[縦断計画]タブの[縦断計画]メニューの命令 _____ 141
 - [縦断入力]の[曲線・拡幅・片勾配]タブの
 - [曲線・拡幅・片勾配]巾杭]メニューの命令 _____ 141
 - [横断入力]の[横断共通]メニューの命令 _____ 142
 - [横断入力]の[横断野帳]タブの[横断測量]メニューの命令 _____ 143
 - [横断入力]の[横断現況]タブの[横断現況]メニューの命令 _____ 143
 - [横断入力]の[横断計画]タブの[横断計画]メニューの命令 _____ 144
 - [横断入力]の[詳細土量]タブの[詳細土量]メニューの命令 _____ 145
 - [汎用命令]メニューの命令 _____ 146

土量計算

- 1 土量計算のコマンドの紹介 _____ 148
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 148
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 148

座標変換

- 1 座標変換のコマンドの紹介 _____ 150
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 150
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 150

座標変換(BL)

- 1 座標変換(BL)のコマンドの紹介 _____ 152
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 152
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 152

経緯度座標変換

- 1 経緯度座標変換のコマンドの紹介 _____ 154
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 154
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 154

面積調整変換

- 1 面積調整変換のコマンドの紹介 _____ 156
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 156
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 156

ヘルマート変換

- 1 ヘルマート変換のコマンドの紹介 _____ 158
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 158
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 158

座標変換(世界測地系)

- 1 座標変換(世界測地系)のコマンドの紹介 ____ 160
[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 160
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 160

座標変換(PatchJGD 準拠)

- 1 座標変換(PatchJGD準拠)のコマンドの紹介 162
[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 162
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 162

精度管理表(距離)

- 1 精度管理表(距離)のコマンドの紹介 _____ 164
[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 164
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 164

精度管理表(世界測地系)

- 1 精度管理表(世界測地系)のコマンドの紹介 __ 166
[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 166
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 166

偏心補正計算

- 1 偏心補正計算のコマンドの紹介 _____ 168
[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 168
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 168

OCR ユーティリティ

- 1 OCRユーティリティのコマンドの紹介 _____ 170
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 170

座標地番アスキー

- 1 座標地番アスキーのコマンドの紹介 _____ 172
 - [座標出力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 172
 - [地番出力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 172
 - [取込み]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 172

太陽による方向角計算

- 1 太陽による方向角計算のコマンドの紹介 _____ 174
 - [データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド _____ 174
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 174

GPS 変換

- 1 GPS変換のコマンドの紹介 _____ 176
 - [ファイル]メニューのコマンド _____ 176
 - [TRIMBLE]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 176
 - [TOPCON/SOKKIA]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 176

座標読取(プロッタ)

- 1 座標読取(プロッタ)のコマンドの紹介 _____ 178
 - [ファイル]メニューのコマンド _____ 178
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 178

座標読取

- 1 座標読取のコマンドの紹介 _____ 180
 - [ファイル]メニューのコマンド _____ 180
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 180

距離・面積計算

- 1 距離・面積計算のコマンドの紹介 _____ 182
 - [ファイル]メニューのコマンド _____ 182
 - [データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド _____ 182

2 回読み面積計算

- 1 2回読み面積計算のコマンドの紹介 _____ 184
 - [ファイル]メニューのコマンド _____ 184
 - [専用コマンド]メニューのコマンド _____ 184

舗装展開図

- 1 舗装展開図のコマンドの紹介 _____ 186
 - [ファイル]メニューのコマンド _____ 186
 - [幅員データ]タブの[舗装展開図]メニューのコマンド _____ 186
 - [幅員データ]タブの[汎用コマンド]メニューのコマンド _____ 186
 - [3辺データ]タブの[3辺展開図]メニューのコマンド _____ 187

簡易舗装展開図

- 1 簡易舗装展開図のコマンドの紹介 _____ 189
 - [ファイル]メニューのコマンド _____ 189
 - [幅員データ]タブの[簡易舗装展開図]メニューのコマンド _____ 189
 - [幅員データ]タブの[汎用コマンド]メニューのコマンド _____ 189
 - [3辺データ]タブの[3辺展開図]メニューのコマンド _____ 190

法面展開図

- 1 法面展開図のコマンドの紹介 _____ 192
 - [ファイル]メニューのコマンド _____ 192
 - [幅員データ]タブの[法面展開図]メニューのコマンド _____ 192
 - [幅員データ]タブの[汎用コマンド]メニューのコマンド _____ 193
 - [3辺データ]タブの[3辺展開図]メニューのコマンド _____ 193

斜面積展開図

- 1 斜面積展開図のコマンドの紹介 _____ 195
 - [ファイル]メニューのコマンド _____ 195
 - [斜面積展開図]メニューのコマンド _____ 195
 - [幅員データ]タブの[汎用コマンド]メニューのコマンド _____ 195

擁壁展開図

1 擁壁展開図のコマンドの紹介	197
[ファイル]メニューのコマンド	197
[擁壁展開図]メニューのコマンド	197
[汎用コマンド]メニューのコマンド	197

各階平面図

1 各階平面図のコマンドの紹介	199
[建物]メニューのコマンド	199
[各階平面図]メニューのコマンド	199
[所在及び配置位置]メニューのコマンド	200
[汎用]メニューのコマンド	201
[設定]メニューのコマンド	203

登記用 XML 作成

1 登記用XML作成のコマンドの紹介	206
[専用コマンド]メニューのコマンド	206
[データ編集]メニューのコマンド	208
[設定]メニューのコマンド	209

法務省フォーマット作成

1 法務省フォーマット作成のコマンドの紹介	212
[専用コマンド]メニューのコマンド	212

14 条調査表



1 14条調査表のコマンドの紹介	214
[ファイル]メニューのコマンド	214
[専用コマンド]メニューのコマンド	214

現場管理

1 現場管理の画面構成


現場管理の画面まわりの機能を確認します。











現場管理の画面構成	
メニューバー	コマンドが関連性のあるコマンドごとにメニューで分類されています。
ツールバー	[工区作成][現場作成][表示更新][現場詳細]のボタンを表示します。
工区一覧	ウィンドウの左側には[工区一覧]が表示されます。最初に起動した段階では「未分類」「ごみ箱」という名称の工区が作成されています。必要に応じて任意の工区を作成します。 [工区一覧]で選択した工区に登録されている現場の一覧が表示されます。
現場一覧	ウィンドウ右側には[現場一覧]が表示されます。 [工区一覧]でクリックした工区内の現場を表示します。
現場の詳細	[現場一覧]で選択した現場の詳細を表示します。 ただし、現場の詳細の表示のみで編集はおこなえません。 [作業データ][図面データ][リンクフォルダー]タブで、現場内のデータを確認できます。
ユーザーパネル	バックアップ、リストアなどのボタンを表示します。表示・非表示は   で切り替えます。



2 現場管理のコマンドの紹介


現場管理のメニューバーのコマンドを紹介します。

[ファイル]メニューのコマンド	
印刷	一覧に現在表示されている、すべての現場情報を印刷します。
CIMPHONY 連携-アクセス設定	CIMPHONY の ID・パスワードを入力しておけば、CIMPHONY へのアクセス時に自動ログインします。 ※オプションサービスが必要です。
CIMPHONY 連携-ブラウザ確認	CIMPHONY サイトをブラウザで開きます。 [ファイル]-[CIMPHONY 連携]-[アクセス設定]コマンドで、ID・パスワードを入力しておけばログイン状態で表示します。 ※オプションサービスが必要です。
メールの送信	選択した現場データを、メールで送信します。 現場データは XAZ 形式に変換されます。 リンクデータが存在する場合は、LXA ファイルも同時に出力します。
現場管理の終了	アプリケーションを終了します。
[工区]メニューのコマンド	
新規作成 ( 工区作成)	任意の名称の工区を新規作成します。
編集	工区の情報を変更します。
詳細	工区の情報を確認します。 ※ローカル現場のみ
並べ替え	工区の並べ替えを行います。 [未分類][ごみ箱]工区は、並べ替えの対象外です。
削除	工区を削除します。 ただし、現場が登録されている工区を削除することはできません。工区内の現場を移動するか削除してから、工区を削除してください。また、複数の工区を一度に削除することはできません。[未分類]および[ごみ箱]の工区は、現場のあるなしにかかわらず、削除することはできません。
所属を変更	工区の所属工区を変更します。 [未分類]および[ごみ箱]の工区は、変更することはできません。
複写	選択した工区を複写します。ただし工区内の現場データは複写されません。 [未分類]および[ごみ箱]の工区は、複写することはできません。
ごみ箱-現場を元に戻す	「ごみ箱」工区内の現場を、元の工区に戻します。
ごみ箱-空にする	[ごみ箱]工区内のすべての現場をハードディスクから削除します。 使用状態または持ち出し状態を強制解除して、工事を編集できるようにします。

[現場]メニューのコマンド	
新規作成 ( 現場作成)	新規に現場を作成します。
開く	一覧で選択されている現場を開きます。複数の現場を選択した場合は、選択した全ての現場を起動します。
すべて選択	現在選択されている工区内の全現場を選択します。 複数の現場を一度に他の工区へ移動させる場合などに使用します。
詳細 ( 現場詳細)	現在選択されている現場の詳細 (詳細情報、作業データ、図面データ) を表示します。複数の現場を選択した場合は、選択した全ての現場の詳細 (10 現場まで) が表示されます。
削除	現在選択されている現場を「ごみ箱」工区へ移動します。複数の現場を同時に削除することもできます。
並べ替え	現場一覧の項目の内容を利用して、現場の表示順序を並べ替えます。 並べ替えは、全工区の現場が対象となります。
抽出	現場一覧の項目で条件を入力し、現場を抽出表示します。抽出表示は全工区の現場が対象となります。
表示－簡易 表示－詳細	現場一覧の表示方法を切り替えます。簡易表示にすると、現場プロットイメージと一番左端の項目内容のみを表示します。詳細表示にすると、[表示]－[表示項目の設定]コマンドで設定した項目と、現場プロットイメージが表示されます。
所属工区を変更	現場を他の工区へ移動します。複数の現場を移動させることもできます。
複写	現在選択されている現場データを複写します。リンクフォルダーも複写されます。
現場データの保存先を変更	現在選択されている現場データの保存先フォルダーを変更します。 ※ローカル現場のみ
現場データのフォルダー名を変更	現在選択されている現場データの保存先フォルダー名を変更します。
XAZ ファイル－取込み	BLUETREND XA の XAZ ファイルを取り込みます。 ※ローカル現場のみ
XAZ ファイル－出力	BLUETREND XA の XAZ ファイルを出力します。 リンクデータが存在する場合は、LXA ファイルも同時に出力します。 ※ローカル現場のみ
リンクフォルダーの保存先を変更	現在選択されている現場のリンクフォルダーの保存先フォルダーを変更します。 保存ファイルが移動します。
[表示]メニューのコマンド	
表示項目の設定	現場一覧項目の表示/非表示の切り替え、および項目の並べ替えを行います。 現場プロットイメージの表示/非表示の切り替えも行います。
プレビュー	現場の詳細プレビューの表示/非表示を切り替えます。
ツールバー	ツールバーの表示・非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバー (アプリケーションウィンドウの下方に操作メッセージなどを表示するバー) の表示/非表示を切り替えます。
ユーザーパネル	ユーザーパネルの表示/非表示を切り替えます。
リンクデータ－アイコン リンクデータ－詳細	[リンクフォルダー]タブの表示方法を切り替えます。
最新の情報に更新 ( 表示更新)	現場管理の情報を最新状態に更新します。

[ツール]メニューのコマンド	
3D ビュー ()	3D ビューを表示します。 ※登記測量エディションでは使用できません。
バックアップー現場のバックアップ ()	現場のバックアップを行います。
バックアップー 各種データのバックアップー XYCLONE/Fieldcom データ	XYCLONE/Fieldcom データのバックアップを行います。 バックアップ元に XYCLONE データ(*.UCM)と同名の LXY ファイルが存在する場合は、LXY ファイルもバックアップされます。 ※ローカル現場のみ
バックアップー 各種データのバックアップー 点の記(旧形式)データ	[点の記作成支援ツール]で作成した点の記データ(初期フォルダーは「¥OtherData¥PhotoData」)のバックアップを行います。 バックアップする点の記データ毎に、バックアップファイルが作成されます。
バックアップー 各種データのバックアップー 3D ビュー	[3D ビュー]で作成した 3D ビューデータ(初期フォルダーは「¥OtherData¥3DView」)のバックアップを行います。
バックアップー 各種データのバックアップー 地積等調査一覧表(14 条調査表) フォーマット・データ	BLUETREND XA 2012 以前の[地積等調査一覧表作成ツール]で作成したデータ(現場名_*.D14)、および[帳票フォーマット作成ツール]で作成したフォーマットのバックアップを行います。 「¥OtherData¥Chi14JData」フォルダー内の「現場名_*.D14」と「*.pf3」が対象です。
バックアップー 各種データを別フォルダーへコピー ()	既定のフォルダーの各種データファイルを、別フォルダーにコピー(バックアップ)します。 コピー対象のデータは、3D ビューデータ、Txt フォルダーデータ、DMTxt フォルダーデータ、X-FIELD/XYCLONE データ、点の記データ、Pocket データ、地積等調査一覧表(14 条調査表)データ・フォーマットです。
バックアップー設定のバックアップー 方位マーク	方位マークの設定ファイルを個別にバックアップします。
バックアップー設定のバックアップー シンボル	シンボルの設定ファイルを個別にバックアップします。
バックアップー設定のバックアップー パラメトリック	パラメトリックの設定ファイルを個別にバックアップします。
バックアップー設定のバックアップー SXF 属性セット	SXF 属性セットの設定ファイルを個別にバックアップします。
バックアップー設定のバックアップー 構造物数量マスタ	構造物数量マスタの設定ファイルを個別にバックアップします。
バックアップー設定のバックアップー 建物部品	建物部品の設定ファイルを個別にバックアップします。
バックアップー全設定のバックアップ ()	すべての設定を、一括バックアップ(保存)します。
リストアー現場のリストア ()	バックアップした現場をリストア(復元)します。リストアした工区および現場ファイルは、元の工区に同じ現場名称で復元されます。 ただし、リストア先に同じ現場名の現場が存在するときは、現場名の先頭に「リストア～」と付きます。
リストアー各種データのリストアー XYCLONE/Fieldcom データ	バックアップした XYCLONE/Fieldcom データをリストア(復元)します。 リストア対象ファイルの拡張子は、「*.Ugb」「*.Gnb」です。

[ツール]メニューのコマンド	
リストア-各種データのリストア- 点の記(旧形式)データ	バックアップした点の記(旧形式)データのリストア(復元)を行います。 リストア対象ファイルの拡張子は、「*.PH2」「*.PH3」です。
リストア-各種データのリストア- 3D ビュー	バックアップした 3D ビューデータのリストア(復元)を行います。 リストア対象ファイルの拡張子は、「*.xbd」です。
リストア-各種データのリストア- 地積等調査一覧表(14 条調査表) フォーマット・データ	バックアップした地積等調査一覧表(14 条調査表)フォーマット・データのリストア(復元)を行います。 リストア対象ファイルの拡張子は、「*.xbr」です。
リストア-各種データを 既定フォルダーに取込み ( 各種データを既定フォルダーに取り込み)	バックアップされた各種データファイルを、既定のフォルダーにリストア(コピー)します。 コピー対象のデータは、3D ビューデータ、Txt フォルダーデータ、DMTtxt フォルダーデータ、X-FIELD/XYCLONE データ、点の記データ、Pocket データ、地積等調査一覧表(14 条調査表)データ・フォーマットです。
リストア-設定のリストア- フリーフォーマット	バックアップしたフリーフォーマットの設定ファイルをリストア(復元)します。
リストア-設定のリストア- プロットマーク	バックアップしたプロットマークの設定ファイルをリストア(復元)します。
リストア-設定のリストア- 構造物コード表	バックアップした構造物コード表の設定ファイルをリストア(復元)します。
リストア-設定のリストア-方位マーク	バックアップした方位マークの設定ファイルをリストア(復元)します。
リストア-設定のリストア-シンボル	バックアップしたシンボルの設定ファイルをリストア(復元)します。
リストア-設定のリストア- パラメトリック	バックアップしたパラメトリックの設定ファイルをリストア(復元)します。
リストア-設定のリストア- SXF 属性セット	バックアップした SXF 属性セットの設定ファイルをリストア(復元)します。
リストア-設定のリストア- 構造物数量マスター	バックアップした構造物数量マスターの設定ファイルをリストア(復元)します。
リストア-設定のリストア-建物部品	バックアップした建物部品の設定ファイルをリストア(復元)します。
リストア-全設定のリストア ( 全設定のリストア)	すべての設定を、一括リストア(復元)します。 リストア対象ファイルの拡張子は、「*.BLZ」「*.BZI」です。
バックアップ現場の削除	バックアップ先の現場、およびリンクフォルダーを削除します。
BTW データの登録・コンバート- ファイルの指定	BTW ファイルを直接指定して、BLUETREND V で作成した現場データ(*.btw)を、BLUETREND XA で使用できるようにコンバートします。
BTW データの登録・コンバート- フォルダーの指定	BTW ファイルがあるフォルダーを指定して、BLUETREND V で作成した現場データ(*.btw)を、BLUETREND XA で使用できるようにコンバートします。
コンバート- TeamGEO Active 現場の取込み	TeamGEO Active でバックアップした現場データから、現場情報・座標・地番・CAD データをコンバートします。 ※ローカル現場のみ
コンバート-TeamGEO Active パーツデータの取込み	TeamGEO Active パーツデータをコンバートします。 TeamGEO Active の 1 パーツフォルダーのデータが、シンボルデータ・方位マークデータのファイルになります。 ※ローカル現場のみ
コンバート- TeamGEO2 現場の取込み	TeamGEO2 で作成した現場データから、現場情報・座標・地番・CAD データをコンバートします。 ※ローカル現場のみ

[ツール]メニューのコマンド	
コンバーター TeamGEO2 パーツデータの取込み	TeamGEO2 パーツデータをコンバートします。 TeamGEO2 の 1 パーツフォルダーのデータが、シンボルデータ・方位マークデータのファイルになります。 ※ローカル現場のみ
コンバーター Mercury-Evoluto 現場の取込み	Mercury-Evoluto で作成した現場データから、現場情報・座標・地番・CAD データをコンバートします。 ※ローカル現場のみ
コンバーター Mercury-WinII 現場の取込み	Mercury-WinII で作成した現場データから、現場情報・座標・地番・CAD データをコンバートします。 ※ローカル現場のみ
コンバーター WingNeo4 現場の取込み	WingNeo4 で作成した現場データから、現場情報・座標・地番・CAD データをコンバートします。 ※ローカル現場のみ
コンバーター デコルス/AX コスモス現場の取込み	デコルス/AX コスモスで作成したデータから、現場情報・座標・地番・CAD データをコンバートします。 ※ローカル現場のみ
オプション	プログラムの各種設定を行います。 現場管理でローカル現場またはサーバー現場を選択して、このコマンドを実行してください。ローカル現場とサーバー現場では、設定が異なります。
[メンテナンス]メニューのコマンド	
重複レコードの検索	同一の現場レコードを持つものを表示、削除します。 ※ローカル現場のみ
登録現場を登録	指定したフォルダー内の未登録現場を、現場管理に登録します。
現場レコードを DB から削除	登録されている現場レコードを削除します。 ※ローカル現場のみ
修復・最適化	ローカル現場のデータベースを修復・最適化します。 ※ローカル現場のみ
登録済み BTV データの 一括コンバート	現場管理に登録された BLUETREND V のデータ(*.btw)を、 BLUETREND XA で使用できるようにコンバートします。 BLUETREND V のデータ(*.btw)は、現場のイメージ部分に「  」のアイコンが表示されます。
リンクフォルダーの一括変更	リンクフォルダーの保存先(初期値:¥FCAPP¥BTXA¥XALinkData)を別の保存先に変更します。 保存先パスの変更であり、保存ファイルの移動は行いません。

[ヘルプ]メニューのコマンド	
ヘルプ	ヘルプを表示します。
マニュアル	各アプリケーションの PDF マニュアルや資料などを表示します。
クリック個所の機能解説表示	マウスポインターがヘルプポインターに変わり、コマンド(メニュー、アイコン、ファンクションバー)をクリックすると、クリック箇所のヘルプ解説が表示されます。 (表示されない箇所もあります。)
iNetHELP 設定	常時インターネットに接続されているマシンから、最新のヘルプ解説を見ることができます。この機能を使用するには、このコマンドで iNetHELP の設定を有効にしておく必要があります。 この機能が有効のとき、開いたヘルプ解説が、インターネット上のヘルプ解説より古い場合は、自動的にインターネット上のヘルプ解説に切り替わります。
武蔵.TV	「武蔵.TV」は、成果品作成に使用できるデータをダウンロードできる総合コンテンツ提供サイトです。 詳しくは、FC コンシェルジュ「その他のサービス」の「musashi.tv」より武蔵.TV サイトをご覧ください。
BEST FAQ	サポートセンターに日々寄せられる質問の中から、件数の多いものを厳選して作成した FAQ です。あなたの疑問に、電話によるサポートより早くお応えします。
FC コンシェルジュ	「FC コンシェルジュ」は、製品情報や各地のイベント・セミナー情報、サポート情報やサポートコンテンツなどを、各ユーザー様専用の内容で提供する機能です。
リモートサポート	「リモートサポート」は、電話だけでは解決が困難な場合、インターネットでお客様のパソコンと弊社サポートセンターを接続し、お客様の画面上で弊社のオペレーターが直接操作説明を行います。
バージョン情報	その他のプログラムのバージョン情報、著作権、ユーザーID などを表示します。

メインメニュー

1 メインメニューの画面構成






メインメニューの画面まわりの機能を確認します。




メインメニューの画面構成	
メニューバー	コマンドが関連性のあるコマンドごとにメニューで分類されています。
ツールバー	メニューバーのコマンドの中で使用頻度の高いコマンドが用意されています。
メッセージバー	メッセージバーには、メモリーの使用量の目安と操作時の補助的な説明を表示します。
メインメニュー	メインメニューは、[メニュー][座標管理][地番管理]から構成されています。
現場プロット	[座標管理]と[地番管理]に登録された座標や地番を、簡易表示する画面のことです。
グループ・アプリケーション	グループ、アプリケーションを選択します。
グループ(作業データ)・アプリケーション	[グループ作成]で作業データのグループを作成して、各アプリケーションの作業データを、任意のグループに分けて表示することができます。
お気に入り(プログラム)	よく使うプログラムを、最大9個まで登録することができます。
作業データプレビュー	各プログラムの作業データの内容(図面や形状)をプレビュー表示します。
ファンクションバー	ファンクションバーは、アプリケーションで用意されている機能をファンクションキーに割り当てて使用することができます。








2 メインメニューのコマンドの紹介











メインメニューのメニューバーのコマンドを紹介します





[ファイル]メニューのコマンド	
新規作成 ()	新規の現場ファイルを開きます。
開く ()	保存されている現場を読み込みます。開くことのできる現場数は 1 つです。
閉じる	作業中の現場を終了します。
上書き保存 ()	編集中の現場を上書き (同一現場に追加保存) で保存します。
名前を付けて保存	編集中の現場を、指定した名称で保存します。現場を作成して初めて保存するときも、[ファイル]－[名前を付けて保存]コマンドを使用します。
履歴	データの保存時に同時作成された履歴ファイルを読み込みます。 [ツール]－[オプション]の[バックアップ]タブの[履歴ファイル]で保管履歴数を設定します。保存されるフォルダー先は、データフォルダーです。XAZ ファイルの場合は、XAZ ファイルの保存先と同じフォルダーです。
計算書－新規作成 ()	入力したデータをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは[フリーフォーマット作成]で作成または変更することができます。各アプリケーションによって、設定する内容が異なります。
計算書－名前の変更	計算書の名称を変更します。
計算書－選択削除	削除したい計算書を選択して一括削除します。
計算書－成果情報	計算書に成果情報を設定します。
登録 ()	座標、および座標より構成される地番を登録します。
CIMPHONY 連携－アクセス設定	CIMPHONY の ID・パスワードを入力しておけば、CIMPHONY へのアクセス時に自動ログインします。(※オプションサービスが必要です。)
CIMPHONY 連携－ブラウザ確認	CIMPHONY サイトをブラウザで開きます。[ファイル]－[CIMPHONY 連携]－[アクセス設定]で、ID・パスワードを入力しておけばログイン状態で表示します。(※オプションサービスが必要です。)
CIMPHONY 連携－現場連携解除	CIMPHONY の現場との連携を解除します。現場内の作業データとの連携もすべて解除されます。(※オプションサービスが必要です。)
外部ファイル読み込み－ BLUETREND アスキー	BLUETREND で作成した座標アスキーデータを読み込みます。
外部ファイル読み込み－ TREND T/S アスキー	TREND T/S (旧システム) の[座標ファイルコンバーター]や BLUETREND の[T/S 固定フォーマット書込]で変換されている T/S 固定フォーマットの座標アスキーデータ (trend.txt) を、読み込みます。
外部ファイル読み込み－日調連	日調連指定フォーマットの座標アスキーデータを、読み込みます。
外部ファイル読み込み－地図 XML	法務局の地図情報システムから出力される地図 XML データを読み込みます。
外部ファイル読み込み－ 座標地番 SIMA	SIMA データを読み込みます。
外部ファイル読み込み－ 座標地番 SIMA [JPGIS]	SIMA (JPGIS) データを読み込みます。

[ファイル]メニューのコマンド	
外部ファイル読み込みー GIB ファイル	[数値地籍情報]の作業データを作成してからコマンドを実行してください。 株式会社きもと製 地籍調査支援システム「GEINS」シリーズから出力された 地籍情報ファイル (GIB ファイル)を読み込みます。
外部ファイル読み込みー 地番情報データベース	カスタマイズした地番情報の管理データベース (Scene120.mdb: Microsoft(R) Access2003 以前)の地番情報テーブルを読み込み、[現場管 理]の地番情報の管理インターフェースを独自に作成することができます。 Scene120.mdb は、SceneDB フォルダにあり、エクスプローラーなどで直接 起動します。ただし、カスタマイズしたデータベースでの障害への保証はありま せん。
外部ファイル読み込みー BX 互換ファイル	BX 互換ファイルを読み込みます。 現場内に登録座標・地番、作業データが存在する場合は、読み込むことがで きません。新規現場を作成して読み込むなどの対応を行ってください。
外部ファイル読み込みー 位置情報付き写真	位置情報付きの写真を読み込みます。 コマンドを実行するには、[ファイル]ー[現場の情報]で座標系が設定されてい る必要があります。読み込み可能な位置情報付き写真は、TIFF (*.tif、*.tiff)、 JPEG (*.jpg、*.jpeg、*.jpe)形式です。
外部ファイル読み込みー 基本設計データ編集	基本設計データファイル (*.xml)を読み込み、編集して出力します。
外部ファイル書き込みー BLUETREND アスキー	編集中の現場の全座標データを、BLUETREND の座標アスキーデータに 変換します。
外部ファイル書き込みー TREND T/S アスキー	編集中の現場の全座標データを、TREND T/S (旧システム)の座標アスキー データ (T/S 固定フォーマット)に変換します。
外部ファイル書き込みー日調連	編集中の現場の全座標データを、日調連指定フォーマットの座標アスキーデ ータに変換します。
外部ファイル書き込みー地図 XML	法務局の地図情報システムで利用される地図 XML データに変換します。
外部ファイル書き込みー 座標地番 SIMA	編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地)を、SIMA データに変換します。
外部ファイル書き込みー 座標地番 SIMA [JPGIS]	編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地)を、SIMA (JPGIS) データに 変換します。
外部ファイル書き込みー 地番情報データベース	現場情報を Scene120.mdb の現場情報テーブルに保存します。 書き込んだ後、Microsoft(R) Access で開いて、現場情報テーブルをカスタ マイズすることができます。独自の管理インターフェースを構築するときなどに使用 します。ただし、カスタマイズした場合のデータおよびアプリケーションの障害へ の保証はありません。
外部ファイル書き込みー BX 互換ファイル	現場内に存在する現場の情報、登録座標・地番、CAD の図面データと図面の 情報、計算書データを BX 互換ファイルに変換して書き込みます。作業データ内 の入力データは含まれません。
外部ファイル書き込みー座標地番 DXF	現場プロットに表示されている編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地) を、DXF 形式のデータに変換します。このコマンドで出力する座標地番 DXF デ ータは、AutoCAD (対応バージョン R13J 以降)で読み込むことを前提としてい ます。
外部ファイル書き込みー座標地番 MIF	現場プロットに表示されている編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地) を、MIF 形式のデータに変換します。 MIF データは、MapInfo (MapinfoInterchangeFormat)の標準データ形式で す。これを利用して各社 GIS システムへのデータ連動が可能となります。

[ファイル]メニューのコマンド	
外部ファイル書込みー図面・計算書	現場ファイル内にある図面・計算書を一括してファイルに出力します。新規に作成した作業データは、必ず一度閉じてから、コマンドを実行してください。新規に作成した作業データを一度も閉じず開いた状態でコマンドを実行すると、[図面・計算書書込み]ダイアログに表示されません。
外部ファイル書込みー基本設計データ	路線測量、縦横断測量のデータを元に、道路中心線形(平面線形、縦断線形)、出来形横断面形状の情報を取得し、計測対象点の情報などを付加した基本設計データを出力します。
外部ファイル書込みー道路中心線形データ	路線測量、縦横断測量のデータを元に、道路中心線形(平面線形、縦断線形)の情報を取得し、プロジェクト情報などを付加した道路中心線形データを出力します。
外部ファイル書込みーLandXML	座標管理、路線測量、縦横断測量のデータを、LandXML データに変換します。LandXML のバージョンは、Ver 1.1 です。
外部ファイル書込みー調査報告書用データ	不動産調査報告書入力システム(日調連)で取り込めるデータを出力します。出力するデータは、ファイル情報(*.ini)・詳細データ(*.txt)の2つです。データのやりとりは、この2ファイルが必要です。
外部ファイル書込みー座標地番シェープファイル	座標・地番データをシェープファイルに変換します。
外部ファイル書込みーGoogle Earth	座標と地番の情報を Google Earth 上に表示できるファイル(*.kmz)を出力します。Google Earth がインストールされていれば、ファイル出力後に Google Earth を起動して表示します。 ※Google Earth は、Google から無料で提供されている世界中の衛星写真を閲覧できるソフトです。
外部ファイル書込みー杭打ちデータ	CIMPHONY へ杭打ちデータをアップロードします。杭打ちデータとは、弊社のスマホアプリ[杭打ちツール]で取り込めるデータ(座標・地番)です。 ※オプションサービスが必要です。
現場データー現場の合成	開いている現場(合成先)に、指定した現場ファイル(合成元)の座標、地番、および各作業データを取り込みます。合成元の座標、地番の点番、地番 No は、付け直すかそのままかを選択することができますが、合成先に使用されている点番、地番 No セルには取り込まれず無視します。 合成する予定のある現場は、1～1000、1001～2000 と最初から意識した登録をお勧めします。また、作業データ内の仮点も取り込まれますが、合成後は登録されますので、点番が食い違う可能性があります。(合成前に座標登録しておくことをお勧めします。)
現場データー現場の抜き出し	開いている現場から、指定した現場ファイルに座標、地番、および各作業データを抜き出します。
現場の情報	編集現場の工区名、ファイル名、ファイルサイズ、使用者、最終使用者などを表示します。工事番号(事件番号)、現場名(所在)などの現場情報を入力・表示します。
測地系設定	計算を行うときに使用する測地系を設定します。
地籍図郭設定	地籍図郭を作成します。
印刷範囲の設定	印刷範囲を設定します。印刷範囲を設定しない場合は、印刷範囲枠が印刷範囲になります。
印刷()	計算書を印刷するときは、計算書を表示した状態でコマンドを実行します。

[ファイル]メニューのコマンド	
PDF 出力	計算書、または図面を PDF ファイルに出力します。PDF 作成のため、Antenna House PDF Driver がインストールされている環境が必要です。 Antenna House PDF Driver のインストールは、BTXA のインストール時に自動で行われます。
最新のファイル	過去に開いた現場名・XAZ ファイル名が 9 つまで表示され、クリックするとその現場を開くことができます。過去に現場を作成していないときは何も表示されません。
アプリケーションの終了	アプリケーションを終了します。
[編集]メニューのコマンド	
座標・地番 元に戻す()	座標管理、地番管理で座標、地番、地番構成点に対して行った編集作業を元の状態に戻します。連続して10回前までの作業を順番に元に戻すことができます。
座標・地番 やり直し()	[編集]－[座標・地番元に戻す]で実行した内容を取り消します。
元に戻す()	直前に行った CAD 操作を元の状態に戻します。[編集]－[元に戻す]は連続して実行でき、順番に操作をさかのぼっていきます。元に戻した操作は[やり直し]コマンドで再度実行させることができます。
やり直し()	[編集]－[元に戻す]コマンドで実行した内容を取り消します。[編集]－[やり直し]コマンドは、連続して行った[編集]－[元に戻す]の処理を順番にすべてやり直すことができます。
切り取り()	Windows の機能です。現在選択しているデータをクリップボードに移動します。データが選択されていないときや切り取ることのできないデータを選択しているとき、このコマンドは使用できません。
コピー()	Windows の機能です。現在選択しているデータをそのままの状態にしてクリップボードに保存(コピー)します。データが選択されていないときやコピーできないデータを選択しているとき、このコマンドは使用できません。
貼り付け()	クリップボードの内容を貼り付けます。クリップボードに何も保存されていないときや貼り付け場所がふさわしくないとき、このコマンドは使用できません。
クリア	Windows の機能です。選択されているデータを削除します。
形式を選択して貼り付け	Windows の機能です。クリップボードの内容を指定した形式で貼り付けます。また、貼り付けるデータによっては、同時にリンクを設定することもできます。データを切り取ったりコピーしたりして貼り付けた場合は可能な限り、元のアプリケーションで編集できる形式で貼り付けられます。
オブジェクトの作成と貼り付け	Windows の機能です。ワープロやドロー作成などのオブジェクトを挿入します。再編集するときは、貼り付けたオブジェクト内をダブルクリックすることにより、対象となるアプリケーションが起動します。
リンクの設定	Windows の機能です。オブジェクトに設定されているリンク情報を表示および変更します。このコマンドは、入力されているオブジェクトにリンクが設定されている場合のみ使用できます。
オブジェクト	Windows の機能です。選択したオブジェクトを開きます。

[表示]メニューのコマンド	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示、ツールバーのアイコンを設定します。 ツールバーは作業するウィンドウにより異なり、ウィンドウを切り替えると同時に、使用できるツールバーも切り替わります。
ファンクションバー	用意されている機能をファンクションバー（ファンクションキー）に割り当てます。 Shift キー、Ctrl キーと組み合わせることができます。また、ファンクションバーの表示、非表示を設定します。
ステータスバー	アプリケーションウィンドウの下方に、座標数や地番数などを表示するステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
メッセージバー	アプリケーションウィンドウに操作メッセージを表示するメッセージバーの表示位置の切り替えや表示フォントの設定などを行います。
現場プロット表示する()	座標、点名、点番などをプレビューする現場プロットの表示、非表示を切り替えます。 現場プロットウィンドウの上方には、表示状態を変更するアイコンが並んでいます。
現場プロット上、下、左、右 ( ▼)	現場プロットの表示位置を変更します。
[作業データ]メニューのコマンド	
新規作成( ▼)	新規の作業データを作成します。 コマンドアイコン()の横にある小さいドロップダウンリストのアイコン(▼)をクリックすると、一覧の中から新規作業データを開くことができます。 同時に編集できる作業データウィンドウは 10 枚です。
開く	既存の作業データを開きます。 同時に編集できる作業データウィンドウは 10 枚です。
閉じる	アクティブな作業データウィンドウを閉じます。作業データは物理メモリ上で管理されているため、閉じたときの内容で再度開くことができます。ただし、現場ファイルを保存しないで終了すると、作業データの内容は破棄されますので注意してください。
別名で保存	作業データを別名で保存します。
保存せず終了	指定した作業データの入力(変更)データを破棄して、ウィンドウを閉じます。
削除	指定した作業データを削除します。削除した作業データを復帰することはできないので注意してください。
コピー	[メニュー]で指定した作業データをコピーします。
ロック()	作業データをロックし、上書き禁止で作業データを開くようにします。
名前の変更()	作業データの各ファイル名を変更します。メインメニューの[メニュー]タブに表示されている名称を変更します。ファイルを開いているときは、ウィンドウのタイトルバーの名称変更になります。
グループの変更()	作業データの所属グループを変更します。
[ツール]メニューのコマンド	
交点計算()	作業途中に交点計算を行い、交点を求めます。
補助機能()	作業途中に面積を計ったり座標を登録するなどの割り込み処理を行います。
条件設定()	座標、距離、角度、面積計算などの丸めや地番の重複チェックなどに関する項目を設定します。設定方法は、1 つの設定を全ての作業データで共有する方法と、個別に設定する方法があります。設定は各作業データ毎に保持します。

[ツール]メニューのコマンド	
条件設定モニター()	作業途中に面積を計ったり座標を登録などの割り込み処理を行います。
オプション	全体的な設定を行います。
電算プログラム自社点検証明書・検定証明書削除	自社点検証明書・日本測量協会の電算プログラム検定証明書を PDF 形式で出力します。必要な場合は出力後、印刷してお使いください。
電卓	Windows システムの電卓アプリケーションを起動します。 操作方法は、電卓の[ヘルプ]ー[トピックの検索]コマンドを参照してください。
メニューの整理	メニューのグループの整理を行います。
[ウィンドウ]メニューのコマンド	
重ねて表示	複数のウィンドウを開いているとき、タイトルバーが見えるようにウィンドウを重ねて表示します。
上下に並べて表示	複数のウィンドウを開いているとき、重ならないようにウィンドウサイズを等分に調節して上下に並べて表示します。
左右に並べて表示	複数のウィンドウを開いているとき、重ならないようにウィンドウサイズを等分に調節して左右に並べて表示します。
アイコンの整列	ウィンドウを最小化(アイコン化)しているとき、そのアイコンを下の方に整列して表示します。
ウィンドウ名	開いているすべてのウィンドウ名が表示され、作業中のウィンドウ名の横にはチェックマークが表示されます。ウィンドウ名をクリックすることにより作業ウィンドウを切り替えることができます。用紙ウィンドウを開いていないときは、なにも表示されません。
[ヘルプ]メニューのコマンド	
ヘルプ	ヘルプを表示します。
マニュアル	各アプリケーションの PDF マニュアルや資料などを表示します。
クリック個所の機能解説表示 ()	 をクリックすると、マウスポインターがヘルプポインターに変わります。 このヘルプポインターでコマンド(メニュー、アイコン、ファンクションバー)をクリックすると、クリック箇所のヘルプ解説を見ることができます。(表示されない箇所もあります。)
iNetHELP 設定	常時インターネットに接続されているマシンから、最新のヘルプ解説を見ることができます。この機能を使用するには、このコマンドで iNetHELP の設定を有効にしておく必要があります。
武蔵.TV	「武蔵.TV」は、成果品作成に使用できるデータをダウンロードできる総合コンテンツ提供サイトです。
BEST FAQ	サポートセンターに日々寄せられる質問の中から、件数の多いものを厳選して作成した FAQ です。あなたの疑問に、電話によるサポートより早くお応えします。
FC コンシェルジュ	「FC コンシェルジュ」は、製品情報や各地のイベント・セミナー情報、サポート情報やサポートコンテンツなどを、各ユーザー様専用の内容で提供する機能です。
リモートサポート	「リモートサポート」は、電話だけでは解決が困難な場合、インターネットでお客様のパソコンと弊社サポートセンターを接続し、お客様の画面上で弊社のオペレーターが直接操作説明を行います。
バージョン情報()	その他のプログラムのバージョン情報、著作権、ユーザーIDなどを表示します。

座標管理

1

座標管理の画面構成

座標管理の画面まわりの機能を確認します。




座標管理の画面構成

メニューバー	コマンドが関連性のあるコマンドごとにメニューで分類されています。 ここでは、[専用コマンド]と[セル]メニューのコマンドを紹介します。
点番	座標を管理している番号で、座標を利用しているすべてのデータに影響します。 地番を登録後に点番を変更すると、地番構成が変更されたり、計算結果が異なったりすることもありますので、注意してください。
セルの項目	<p>点名: 座標の点名を入力します。</p> <p>座標値: 座標値を入力します。</p> <p>マーク: 座標のプロットマークを設定します。XYZ座標値を入力すると、[専用コマンド]—[デフォルトマーク]で設定したマークが自動入力されます。</p> <p>杭種: 境界標の種類を杭種リストから選択します。</p> <p>点種: 座標の点種を点種リストから選択します。</p> <p>備考: 備考を入力します。項目名は[専用コマンド]—[座標タイトル]で変更可能です。</p> <p>リンク: 座標のリンクデータを設定します。</p> <p>座標ロック: 座標にロックをかけて内容を保護(灰色表示)します。</p> <p>プロット: 座標を現場プロットに表示するかしないかを設定します。</p> <p>プログラム: 座標を登録したプログラム名を表示します。</p>
選択座標を中央に表示	[選択座標を中央に表示]のチェックをオンにすると、セルで選択した座標が、現場プロットの画面中央に表示されます。
リンク表示	座標にリンクしている写真の表示・非表示を切り替えます。

2 座標管理のコマンドの紹介

座標管理のメニューバーのコマンドを紹介します

[専用コマンド]メニューのコマンド	
上位桁	座標管理で座標を登録する場合の X 座標、Y 座標の不変値を設定します。登録される座標は、「上位桁+入力値(正負)」になります。また、上位桁の設定値がマイナスの場合、「上位桁-入力値(正負)」になります。
デフォルトマーク	座標管理で座標を新規登録する時に登録されるプロットマークを設定します。各作業データにおける座標登録時には連動しません。
座標削除	座標管理で、登録座標を行単位で削除します。誤って削除した場合、[編集]-[座標・地番 元に戻す]で、削除座標を復帰させることができます。ただし、一度現場を閉じてしまった場合には復帰できません。
座標移動	登録されている座標を移動します。
座標複写	登録されている座標を複写します。
座標入れ替え	登録されている座標の行を入れ替えます。
座標間詰め	指定した範囲の中に空白の行がある場合、その空白行を詰めます。ただし、不連続の複数行(Ctrl キーを併用した場合の選択方法)は実行されません。
特殊編集-抜出一括訂正	抜出一括訂正ダイアログで、座標管理に登録されている座標を抜き出して、点名、プロットマーク、杭種、点種などを変更し、座標管理に再登録します。
特殊編集-座標同一点チェック	登録座標内で同一座標をチェックします。登録地番の構成点で使用している同一座標は構成点を置き換えます。
特殊編集-点名ソート	選択した登録座標の点名を順番(コード順)に並べ替え(ソート)します。並べ替え対象となった座標が地番構成点に利用されている場合、点番に対する座標値が変更されることになり、その地番の形状が変わります。その場合、地番を登録しなおす必要があります。地番を登録する前に、点名ソートしておくことをお勧めします。[座標・地番アンドゥ](元に戻す機能)は無効です。
特殊編集-CSV 入出力	座標地番アスキーの作業データを作成して、CSV ファイルから座標・地番データを取り込む、または座標管理、地番管理に登録済みの座標・地番を CSV ファイルに出力します。
特殊編集-ファイル名称からのリンク付け	指定したフォルダーに保存されている命名規則に従っているファイルをリンク付けします。
特殊編集-リンクファイルの名称変更	設定した命名規則に従って、リンクファイルのファイル名を変更します。
座標タイトル	座標属性の備考 1、備考 2 の項目名称を設定します。
杭種編集	座標管理の[杭種]セルなどで選択する杭種リストを作成します。正式名称と略称(筆界点のマーク)を 32 種類登録することができます。略称は、筆界点の表記マークとして図面作成時に利用されます。
点種編集	座標管理の[点種]セルなどで表示される点種(境界点、引照点など)のリストを作成します。32 種類の点種を登録することができます。
国土地理院ファイル(TKY2JGD)-読み込み	国土地理院の座標変換プログラム TKY2JGD で出力したファイルを読み込み座標管理に座標を登録します。
国土地理院ファイル(TKY2JGD)-書き込み	《座標管理》の登録座標を、国土地理院の座標変換プログラム《TKY2JGD》で読み込み可能なファイル形式で出力します。

[専用コマンド]メニューのコマンド	
国土地理院ファイル(PatchJGD)－読み込み	PatchJGD・PatchJGD(標高版)・Web 版 PatchJGD 標高版の国土地理院の座標補正プログラムから出力したファイルを読み込み、座標管理に座標を登録します。
国土地理院ファイル(PatchJGD)－書き込み	座標管理の登録座標を、国土地理院の座標補正プログラム PatchJGD で読み込み可能なファイル形式で出力します。
計算書作成	座標プリント・点の記を起動して計算書を作成します。
座標値重複チェック	座標管理で座標を入力する際に、登録座標と同じ座標値を入力しないよう重複チェックします。
行コマンドで地番構成点を同期	座標管理で座標を移動すると、その座標が地番構成点に使われている場合、地番の形が変わってしまいます。[専用コマンド]－[行コマンドで地番構成点を同期]のチェックがオンのときは、座標を移動しても地番の形が変わりません。
強調表示	セル上で選択した座標を、現場プロットで強調表示します。
[セル]メニューのコマンド	
位置－先頭	フォーカス(入力位置を意味する黒四角枠:アクティブセル)を先頭行へ移動します。
位置－末尾	セルのフォーカス(入力位置を意味する黒四角枠:アクティブセル)をデータがある末尾行へ移動します。
位置－ジャンプ	セルのフォーカス(入力位置を意味する黒四角枠:アクティブセル)を指定した行へジャンプします。
位置－検索()	同項目(1列のみ)の内容に関する文字(文字、数字、設定項目)の検索を行います。ただし、検索の対象外の項目([マーク]や[座標ロック]など)があります。
行－行挿入	作業データの各プログラムで、指定行の前に行を挿入します。また、連続範囲であれば、その行数分をまとめて挿入します。座標管理・地番管理では使用できません。
行－行削除	作業データの各プログラムで、指定した行を削除します。削除した行は間詰めされます。座標管理・地番管理では使用できません。
行－行移動	指定した行を上書き移動します。複数行を一括して移動するときは、ドラッグしながら移動する行を選択します。
行－行複写	指定した行を上書き複写(強制的)します。[編集]－[コピー]実行後、[編集]－[貼り付け]を実行しても同様です。複数行を一括して複写するときは、ドラッグしながら複写する行を選択します。
行－行入れ替え	指定した行を、指定先の行と入れ替えます。複数行を一括して入れ替えるときは、ドラッグしながら複写する行を選択します。指定先の複数行は、選択した行数と同じになります。
行－行間詰め	指定した範囲の中に空白の行がある場合、その空白行を詰めます。
一括訂正	選択したセルの登録内容を一括して訂正します。
座標抽出	座標管理に登録されている座標を取り込みます。抽出元や抽出条件を設定することにより、抽出する座標を地番別、杭種や点種、更新日別にすることができます。
地番抽出	地番管理に登録されている地番を、登録されている地番の構成点の順序で取り込みます。抽出元や抽出条件を設定することにより、抽出する地番を求積属性、地目、所有者、住所別にすることができます。
範囲選択	現場プロットで多角形範囲を指定して、範囲内の座標や地番を取り込みます。

[セル]メニューのコマンド	
セルの固定	Enter キー、Tab キーでセルにフォーカスを移動しないように(アクティブセルにならないように)する機能(セル固定)です。ウィンドウ単位で個別に設定することができます。ただし、矢印キーやクリック操作では、フォーカスを移動することができます。(セルの固定機能は効きません。)
セルの固定解除	[セルの固定]で、ロックしたセルを解除します。
オートワイド	アクティブなセルウィンドウのセル項目が全て見えるように、セル項目の幅をウィンドウ幅に合わせて自動調整する機能(オートワイド)を有効にしたり無効にしたりします。
ウィンドウ枠の固定	常に表示したい行と列が、スクロールしても隠れないように固定します。
項目設定	座標管理・地番管理・作業データのセルにある項目列を追加(使用可能状態)、または削除(非表示)します。編集できる項目は、指定したセルにより異なります。
テンプレート管理	セルの状態(項目の種類、幅、順序、オートワイド有無)をテンプレートとして設定します。テンプレートは、座標管理・地番管理・作業データ、スタイルなどの単位で管理することができます。
その他-セルの印刷	アクティブなセルウィンドウ(タブ)の画面イメージをプリンターに印刷します。データのある最終行までのすべてを印刷します。
その他-読み上げ	選択したセルの内容(文字列、数字)を左から右、上から下へ読み上げます。特に、入力した座標値の確認に有効です。読み上げる状態は[読み上げオプション]コマンドで設定します。
その他-読み上げオプション	[読み上げ]実行時の読み上げキャラクタの変更、音量および速度の設定を行います。

地番管理

1 地番管理の画面構成

地番管理の画面まわりの機能を確認します。



地番管理の画面構成

メニューバー	コマンドが関連性のあるコマンドごとにメニューで分類されています。 ここでは、[専用コマンド]メニューのコマンドを紹介します。
地番 No	地番の番号です。地番を登録した後に作業データで発生した新地番を既地番 No へ上書きすると、地番が上書きされます。既地番の構成点の座標が異なりますので注意してください。
セルの項目	地番名: 地番名を入力します。 構成点: 地番の構成点数を表示します。 求積属性: 地番の求積の区分け属性をリストから選択します。 地目: 地目をリストから選択します。 所有者: 所有者を入力します。 直角座標法: 直角座標法での面積計算結果を表示します。 地番ロック: 地番にロックをかけて内容を保護(灰色表示)します。 プロット: 地番を現場プロットに表示するかどうかを設定します。
情報・リンク・地番情報表示	[情報] [リンク] でそれぞれの表示に切り換えます。[地番情報表示] ボタンでは [情報] [リンク] の表示・非表示を切り換えます

2 地番管理一のコマンドの紹介

地番管理のメニューバーのコマンドを紹介します

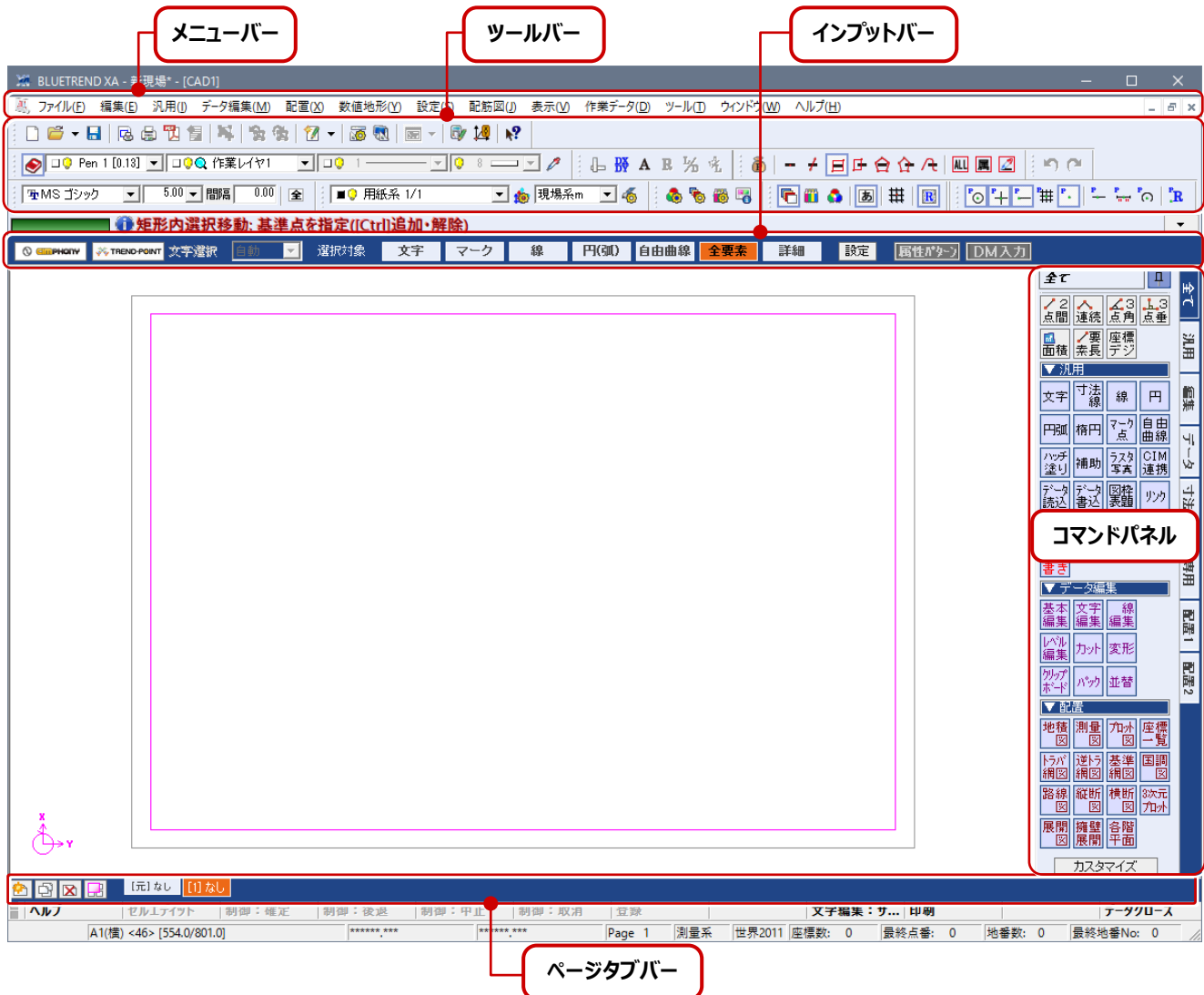
[専用コマンド]メニューのコマンド	
地番登録・編集	地番の情報や構成点、三斜を設定し、地番を登録します。
地番削除	登録されている地番を削除します。削除した地番は、[編集]－[座標・地番元に戻す]で元に戻すことができます。
地番移動	登録されている地番を移動します。
地番複写	登録されている地番を複写します。
地番入れ替え	登録されている地番を入れ替えます。
地番間詰め	指定した範囲の中に空白の行がある場合、その空白行を詰めます。ただし、不連続の複数行 (Ctrl キーを併用した場合の選択方法) は実行されません。
特殊編集－最新の状態に更新	グループ編集モードで、[グループ化]の設定内容を変更した場合は、このコマンドを実行してください。
特殊編集－結線登録	現場プロットにある結線した区画を、地番として地番管理に登録します。構成点は、自動で左回りに登録されます。
特殊編集－構成点編集	地番の構成点を現場プロットで編集します。
特殊編集－地番構成点チェック	複数の地番を入力し、それらの地番構成点が隣接しているか、重複していないかを検索します。隣接していない場合、隣接するように地番構成点を変更することもできます。
特殊編集－入力方法変更	地番構成点の入力方法を変更します。初点の構成点はそのままです。図面作成時の距離値の表示位置をそろえるときに有効です。
特殊編集－地番合成	隣接した複数地番を 1 つの地番として新規登録します。合成した地番は、求積属性 1 として地番登録します。
特殊編集－分筆	地番を分筆します。
特殊編集－合筆	地番を合筆します。
特殊編集－地番名ソート	選択した登録地番の地番名を順番に並べ替えます。地番名ソートで地番 No が変わった場合、その地番は作業データから削除されます。また、行の間詰めを行う場合は、[専用コマンド]－[地番間詰め]と併用します。また、元に戻すことはできません。
特殊編集－地番情報移動	属性の入力内容を、別の属性に移動します。移動は、すべての地番に対して実行されます。BLUETREND XA では、新たに所有者を入力する専用の項目が追加されました。BLUETREND V で、備考に入力されている所有者を一括移動する場合などに使用します。
特殊編集－CSV 入出力	座標地番アスキーの作業データを作成して、CSV ファイルから座標・地番データを取り込む、または座標管理・地番管理に登録済みの座標・地番を CSV ファイルに出力します。
特殊編集－所有者／共有者ファイル出力	所有者、または共有者の情報を、Tab 区切りしたテキストファイルに出力します。テキストファイルの内容をコピーして EXCEL などに貼り付けて編集できます。
特殊編集－ファイル名称からのリンク付け	指定したフォルダーに保存されている命名規則に従っているファイルをリンク付けします。

[専用コマンド]メニューのコマンド	
特殊編集ーリンクファイルの名称変更	設定した命名規則に従って、リンクファイルのファイル名を変更します。
三斜ー一括自動三斜	地番管理で選択した登録地番(複数選択可)の三斜を切ります。
三斜ー一括三斜削除	地番管理で選択した登録地番(複数選択可)の三斜を削除します。
三斜ー一括面積調整	三斜求積されている地番の三斜高さを修正して、三斜求積による面積値を調整します。与えた地番面積(要求面積)から各三斜高さを自動調整して、面積を調整することもできます。ただし、求積値のみ変更し、座標値は変わりません。(図面の求積表の数値として連動します。)
地番タイトル	地番管理の地目関係の項目名、[地番登録・編集]の[地番情報]タブの[所在][地目][備考]項目の名称を設定します。項目名をカスタマイズすることで、使用者の都合に合わせて変更することができます。
地目編集	地番管理などの地目セルで表示される地目リストを作成します。32種類の地目を登録することができます。
大字・字編集	[地番登録・編集]の[地番情報]タブの[大字](おおあざ)、[字](あざ)項目で入力するコードと名称を設定します。
所有者／共有者編集	よく使用する所有者、共有者をマスターとして登録します。
登記情報提供サービス取込み	登記情報提供サービスのサイトから購入できるデータ(PDF・ZIP)をスキャンして、登記情報を地番管理に取り込みます。※オプションプログラムが必要です。
登記 CSV 取込み	14 条地図や地籍調査の業務発注時に法務局から提供される登記情報 CSV ファイル(地番情報)を取り込みます。※オプションプログラムが必要です。
CAD 配置	CAD を起動して、選択した地番の地積図、測量図を作成します。 登記用 XML 作成を起動して、選択した地番の登記用 XML (地積図)を作成します。
計算書作成	地番プリント、面積計算を起動して計算書を作成します。
セル入力で新規登録	[地番登録・編集]を使用しなくても、求積属性セルなどの入力で地番を登録します。発注者より、土地情報をエクセルファイルなどで提供された場合、セル項目を合わせればコピー貼り付けで現場を作成できます。
強調表示	セル上で選択した地番を、現場プロットで強調表示します。

CAD

1 CAD の画面構成

CADの画面まわりの機能を確認します。
























CAD の画面構成

メニューバー	コマンドが関連性のあるコマンドごとにメニューで分類されています。
ツールバー	メニューバーのコマンドの中で使用頻度の高いコマンドが用意されています。 特に[汎用][設定]メニューなど、コマンドのオンオフや現在の設定を常時確認する必要があるコマンドが並べられています。
インプットバー	データ入力・編集時に各項目を設定し、データを入力します。表示される設定項目や実行ボタンは、現在使用しているコマンドや状態に応じて切り替わります。 ※[DM入力]ボタンはDMCADをご購入されていないお客様は使用できません。 ※[CIMPHONY]ボタンはオプションサービスが必要です。 ※[TREND-POINT]ボタンは、TREND-POINTをご購入されていないお客様は使用できません。
コマンドパネル	コマンドを実行するアイコンが並べられたパネルです。[全て][汎用][編集][データ][寸法・補助][専用][配置1][配置2]ごとに、機能を分けてコマンドを配列しています。 コマンドパネルの内容は、[カスタマイズ]ボタンで表示される[カスタマイズ設定]ダイアログで設定できます。
ページタブバー	タブをクリックしてページを切り替えます。プレビューで確認することもできます。

2 CAD のコマンドの紹介








CADのメニューバーのコマンドを紹介します。

[汎用]メニューのコマンド	
制御-確定()	連続してデータを入力する場合などで、最終的に確定する場合に使用するコマンドです。
制御-後退()	データの入力処理の過程、または編集処理の過程で一つ前の入力状態に戻します。
制御-取消()	確定前の入力データやデータの選択範囲などを取り消す場合などに使用するコマンドです。
制御-中止()	実行中のコマンドを終了し、コマンド選択または、オブジェクト選択状態にします。
ページ-元ページ()	元ページを表示します。元ページは、用紙サイズを気にせず編集作業を行って、最後に用紙に割付けることが可能なページです。ただし、元ページでは使用できないコマンドもいくつかありますので、用紙配置後のページで作業を行うなどして対応してください。
ページ-追加()	ページを追加します。最大 100 ページ(元ページ含まず)まで追加できます。
ページ-挿入()	ページを挿入します。最大 100 ページ(元ページ含まず)まで挿入できます。
ページ-削除()	ページを削除します。
ページ-ページ名称変更()	ページ名称を変更します。
ページ-ページ移動またはコピー()	ページを移動、またはコピーします。
ページ-ページ選択()	ページを複数選択します。
ページ-ページ選択解除()	ページの複数選択を解除します。
ページ-前ページ()	前ページへ移動します。
ページ-次ページ()	次ページへ移動します。
ページ-一覧()	ページを一覧表示して、編集する図面のページを選択します。
ページ-配置()	元ページのデータに用紙を配置して図面を作成します。
ページ-同期()	元ページから配置した各ページのデータの同期をとります。
ページ-元ページに合成()	各ページの図面を元ページに取り込みます。
ページ-作業情報()	各ページの図面を元ページに取り込みます。
ページ-初期ページ設定	作業データ新規作成時のページの作成を設定します。
表示-範囲拡大()	指定範囲を拡大します。
表示-倍率拡大()	表示範囲を、一定倍率で拡大します。

























[汎用]メニューのコマンド	
表示-倍率縮小()	表示範囲を、一定倍率で縮小します。
表示-移動(枠指定)()	表示範囲を移動します。
表示-原図()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。ただし、原図領域が設定されている場合は、原図領域が原図範囲となります。
表示-原図領域()	表示範囲を、原図コマンドで表示する「原図領域」に設定します。
表示-データ領域()	データ(ラスタデータも含む)が画面内に収まるように表示します。 レイヤ設定・レベル設定・ペン設定で表示オンになっているデータが対象です。
表示-前表示()	表示範囲、表示率を 1 つずつ戻します。ただし、戻せる回数は 5 回までです。
表示-再描画()	画面内容を表示し直します。
表示-概略実寸()	表示領域を、図面上の長さそのままに表示されるように画面を設定します。
表示-文字列検索()	表示されている点番、点名、地番などの中から、指定した文字列を検索して、画面の中心に表示します。引出線、寸法線の文字列も検索対象となります。
表示-図面モニター()	用紙の全体図でイメージ表示する図面モニターの表示、非表示を切り替えます。
表示-ルーペ()	CAD 画面内のマウスポインターの位置を中心とした拡大画面を表示するルーペの表示、非表示を切り替えます。
表示-3D 情報訂正()	標高を持ったデータを 3 次元的に見ることが可能で、立体的な形状を見ながら標高の訂正などが行えます。
表示-3D ビュー()	3D ビューを表示します。
表示-エリアコントロール確認 ()	SXF 既定義ハッチング:Area_Controlが入力されている領域を選択状態にします。Area_Control は、「図面に表示するパターンがない」という定義のハッチング要素になります。面積を計算する範囲を明確にして、SXF 属性を付加させる事を主な用途としています。
計測-2 点間の距離方向角()	指定した 2 点間の距離および方向角を表示します。
計測-一点と線の距離方向角()	任意の点と直線を指定して、その間におろせる垂線の距離および方向角を表示します。表示する実際の距離、および実際の方向角は、レベルの縮尺、回転角に影響します。
計測-連続距離()	図面上で連続的に点を指定していき、その総延長を表示します。
計測-3 点内角()	3 点を指定して、内角(1 点目から 2 点目の進行方向に対して右回りの角度)を表示します。
計測-3 点垂直()	指定した 2 点と任意の点との距離を表示します。
計測-斜距離()	任意の 2 点を指定し、2 点の Z 座標を入力して斜距離を表示します。斜距離は、レベルに影響します。ただし、指定した 2 点がプロットマークの場合、そのマークを入力したレベルが有効になります。
計測-斜面積()	図面上の任意の 3 点を指定し、指定した 3 点の Z 座標を入力して斜面積を表示します。斜面積は、レベルに影響します。ただし、指定した 3 点がプロットマークの場合、そのマークを入力したレベルが有効になります。
計測-面積()	面積を表示します。面積は、レベルの縮尺に影響します。














[汎用]メニューのコマンド	
計測-要素長()	線、円、円弧、自由曲線、クロソイド要素の要素長を表示します。
計測-合計()	CAD で複数選択した文字列(数値)を合計し、合計値を配置します。
計測-データ量の状態()	図面に入力されている要素数(データ数)を表示します。
計測-座標デジタイズ()	任意の点を指定して、用紙座標上のX、Y座標値、現場座標上のX、Y、Z座標値を表示します。
文字-入力()	文字列を入力します。
文字-引出線()	要素を指定して、関連する文字列を引き出します。文字、線、マーク、引出線が対象です。
文字-三斜引出()	三斜高さ線、底辺の長さの文字列を引き出します。三斜高さ線、三斜符号が対象です。
文字-赤書き()	赤書きを入力します。文字、引出線の文字、寸法線の文字が対象です。
寸法線-水平・垂直(要素)()	要素指定で図形の水平・垂直距離の寸法値を入力します。
寸法線-水平・垂直(任意)()	任意にクリックした点間の水平・垂直距離の寸法を入力します。
寸法線-水平・垂直(2点)()	任意の2点間に対して、水平距離および垂直距離を寸法入力します。
寸法線-引出点指示()	寸法線の方法を設定して、任意点間の距離を寸法入力します。
寸法線-直線指示()	直線指定で寸法を入力します。
寸法線-2点指示()	任意の2点を指定して、2点間の距離を寸法入力します。
寸法線-連続線()	任意の各点を連続して指定し、各直線距離を寸法入力します。
寸法線-角度()	3点を指定して、3点の角度寸法を入力します。または、要素(線・円・円弧)を指定して角度寸法を入力します。
寸法線-直径()	円または円弧を選択して、直径を寸法入力します。
寸法線-半径()	円または円弧を選択して、半径を寸法入力します。
寸法線-弧長・円周()	円を選択して、円周を寸法入力します。または、円弧を選択して、円弧の長さを寸法入力します。
寸法線-連続弧長()	円または円弧を指定して区切った円弧の長さで寸法を入力します。
寸法線-円弧半径()	円弧を指定して半径寸法を入力します。
寸法線-勾配()	2点指定で勾配寸法を入力します。
寸法線-要素と点の距離()	直線、円、円弧に対して任意の点までの寸法を入力します。道路などの寸法を出す場合に使用します。
寸法線-3点垂直()	指定した2点の補助線に対して任意の点までの寸法を入力します。
寸法線-斜め()	寸法線、または補助線を斜めに入力します。
寸法線-並列・直列()	寸法線要素(直線寸法・角度寸法・弧長寸法)を指定して、その寸法線と並列または直列に入力します。
















[汎用]メニューのコマンド	
寸法線—寸法値再計算 ()	補助線の位置を移動して寸法値を再計算します。寸法線要素が対象です。寸法値は、[入力属性設定]で設定した縮尺を元に再計算します。円周寸法は再計算できません。
寸法線—寸法合成 ()	寸法を合成します。寸法線要素で作成した平行な直線寸法のみ対象です。
寸法線—寸法分割 ()	寸法を分割します。寸法線要素で作成した直線寸法のみ対象です。
寸法線—寸法高調整 ()	寸法の高さを調整します。寸法線要素で作成した直線寸法・角度寸法・弧長寸法が対象です。[寸法線]—[連続線]で入力した複数の傾きを持った寸法線の高さ調整はできません。
線—入力 ()	図面上の任意位置を指定して、直線を連続入力します。
線—入力(基準線) ()	方向角の基準となる線を指定して、入力する直線の始点から通過点までの距離と、基準線からの角度を入力して線を作成します。
線—折線 ()	折線(直角固定折線)を連続入力します。
線—垂線 ()	基準線(直線、円、円弧、クロソイド)から、垂線を入力します。
線—連続平行線 ()	基準となる線に対する平行線を距離指定で入力します。
線—平行線 ()	基準となる線を指定し、その基準線に対して平行線を入力します。
線—接線 ()	円、円弧に対して、他方の円、円弧、または指定した点に接線を入力します。円弧を選択した場合、円と同様に円周上に接線を作成しますので、円弧がない所にも接線が作成される場合があります。
線—等分線 ()	基準となる線を指定し、その基準線に対して等分線を入力します。
線—ヒゲ線 ()	ヒゲ線を入力します。
線—矩形 ()	矩形を入力します。
線—正多角形 ()	正多角形を入力します。
線—表 ()	表を入力します。
円—中心半径 ()	中心、半径指定で円を入力します。
円—内接円 ()	基準となる三角形頂点 3 点を指定して、三角形に内接する円を入力します。
円—外接円 ()	基準となる三角形頂点 3 点を指定して、三角形に外接する円を入力します。
円—平行 ()	基準となる円を指定して平行円(同心円)を入力します。
円—接円 ()	基準線に接する円を直径指定で入力します。
円—内角接円 ()	2 直線の内角に接する円を、半径の位置指定で入力します。
円—直径 ()	直径をマウス指定し円を入力します。
円—中心半径角度 ()	中心点、半径、円の開始角・終了角を指定して円弧を入力します。
円—2 点半径 ()	円弧の始点・終点、半径指定で円弧を入力します。
円—3 点弧(内接) ()	3 点を指定して、その 3 点内角に接する円弧を入力します。

















[汎用]メニューのコマンド	
円-3点弧(外接) ()	3点を指定して、その3点に外接する円弧を入力します。
円-接円弧 ()	基準線指定で接円弧を入力します。 基準線は、線、上下線、円、円弧が対象です。
円-円弧伸縮 ()	円弧の線を延長、または短縮します。
楕円-中心半径 ()	中心半径指定で楕円を入力します。
楕円-矩形 ()	矩形指定で楕円を入力します。
楕円-楕円弧中心半径 ()	中心半径指定で楕円弧を入力します。
楕円-楕円弧矩形 ()	矩形指定で楕円弧を入力します。
マーク・点-マーク入力 ()	マークを入力します。
マーク・点-点番名 ()	座標管理で登録されている座標を抽出してマークを入力します。
マーク・点-地番指定 ()	地番管理に登録されている地番構成点を抽出してマークを入力します。
マーク・点-縦横断データ指定 ()	縦横断データを指定して、現況変化点にプロットマークを入力します。
マーク・点-路線データ指定 ()	路線データを指定して、現況変化点にプロットマークを入力します。
マーク・点-点入力 ()	任意位置を指定して、点を点要素として入力します。
自由曲線-入力 ()	任意点を指定して自由曲線を入力します。
自由曲線-点等分 ()	任意点を入力して自由曲線を作成し、入力した自由曲線間にも自由曲線を自動的に作成します。
自由曲線-線等分 ()	指定した2つの自由曲線の間に、自由曲線を入力します。
自由曲線-平行線 ()	自由曲線の平行線を入力します。
自由曲線-標高配置 ()	標高値を入力します。
自由曲線-標高訂正 ()	自由曲線の標高を訂正します。
自由曲線-制御点編集 ()	自由曲線の制御点を編集します。
自由曲線-コンタ範囲移動 ()	基準の通過点・移動先を指定し、編集範囲に含まれる全ての通過点を移動することで、コンタ線(等高線)を編集します。コンタ線(等高線)とは、自由曲線になります。通過点の合計が1000点まで、同時編集できます。
自由曲線-コンタ標高点補正 ()	標高点2点を指定して、標高点とコンタ線(等高線)の標高から通過点を移動し、標高点間のコンタ線と標高点付近のコンタ線(基準線の端を10mm延長したものと交差するコンタ線)の形状を編集します。標高点は、高さを持った点・マーク・測点要素、線分要素の端点が対象です。コンタ線(等高線)とは、標高(Z座標)を持った自由曲線になります。通過点の合計が1000点まで、同時編集できます。
自由曲線-連続線のコンタ化 ()	任意の数の連続線を指定し自由曲線を作成します。また、作成する自由曲線のハンドルの編集も行うことができます。








[汎用]メニューのコマンド	
自由曲線-コンタ自動入力()	Z 座標を持つ測点、および CAD データ(マーク、線、円、円弧、自由曲線、上下線、点、補助点)に対して自動的にコンタ線を配置します。
ハッチング・塗り-ハッチング()	ハッチングを入力します。
ハッチング・塗り-ハッチング中抜き()	ハッチング要素の領域内を中抜きします。 ハッチングパターン(アイテム)が、黄色のものが対象です。
ハッチング・塗り-塗り潰し()	塗り潰しを入力します。
ハッチング・塗り-塗り潰し中抜き()	塗り潰しを中抜きします。
ハッチング・塗り-編集()	塗り潰し・ハッチングの領域枠通過点を編集します。塗り潰し、ハッチング要素(ハッチングパターン(アイテム)が黄色のものが対象です。
ハッチング・塗り-マスク()	マスク要素(背景色と同一色の塗り潰し要素)を入力します。
補助-任意線()	補助線を入力します。
補助-平行線()	基準線(連続線、上下線、補助線)を指定し、平行補助線を入力します。
補助-挟角線()	基準線(連続線、上下線、補助線)を指定し、その基準線に対して、数値入力した角度だけ傾いた補助線を作成します。
補助-任意点()	任意の位置に補助点を入力します。
補助-線の中点()	線分・連続線を指定して、中点に補助点を入力します。
補助-円の中心()	円・円弧・楕円・楕円弧を指定して中心点に補助点を入力します。
補助-要素の端点()	線分・連続線・自由曲線・円弧・楕円弧の端点に補助点を入力します。
補助-オフセット点(要素指定) ()	線、円、円弧、クロソイド要素を指定し、端点、または、指定点からオフセット距離を設定して補助点を入力します。
補助-オフセット点(2点指定) ()	2点指定でオフセット距離を設定して補助点を入力します。
補助-4点交点()	4点を指定して、1点目と2点目を通る直線と3点目と4点目を通る直線の交点に補助点を入力します。
補助-2円の交点()	円の中心点位置と半径数値を入力した2つの円の交わる点に補助点を入力します。
補助-垂線の足(要素指定) ()	線・円・円弧・クロソイド要素を指定して、任意点から指定した要素に対しておろした垂線の足に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。
補助-垂線の足(2点指定) ()	2点指定で、任意の点から指定した2点間の延長線上に対しておろした垂線の足に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。
補助-垂直点()	線・円・円弧・クロソイドを指定して、指定した要素に対しておろした垂直線上に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。
補助-等分割(要素指定) ()	線・円・円弧・クロソイドを指定して、分割した点に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線が対象です。

[汎用]メニューのコマンド	
補助-等分割(2点指定) ()	2点を指定して、指定した2点間を等分割した点に補助点を入力します。
補助-コンタ割付 ()	図面上で任意の2点を指定してその2点に標高を与え、2点間のピッチを入力します。
補助-重心(入力) ()	指定範囲の重心に補助点を入力します。
補助-重心(選択) ()	閉合図形の重心に補助点を入力します。
補助-全削除 ()	補助点・補助線を全削除します。
ラスタ・写真-配置 ()	ラスタデータ(画像・写真)を配置します。
ラスタ・写真-書込み ()	ラスタデータをファイルに書き込みます。
ラスタ・写真-訂正 ()	ラスタデータを訂正します。レイヤ設定・レベル設定で非表示またはレイヤ設定で検索オフのラスタデータも対象です。
ラスタ・写真-部分編集 ()	ラスタデータを部分的に編集します。
ラスタ・写真-削除 ()	ラスタデータを削除します。
ラスタ・写真-移動・回転・伸縮 ()	ラスタデータを移動・回転・伸縮します。
ラスタ・写真-サイズ変更 ()	ラスタデータを移動・回転しサイズ変更します。
ラスタ・写真-合成 ()	個々に配置したラスタデータを合成します。
ラスタ・写真-モノクロ化 ()	カラーラスタデータをモノクロ化(白黒2値化)します。
ラスタ・写真-前面へ ()	ラスタデータ内で描画順(表示順)を前面へ移動します。
ラスタ・写真-背面へ ()	ラスタデータ内で描画順(表示順)を背面へ移動します。
ラスタ・写真-レタッチ ()	ラスタデータに対して、文字の追加や不要な部分の削除、必要な情報の追記などの編集を、別アプリケーションで行います。既に配置したラスタデータに対して、別アプリケーションで編集できることにより、別アプリケーションで編集→再度、ラスタデータを取り込んで配置などの処理軽減に有効です。
ラスタ・写真-解像度変更 ()	比率指定で、ピクセル数を減少させ、ラスタデータの解像度を変更します。解像度を低くする事により、画像が粗くなる状態になりますが、ファイルサイズが小さくなり、画像の処理時間を短縮します。
ラスタ・写真-ゴミ取り ()	ラスタデータの指定ドット数以下の領域を除去します。モノクロラスタデータが対象です。
ラスタ・写真-穴埋め ()	ラスタデータの指定ドット数以下の領域を穴埋めします。モノクロラスタデータが対象です。
ラスタ・写真-細線化 ()	ラスタデータの指定領域の線幅を細くします。モノクロラスタデータが対象です。
ラスタ・写真-太線化 ()	ラスタデータの指定領域の線幅を太くします。モノクロラスタデータが対象です。
ラスタ・写真-輪郭化 ()	ラスタデータの指定領域の輪郭を抽出します。モノクロラスタデータが対象です。
ラスタ・写真-n点補正 ()	ラスタデータをN点補正します。N点補正は、補正元(ラスタデータ上の指定点)が、補正先(CAD画面上の指定点)に一致するように補正します。補正点は3点以上で、補正元は、ラスタデータ領域内のみ指定可能です。
























[汎用]メニューのコマンド	
ラスタ・写真-メッシュ補正 ()	ラスタデータをメッシュ補正します。メッシュ補正は、ラスタデータ上にメッシュを はり、ラスタデータの任意点をメッシュ交点に移動することで補正します。メッシュ の基点は、必ず、ラスタデータ内になります。任意点の補正先は、必ず、ラスタデ ータ内のメッシュ交点になります。また、複数の任意点を1つのメッシュ交点に割 り当てることはできません。
ラスタ・写真-GeoTIFF 配置 ()	GeoTIFF を配置します。
ラスタ・写真-GeoTIFF 書込み ()	配置済みのラスタデータを GeoTIFF として書き込みます。
CIMPHONY 連携-同期 ()	CIMPHONY の作業データ(図面)と連携し、データのアップロード/ダウンロード を行います。※オプションサービスが必要です。
CIMPHONY 連携-連携解除 ()	CIMPHONY の作業データ(図面)との連携を解除します。現場との連携は解除 されません。現場との連携を解除する場合は、メインメニューの[ファイル]- [CIMPHONY 連携]-[現場連携解除]で行います。 ※オプションサービスが必要です。
CIMPHONY 連携- 現地調査 図面データ ()	CIMPHONY から現地調査 図面データを取り込みます。(ダウンロードのみ可 能です。)現地調査 図面データとは、弊社のスマホアプリ 現地調査ツール で 作成したデータ(図面)です。※オプションサービスが必要です。
TREND-POINT 連携-連携開始	TREND-POINT との連携を開始します。連携するには、TREND-POINT が起 動している必要があります。連携している間はメニューがピンク色になります。 連携中は座標系が強制的に「測量系」になります。連携が成功すると自動で作 図エリアの作成に移行します。
TREND-POINT 連携-連携終了	TREND-POINT との連携を終了します。
TREND-POINT 連携-作図エリア	TREND-POINT の点群画像を背景として、作図エリアを作成します。 ※断面/立面図での作図エリア変更はできません。
TREND-POINT 連携- 点群画像の更新	作図エリアコマンドで点群画像を配置後、[設定]ダイアログで解像度の変更を したときや、TREND-POINT 側の表示を変更した場合に更新します。
TREND-POINT 連携- 外周自動作成	構造物などの外周線を自動作成します。断面/立面図が対象です。
TREND-POINT 連携-設定	TREND-POINT との連携を設定します。
リンク-編集 ()	要素へのリンクデータを編集(追加・変更・解除)します。文字、引出線、プロット マーク、塗り潰し、ハッチング要素が対象です。このコマンド実行中は、リンクデ ータのある要素にピンが表示されます。
データ読み込み-SXF ()	SFC/P21 形式のデータを読み込みます。
データ読み込み-SXF 一括 ()	SXF データを一括して読み込みます。
データ読み込み-DXF・DWG ()	DXF・DWG 形式のデータを読み込みます。
データ読み込み-JWC・JWW ()	JWC・JWW 形式のデータを読み込みます。
データ読み込み-アスキー ()	アスキー形式のデータを読み込みます。
データ読み込み-EXCEL ()	EXCEL データを CAD 要素(線や文字要素)に変換して読み込みます。 Microsoft Office Excel(Microsoft Excel)がインストールされている必要が あります。























[汎用]メニューのコマンド	
データ読み込み-シェープファイル ()	シェープファイルを CAD データに変換して配置します。
データ読み込み-基盤地図情報 ()	基盤地図情報ファイル(*.xml)を読み込み CAD データに変換して配置します。 ※オプションプログラムが必要です。
データ読み込み-数値地図 2500 ()	国土地理院発行の数値地図2500(空間データ基盤)のデータを読み込みます。 読み込み前に[作業情報]の座標系を確認しておいてください。
データ読み込み-既図面()	現ページの図面に同一現場データの CAD、登記用 XML 作成の図面を読み込んで合成します。
データ読み込み-デジトレース()	デジタイザ(タブレット、プラニメータ)から図面上に座標点、線、自由線データなどを入力して図形データを作成します。
データ読み込み-拡張 DM()	拡張 DM データを読み込みます。
データ読み込み- 公共測量作業規程 DM()	公共測量作業規程 DM のデータを読み込みます。
データ読み込み-JSP・SIMA-DM ()	JSP・SIMA-DM フォーマットのデータを読み込みます。
データ読み込み-X-FIELD データ ()	X-FIELD データ(*.XFD)内の CAD データ・座標データ・観測データを読み込みます。X-FIELD データ(拡張子 XFD)とは、[X-FIELD] (現場端末システム)のデータ形式の名称です。データの合成を行いたいときなど、このコマンドを使用して読み込み、編集中のデータ上に読み込んだ要素や観測データを追加したりします。
データ読み込み- XYCLONE・Field com データ ()	XYCLONE データ(拡張子 UCM)とは、[XYCLONE] (現場端末システム)のデータ形式の名称です。Field com データ(拡張子 BDM)とは、[BLUETREND Field com] (デジタル地形測量システム)のデータ形式の名称です。データの合成を行いたいときなど、このコマンドを使用して読み込み、編集中のデータ上に読み込んだ要素や観測データを追加したりします。
データ読み込み- X-FIELD・XYCLONEトラバ座標	トラバース座標データ(拡張子 fct)とは、X-FIELD トラバース計算・XYCLONE トラバース計算・Field com トラバース計算で作成されたデータ形式の名称です。トラバース計算で計算された座標を読み込みます。
データ読み込み-POCKET 取込み ()	POCKET データを取り込みます。POCKET 現況観測データ(pcp)、POCKET 電子野帳データ(pro)、POCKET 建物野帳データ(bld)が対象です。
データ読み込み-PDF 取込アシスト	PDF ファイルをラスター・ベクタ変換して配置します。
データ書き込み-SXF()	データを SFC/P21 形式に変換してファイルに書き込みます。
データ書き込み-SXF 一括()	全ての図面を SXF データに一括変換します。保存フォルダーには、図面の SXF データと電子納品ツールで利用可能な図面情報管理ファイル(図面情報.BXM)を出力します。図面情報管理ファイルで出力する図面名・作成者名・縮尺・図面番号は、[図面・表題]の設定(図面名・受注会社名・尺度・図面番号)を適用します。縮尺は[レベル設定]で設定した図面の縮尺情報ではないのでご注意ください。
データ書き込み-DXF・DWG()	データを DXF・DWG 形式に変換してファイルに書き込みます。
データ書き込み-JWC・JWW()	データを JWC・JWW 形式に変換してファイルに書き込みます。
























[汎用]メニューのコマンド	
データ書込みーアスキー()	データをアスキー形式に変換しファイルに書き込みます。
データ書込みーEXCEL()	CAD 要素(線や文字要素)を EXCEL データに変換して出力します。 Microsoft Office Excel(Microsoft Excel)がインストールされている必要があります。
データ書込みーシェープファイル()	現在開いているページの CAD データをシェープファイルに変換します。
データ書込みーMIF()	データを MIF 形式に変換してファイルに書き込みます。MIF データは、三井造船システム技研が定義した MapInfo(Mapinfo Interchange Format)の標準データ形式です。これを利用して各社 GIS システムへのデータ連動が可能となります。
データ書込みー画像出力()	図面を画像データ(JPEG・TIFF)で出力します。 ※OLE オブジェクトを画像に出力することはできません。
データ書込みー 拡張メタファイル(EMF)()	矩形指定した領域を拡張メタファイルに変換してファイルに出力します。 ラスタデータは出力しません。
データ書込みー拡張 DM()	拡張 DM データに変換します。 元ページを除くページの図面が出力対象になります。
データ書込みー 公共測量作業規程 DM	データを公共測量作業規程 DM のデータに変換してファイルに書き込みます。 元ページを除くページの図面が出力対象になります。紙内枠四隅を図郭座標として出力します。
データ書込みーJSP・SIMA-DM	JSP・SIMA-DM データに変換しファイルに書き込みます。
データ書込みーX-FIELD データ()	CAD データ・座標データ・観測データを、X-FIELD データ(*.XFD)に変換しファイルに書き込みます。CAD データに関連付いているリンクデータが存在する場合は、XLF ファイルも同時に出力します。
データ書込みーGoogle Earth()	図面の情報を Google Earth 上に表示できるファイル(*.kmz)を出力します。 Google Earth がインストールされていれば、ファイル出力後に Google Earth を起動して表示します。 ※Google Earth は、Google から無料で提供されている世界中の衛星写真を閲覧できるソフトです。
図枠・表題欄ー図枠()	普通用紙の図面に対して図枠、トンボ、方眼、目盛を設定配置します。
図枠・表題欄ー国調枠()	普通用紙の図面に対して国調枠(国土調査法に基づいた枠)を配置します。
図枠・表題欄ー地積枠()	地積用紙の図面(地積図)に対して、地積枠を配置します。
図枠・表題欄ー申請書()	申請書を作成する際に必要な項目を設定して図面に出力します。
図枠・表題欄ー申請書一括配置()	申請書を作成する際に必要な項目を設定して図面に一括出力します。
図枠・表題欄ー複数枠イメージ()	複数のページにまたがって図面を作成したとき、現ページの用紙位置を示す複数ページ全体のイメージ図を配置します。このコマンドは、専用の各コマンドで作成した図面データのあるページでのみ複数枠イメージ図を入力することができます。
図枠・表題欄ー筆界特定図枠()	筆界特定制度に基づく図面の図枠を配置します。

[汎用]メニューのコマンド	
図枠・表題欄—表題欄()	図面表題欄を入力します。図面表題欄は、1 ページに 1 つしか作成できません。
図枠・表題欄—表題欄一括配置()	表題欄を一括配置します。
特殊図形—特殊線()	境界線、徒歩道、トンネル内の通路など特殊線を指定して入力します。あらかじめシンボル登録しておけば、シンボルを参照して任意形状の特殊線を入力することも可能です。
特殊図形—特殊記号()	特殊記号を入力します。家、塀、階段などあらかじめ登録されている特殊な記号を指定して図面上に入力します。
特殊図形—シンボル入力()	神社、寺院などシンボルを指定して、図面上に入力します。
特殊図形—シンボル登録()	図形を選択してシンボルとして登録します。
特殊図形—方位入力()	方位マークを指定して、図面上の任意の位置に配置します。固定レイヤ(方位マーク)に入ります。
特殊図形—方位登録()	図形を選択して方位マークとして登録します。
特殊図形—パラメトリック入力()	パラメトリック図形を選択して設定されている変数に値を入力して図面に配置します。
特殊図形—パラメトリック登録()	図形を選択して、パラメトリック登録します。
特殊図形—パラメトリック編集()	図形を選択して、パラメトリック設定内容を変更します。
特殊図形—数量計算表配置()	数量計算表を配置します。
特殊図形—数量計算訂正()	数量計算表を訂正します。
特殊図形—数量計算編集()	数量計算編集を起動して、数量計算表のマスターを作成、編集します。
特殊図形—部品作成()	部品を作成し部品管理に登録します。
特殊図形—部品配置()	部品を入力します。
特殊図形—部品管理()	部品の名称変更、削除、部品のファイル化などを行います。
特殊図形—手書きメモ()	手書きメモを入力します。
現況—法面()	法面記号を配置します。
現況—法面自動入力()	要素が持つ標高値を取得して、法面記号を自動配置します。
現況—法面記号平行移動()	斜面記号要素を上下線の領域内で平行移動します。
現況—安全地帯()	安全地帯を入力します。 立ち入り禁止部分・導流帯・ゼブラ帯などにも有効です。
現況—センターライン()	センターラインを入力します。



















[汎用]メニューのコマンド	
現況－横断歩道()	横断歩道を入力します。
現況－建物成形()	建物形状を入力します。建物のでっぱっている角の点を観測し、建物形状を入力するのに有効です。
現況－グレーチング()	道路のグレーチングを入力します。
現況－連続線の直線化()	歪んでいる連続線を指定して、直線化補正を行います。
現況－平行垂直に補正()	歪んでいる連続線を指定して、基準線に対して平行・垂直に補正します。平行・垂直補正の判断は、基準線との角度から自動判断します。線分、連続線、補助線が対象です。
測量－座標地番登録()	任意位置から座標値を抽出して、座標管理に座標、地番管理に地番を登録します。
測量－座標結線()	任意点を指定し指定した点間に線を結んで距離、勾配、方向角を表示します。
測量－座標値プロット()	座標値をプロットします。
測量－交点計算()	CAD上で交点計算することができます。計算結果の座標管理への登録や、交点計算への作業データ化が可能です。
測量－拡大図()	部分拡大図を配置します。
測量－簡易図()	簡易断面図を作成します。または、縦、横の数値入力で簡易図を作成して、図面上に配置します。
測量－注釈()	文字列を指定して注釈を入力します。
測量－面積調整(点)()	移動点指定で、閉合領域の面積を調整します。閉合領域は、線分・連続線・補助線でできた閉合領域です。円弧や自由曲線を含む閉合領域は指定できません。図形の中に図形があるものは、外側の面積のみ調整可能です。面積の調整は、指定点を挟む図形の2辺で構成される三角形の面積を調整します。
測量－面積調整(線)()	移動線指定で、閉合領域の面積を調整します。閉合領域は、線分・連続線・補助線でできた閉合領域です。円弧や自由曲線を含む閉合領域は指定できません。図形の中に図形があるものは、外側の面積のみ調整可能です。
測量－杭凡例()	座標管理に入力されている[杭種]から凡例表を作成して配置します。 表のフォームはフリーフォーマット作成の[CAD]－[杭凡例]で作成または変更することができます。
測量－登記情報配置()	地番管理、各階平面図の情報を取り込んで、CAD上に文字列を配置します。
測量－基準点計画チェック()	CAD上に基準点測量計画を作成し、作業規程に沿っているかチェックします。 あらかじめレベルを設定し、背景地図(ラスタ等)と既知点となるプロット点を配置してある状態で、[基準点計画チェック]を実行してください。
測量－ヘロン三斜()	ヘロン・三斜図と面積表を入力します。
測量－断面図()	平面図のセンター・左右端点を指定して横断面図を作成します。
測量－クロノイド入力()	パラメータを指定してクロノイド曲線をクロノイド要素で入力します。
測量－オフセット線入力()	オフセット線を入力します。
測量－路線図旗上げ()	路線図のデータを指定して旗上げを入力します。
測量－縦断面図旗上げ()	図面上で旗上げを入力します。

[汎用]メニューのコマンド	
測量－標高値プロット()	設定されている引出線タイプにしたがって、標高値や距離値、レベル記号などを配置します。
測量－導流路()	車線(線・円弧)を指定して、導流路を入力します。
測量－車両軌跡()	車両軌跡を入力します。
測量－法枠配置()	法枠を配置します。
測量－土量計算()	土量(数量)を計算し、土量計算表を作成します。EXCEL データに変換して出力することもできます。CSV ファイルの出力も可能です。
測量－土工区分線()	指定した領域に土工区分線を入力します。
測量－ベクトル図()	ベクトル図を入力します。ベクトル図とは、座標補正による変動量を図化し、補正前後の座標値と変動量を表配置したものです。
測量－用地支援()	用地情報の配置と、現地で測量したデータを元に地番の登録を行います。
SXF属性－属性マスター()	SXF属性のマスターを設定します。
SXF属性－属性入力確認()	要素、パック(要素の上位グループ)、ラスタデータ(画像)にSXF属性を付加します。
SXF属性－属性一覧()	要素、パック(要素の上位グループ)、ラスタデータ(画像)に付加したSXF属性、ターゲットの確認・編集を行います。
SXF属性－属性複写()	要素、パック(要素の上位グループ)、ラスタデータ(画像)に付加したSXF属性を他の要素、パック(要素の上位グループ)、ラスタデータ(画像)に複写します。
SXF属性－属性一括()	要素、パック(要素の上位グループ)にSXF属性を付加します。
朱書き－雲形()	雲形(雲の形をした枠)を入力します。
朱書き－吹出()	吹出しを入力します。
朱書き－フリーハンド()	自由線を入力します。
朱書き－文字列()	文字または文章を入力します。テキストファイルから文章を読み込んで入力することも可能です。
朱書き－図形引出線()	指定した位置を枠で囲み、引出し文字を入力します。
朱書き－図形引出線(TEXT) ()	指定した位置を枠で囲み、引出し文章を入力します。
朱書き－レ点()	レ点を入力します。
ラスベク変換－一括変換(全体) ()	ラスタデータ全体を、ベクトルデータに一括変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
ラスベク変換－ 一括変換(矩形指定)()	変換する領域を矩形で指定し、ベクトルデータに一括変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
ラスベク変換－ 一括変換(多角形指定)()	変換する領域を多角形で指定し、ベクトルデータに一括変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。

[汎用]メニューのコマンド	
ラスベク変換一括変換設定 ()	ラスタデータをベクトルデータに一括変換する設定を行います。
ラスベク変換自動追従()	指定点から連続するラスタデータを、連続線に変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。地図や等高線などを部分的に変換したい場合や、平面図の外枠だけを変換したい場合などに有効です。
ラスベク変換閉合図形ベクトル化 ()	指定した閉合領域を変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
ラスベク変換輪郭ベクトル化 ()	指定点を含む塗り潰し領域の輪郭を変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
ラスベク変換コンタレース ()	指定した2点と交差するラスタデータを、標高を持った自由曲線に変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
ラスベク変換トレース設定()	自動トレースで変換する設定を行います。
ラスベク変換ラスタスナップ ()	ラスタデータの端点、交点に補助点を入力します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
ラスベク変換スナップ設定 ()	ラスタスナップの設定を行います。
CAD 製図基準チェック()	図面をCAD製図基準に従ってチェックします。
[データ編集]メニューのコマンド	
移動()	データを移動します。
複写()	データを複写します。
訂正()	データを訂正します。
一括訂正()	データを一括訂正します。
削除()	データを削除します。
ページ間編集()	現在のページに、他ページからデータを複写、または移動します。
スタンプ()	データをスタンプします。
配列複写()	データを配列複写します。データを一定間隔で複数複写したい場合に有効です。
回転()	データを回転します。
移動・回転()	データを移動・回転します。
ミラー()	データを鏡像移動(複写)します。
伸縮()	データを伸縮します。
分解()	データを分解します。

[データ編集]メニューのコマンド	
属性スタンプ()	データの属性を複写します。補助点、補助線、測点、マスク、手書きメモ、部品、ハッチングを除く要素が対象で、同一要素に対する属性複写です。
スポイト()	データの属性を取得し、[入力属性]ツールバーを取得した属性に変更します。ただし、作業レイヤ以外のレイヤ属性、矢印属性を持たない要素の矢印属性、部品要素の属性は取得できません。
属性移動()	データが持つ属性を移動します。属性は、共通属性であるレイヤ、ペン、レベル、線種、カラーで、各要素が持つものが対象です。
DMレイヤー括変換()	DMレイヤのデータを作業レイヤに変換します。
復帰()	削除された元データ([配置]メニューの各配置コマンドで作成したデータ)を復帰します。
クリーンアップ()	不要なデータを削除します。
並べ替え-前面へ()	前面へ移動します。
並べ替え-背面へ()	背面へ移動します。
並べ替え-一括並べ替え()	データ順を一括で並べ替えます。[設定]-[共通設定]の[描画順]で[データ順で描画]のチェックがオンの場合に有効です。
文字編集-整列()	文字列を整列させます。
文字編集-平行移動()	文字列を平行移動します。文字要素、直線寸法線、直径寸法線、半径寸法線、引出線要素の文字要素が対象です。
文字編集-移動・回転()	文字列を移動・回転します。
文字編集-サーチ()	図面上の線や円などのデータと文字の重なり、または文字同士の重なりを検索して文字列の移動を行います。サーチすると自動的に[移動・回転]になります。
文字編集-置換()	文字を置換します。
文字編集-分解()	文字列を1文字単位に分解します。円・楕円・矩形文字を分解した場合、円・楕円・線要素と個々の文字に分解します。
文字編集-連結()	ばらばらの文字列を1つの文字列として連結します。文字連結時にスペースも考慮しますが、全角と半角を混ぜて選択するとうまく認識できない場合があります。連結後、基準文字以外は削除します。
文字編集-自動編集()	図面内の測点名、距離、地番情報の文字列の重なりを自動で取り除きます。
文字編集-アシスト()	重なっている文字列を編集します。
線編集-線伸縮()	線を伸縮します。線分、連続線、上下線が対象です。
線編集-整合()	2つの要素の交点で整合(交点まで伸縮)します。線分、連続線、上下線、円、円弧が対象です。
線編集-延長止線()	指定した線を、他方で指定したライン上まで延長、または切断します。線分、連続線、上下線が対象、止める側は線分、連続線、補助線、円、円弧、上下線、自由曲線が対象です。
線編集-連続線延長()	連続線を延長します。線分、連続線、上下線が対象です。
線編集-面取()	同一頂点に整合されている2つの要素を面取りします。線分、連続線、円弧が対象です。

[データ編集]メニューのコマンド	
線編集—重複線サーチ()	重複線を検索し発見した重複線を1本化します。線分、連続線が対象です。
線編集—線記号反転()	重複線を検索し発見した重複線を1本化します。線分、連続線が対象です。
線編集—点移動・挿入・削除()	通過点を編集します。連続線、自由曲線、上下線が対象です。
線編集—分割()	データをハンドルで分割します。分割を行うと、分割点でそれぞれ独立した要素になります。連続線、自由曲線が対象です。
線編集—結合()	要素の種類が同じデータを結合します。線分、連続線、自由曲線が対象です。結合後の線の属性は、最初を選択した線の属性になります。自由曲線は、結合後の形状で再計算されます。
線編集—標高訂正()	通過点(ハンドル)の標高を訂正します。連続線、上下線が対象です。
線編集—標高自動割付()	標高が1つ以上入力されている線の他の通過点に標高を割り付けます。標高は前後の標高が設定されている通過点から距離に比例配分して割り付けます。標高が1つの場合は、同じ標高になります。線分、連続線、上下線が対象です。
線編集—部分移動・削除()	データを部分的(通過点(ハンドル)や通過点間)に移動・削除します。連続線、自由曲線、上下線が対象です。
線編集—部分訂正()	データを部分的(ハンドル間)に訂正します。連続線、自由曲線が対象です。
線編集—部分非表示()	データを一部非表示にします。連続線、上下線が対象です。
レベル編集—レベル追加()	レベルを追加します。
レベル編集—レベル編集()	レベルを編集します。ただし、レベルが1つも追加されていない用紙系1/1のレベル、元ページから配置したレベルは編集できません。
レベル編集—レベル複写()	表示ページに、他のページのレベルを複写します。同一ページ内へのレベルの複写も可能です。
レベル編集—形状移動(1点)()	1点指定で形状を移動してレベル原点、回転角を訂正します。元ページから配置したレベルがある場合、そのレベルはこのコマンド実行後に元ページとの関連性がなくなります。
レベル編集—形状移動(回転)()	1点1方向で形状を移動してレベル原点、回転角を訂正します。元ページから配置したレベルがある場合、そのレベルはこのコマンド実行後に元ページとの関連性がなくなります。
レベル編集—用紙移動(1点)()	1点指定で用紙を移動してレベル原点、回転角を訂正します。元ページから配置したレベルがある場合、そのレベルはこのコマンド実行後に元ページとの関連性がなくなります。
レベル編集—用紙移動(回転)()	1点1方向で用紙を移動してレベル原点、回転角を訂正します。元ページから配置したレベルがある場合、そのレベルはこのコマンド実行後に元ページとの関連性がなくなります。
カット—要素指定カット()	指定要素と他の要素の交点でカットします。線・円・円弧・補助線(無限補助線は除く)が対象、カットを行う側は、線・円・円弧・補助線(無限補助線は除く)が対象です。
カット—線間カット()	カットする線間部分を指定して、他の要素データと交わる点でカットします。線・円・円弧・自由曲線が対象、カットを行う側は、線、無限補助線、上下線、円、円弧、楕円、楕円弧、自由曲線が対象です。
カット—範囲指定カット()	設定した対象の要素データの1部分を範囲指定し、その部分をカットします。


















[データ編集]メニューのコマンド	
カットマーク指定カット()	プロットマーク内のデータをカットします。線分・連続線・円・円弧がカットの対象です。
変形ー変形()	データを変形します。線データの端点を範囲指定した場合、その端点を移動して全体を変形します。指定した範囲内に 1 つの図形データが含まれている場合、そのデータ全体を移動します。円、自由曲線は通過点指定範囲に含まれないと変形しません。寸法線は、設定により再計算して寸法値を表示させることも可能です。元データ非選択モードがオンになっている場合は、専用メニューにより自動作成されたデータは変形の対象になりません。
変形ー変形(寸法訂正)()	寸法値を指定して変形します。寸法線要素が対象です。
パッカー入力()	要素を選択し、それぞれの属性を保持しながら 1 つのデータとしてパックします。編集するときに、パック単位で処理ができます。ここでパック化されたデータは、[パック指定]がオンになっているときに有効です。
パッカー解除()	パックしたデータを解除します。解除したデータは、パック単位での編集が行えません。
パッカー編集()	パックを訂正します。
クリップボードー複写()	図面上で選択したデータをクリップボードに複写します。
クリップボードー複写(範囲指定)()	矩形範囲を指定して、範囲内のデータをクリップボードに複写します。
クリップボードー貼り付け()	クリップボードに複写されたデータを図面上に貼り付けます。
[配置]メニューのコマンド	
地積図ー配置()	配置データを設定、引照点(器械点)、境界点を入力し、配置条件にしたがって、地積図、求積表を作成します。
地積図ースタイル()	地積図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[一筆配置][一筆拔出]のスタイルもここでの設定が有効になります。
地積図ー数値条件()	作成図面の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
地積図ー分属配置()	指定した土地配置がされている既存図面の地番を抽出し、分属図を自動作成します。また、分属図の数値の丸め設定は[分属数値条件]で設定します。
地積図ー分属スタイル()	分属図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
地積図ー分属数値条件()	作成図面の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
地積図ー一筆配置()	複数の地番を地積図として一括して作成します。地積図を作成する配置条件(作成地番、残地地番、引照点、境界点、使用用紙など)を設定し、地積図や求積表を自動配置します。
地積図ー一筆拔出()	すでに作成されている地積図、測量図の地番から複数の地番を地積図として一括して作成します。一筆拔出し時の配置条件(作成地番、残地地番、引照点、境界点、使用用紙など)を設定し、地積図や求積表を自動配置します。
地積図ー属性塗潰し()	図面の地番表示色を、地目単位、求積属性単位、判定単位に塗り潰します。32 種類まで塗り潰すことができます。

[配置]メニューのコマンド	
測量図-配置 ()	測量図を作成する配置条件(作成地番、残地地番、引照点、境界点、使用用紙など)を設定し、測量図や求積表を用紙に配置します。
測量図-スタイル ()	測量図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[一筆配置][一筆拔出し]のスタイルもここでの設定が有効になります。
測量図-数値条件 ()	作成図面の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
測量図-分属配置 ()	指定した土地配置がされている既存図面の地番を抽出し、分属図を自動作成します。また、分属図の数値の丸め設定は[分属数値条件]で設定します。
測量図-分属スタイル ()	分属図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
測量図-分属数値条件 ()	作成図面の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
測量図-一筆配置 ()	複数の地番を測量図として一括して作成します。測量図を作成する配置条件(作成地番、残地地番、引照点、境界点、使用用紙など)を設定し、測量図や求積表を自動配置します。
測量図-属性塗潰し ()	図面の地番表示色を、地目単位、求積属性単位、判定単位に塗り潰します。32種類まで塗り潰すことができます。
プロット図-配置 ()	座標管理に登録された座標点、地番管理に登録された地番から図面を作成する座標や地番を抽出します。そして、配置条件(作成する座標、結線方法、使用用紙など)を設定し、プロット(座標点)図や確定図を自動作成します。また、既存図面(測量図や地積図)へのプロット点の追加を行うことや、作成したプロット図に測量図、地積図などを書き加えることもできます。
プロット図-スタイル ()	プロット図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
プロット図-数値条件 ()	プロット図面の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
座標一覧表-配置 ()	指定した座標、または作業データ内の既存図面で使用している座標を抽出し、座標一覧表を自動作成します。また、座標一覧の数値の丸め設定は[座標一覧表]-[数値条件]で設定します。
座標一覧表-数値条件 ()	座標一覧表の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、座標一覧表を作成し直します。また、これらの計算に関する丸めは、[条件設定]の計算関係の各丸めの設定が連動します。ただし、座標の丸めは[数値条件]で設定します。
トラバース網図-配置 ()	トラバース計算で作成したデータから網図を作成します。抽出された測点(座標)に対して、配置条件(表示する座標、結線方法、使用用紙など)を設定し、網図を自動作成します。座標は座標管理に登録されていることが必要です。
トラバース網図-スタイル ()	網図(トラバース)を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
トラバース網図-数値条件 ()	網図(トラバース)の数値の丸めを設定します。既存図面のスタイル(数値条件)を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
逆トラバース網図-配置 ()	逆トラバース計算で作成したデータから網図を作成します。抽出された測点(座標)に対して、配置条件(表示する座標、結線方法、使用用紙など)を設定し、網図を自動作成します。座標は座標管理に登録されていることが必要です。








[配置]メニューのコマンド	
逆トラバース網図－スタイル()	網図(逆トラバース)を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
逆トラバース網図－数値条件()	網図(逆トラバース)の数値の丸めを設定します。既存図面のスタイル(数値条件)を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
基準点網図－配置()	基準点測量で作成されたデータを元に、配置条件(縮尺、使用用紙など)を設定し、基準点網図を自動配置します。
基準点網図－スタイル()	基準点網図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
基準点網図－路線閉合差表()	[配置]で配置した図面に路線閉合差表を配置します。
基準点網図－単位標準偏差表()	[配置]で配置した図面に単位標準偏差表を配置します。
基準点網図－新点標準偏差表()	[配置]で配置した図面に新点標準偏差表を配置します。
国調図－配置()	地籍図郭設定された図郭を抽出し、国調図を自動作成します。基本的な操作は、地籍図郭設定された図郭を抽出して、対象外地番、図根点を設定し、図面に配置するの順で行います。既に、図面に配置されている場合は、配置条件を変えて全面的に作成し直すこともできます。作成条件([スタイル])を既存図面に対して変更したときは、変更箇所(レイヤ単位)で再作成します。
国調図－スタイル()	国調図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
国調図－数値条件()	作成図面の丸めを設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。(レイヤに関係ない変更は、[配置]で再作成します。)
国調図－地籍一覧配置()	地籍図一覧図を自動作成します。基本的な操作は、字界地番を設定して図面に配置します。既に、図面に配置されている場合は、配置条件を変えて全面的に作成し直すこともできます。作成条件([スタイル])を既存図面に対して変更したときは、変更箇所(レイヤ単位)で再作成します。
国調図－地籍一覧スタイル()	地籍図一覧図の作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
国調図－地籍網図配置()	地籍図網図を自動作成します。基本的な操作は、網データを抽出して、字界地番、図根点を設定し、図面に配置するの順で行います。既に、図面に配置されている場合は、配置条件を変えて全面的に作成し直すこともできます。作成条件([スタイル])を既存図面に対して変更したときは、変更箇所(レイヤ単位)で再作成します。
国調図－地籍網図スタイル()	地籍図網図の作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
路線図－配置()	路線測量のデータを元に、配置条件(縮尺、使用用紙など)を設定し、路線図を自動配置します。
路線図－スタイル()	路線図を図面に表示するための作成条件を設定します。
路線図－曲線要素表()	路線測量のデータを元に、曲線要素表を配置します。要素表のタイプは[配置]の[要素表選択]で設定します。
路線図－曲線要素一覧()	路線測量のデータを元に、曲線要素一覧表を配置します。要素一覧のタイプは[配置]の[要素表選択]で設定します。

[配置]メニューのコマンド	
縦断面図-配置 ()	縦断面図や縦断面表を作成する路線測量のデータを読み込みます。
縦断面図-スタイル ()	縦断面図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。数値の丸めは[数値条件]で設定します。(縦横断面測量の数値を[数値条件]で丸めて再計算されたものが表示されます。)
縦断面図-数値条件 ()	縦断面図に作成される数値の表示に関する丸めを、距離、DL 値、地盤高、計画高、縦断面曲線、勾配などについて設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。(DL 値などのレイヤに関係ない変更は、[配置]コマンドで再作成します。)図面に表示される数値は縦横断面測量の数値を[数値条件]で丸めて再計算されたものが表示されます。
横断面図-配置 ()	横断面図、土工数量表を作成する路線測量のデータを読み込みます。
横断面図-スタイル ()	横断面図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。計算の丸めは、[ツール]-[条件設定]、図面表示の丸めは、[数値条件]の各丸め項目内容が連動します。
横断面図-数値条件 ()	横断面図に作成される数値の表示に関する丸めを、距離、DL 値、杭頭高、地盤高、計画高、勾配、寸法線について設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。(DL 値などのレイヤに関係ない変更は、[配置]コマンドで再作成します。)
3次元プロット-配置 ()	座標管理に登録された座標点から図面を作成する座標を抽出し、座標の Z 座標からコンタ線を自動作成します。そして、配置条件(作成する座標、結線方法、使用用紙など)を設定し、3次元プロット(座標点)図を自動作成します。基本的に操作は、コンタ線を作成する基準となる標高点を入力(抽出)して、コンタ線を作成して、図面に配置する条件を設定して、図面に配置するの順で行います。既に、図面に配置されている場合は、配置条件を変えて全面的に作成し直すこともできます。作成条件(スタイル)を既存図面に対して変更したときは、変更箇所(レイヤ単位)で再作成します。
3次元プロット-スタイル ()	コンタ図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
展開図-配置 ()	展開図を作成するデータを読み込みます。
展開図-スタイル ()	展開図を図面に表示するための作成条件を設定します。
擁壁展開図-配置 ()	擁壁展開図を作成するデータを読み込みます。
擁壁展開図-スタイル ()	擁壁展開図を図面に表示するための作成条件を設定します。
擁壁展開図-断面数量表配置 ()	断面数量表を配置します。
各階平面図-配置 ()	各階平面図を作成するデータを読み込みます。
各階平面図-スタイル ()	各階平面図を図面に表示するための作成条件を設定します。平面図、建物図面、所在図などの表示の有無や表示文字、ペン No、線種などを設定します。
各階平面図-データ連動 ()	作成した各階平面図の建物図面の所在図や方位マークなどに対して編集を行った場合、同じタイミングで作成された建物図面を含んだページに現在のページの編集内容を連動させます。連動は、レイヤ単位で行われます。

[数値地形]メニューのコマンド	
ページ情報	ページ情報を入力します。その他情報では、写真管理情報や測地系の情報を入力します。
測点一覧	測点の一覧を表示します。座標値の丸めは、[値設定]で設定します。
標高値編集	測点の標高値を編集します。
CAD 測点登録	CAD 画面上から測点を登録します。座標値の丸めは、[値設定]で設定します。
現況観測データ一覧	現況観測で得られたデータの一覧を表示します。また、観測した点を訂正することもできます。
対回観測データ一覧	対回観測で得られた観測データの一覧を表示します。また、観測点のデータ訂正も行えます。
GNSS 観測データ一覧	GNSS 観測で得られたデータの一覧を表示します。
点名・標高値配置—個別配置	標高(標高値が未設定でも可能)を持つ点に点名、標高値を入力します。指定要素は、任意の測点、点記号、連続線の端点、通過点が対象となります。
点名・標高値配置—測点より一括配置	標高(標高値が未設定でも可能)を持つ測点に点名、標高値を入力します。
斜面記号個別配置	図面上に斜面記号を配置します。
建物野帳	建物の形状を入力して図面上に配置します。 建物線の DM 属性は、普通:DMNo3001:普通建物、堅牢:DMNo3002:堅ろう建物、無壁線の DM 属性は、普通:DMNo3003:普通無壁舎、堅牢:DMNo3004:無壁舎になります。
建物影線追加	建物形状に影線を入力します。建物影線は、一般要素で入力されます。平面図には通常土地の形状を描きますが、建物は土地ではなくそこに建っているものですから、平面図でもそれが明確に分かるようにしたい場合があります。その場合、このコマンドで建物影線を入力し、建物を立体的にみせることが可能です。
電線方向—入力	電線を表す線を入力します。
電線方向—削除	入力した電線を表す線を削除します。
電柱支線—入力	電柱支線を入力します。
電線支線—削除	入力した電柱支線を削除します。
石段・階段	石段・階段を入力します。 石段・階段線の DM 属性は、外枠:DMNo2214:石段・図形区分:0、階段線:DMNo2214:石段(階段線)・図形区分:99 になります。
DM マスター	DM 記号を設定します。
観測条件設定	観測データを取り込むときの距離、角度などの丸め方法、丸めの最小単位、小数点以下の桁数の設定を行います。
DM 属性設定	文字や線データなどを入力するときの DM 属性をします。
検索—測点検索、次点検索、前点検索	[測点検索]で測点を点番、点名より検索します。検索で複数見つかった場合は、[次点検索][前点検索]で移動します。
カーブ計算—単曲線計算(座標より)	2 点の XY 座標(Z 座標は 0.00)を弧として結ぶ半径 R の円弧より、TL、CL、SL、IA を求めます。
カーブ計算—単曲線計算(計算より)	IA と R から TL、CL、SL を求めます。
カーブ計算—偏角法単曲線設置計算	単曲線の始点から指定した距離の点までの、偏角と弦長を求めます。

[数値地形]メニューのコマンド	
カーブ計算－ 偏角法クロノイド設置計算	クロノイドの始点から指定した距離の点までの、偏角と弦長を求めます。
DM チェッカーデータチェック	“作業規程の準則”の「数値地形図データファイル仕様」に基づいて DM データをチェックします。ただし、元ページでは DM データのチェックのみで DM ファイルチェックはできません。拡張 DM ファイルを読み込み、DM ファイルチェック・DM データチェックを行いたい場合は、新規にページを作成してコマンドを実行してください。
DM チェッカー精度管理表	拡張 DM ファイルを指定して DM データの精度管理表を作成します。精度管理表は EXCEL データで作成しますので、Microsoft Office Excel (Microsoft Excel) がインストールされている必要があります。
[設定]メニューのコマンド	
共通設定()	共通項目を設定します。
レイヤ設定()	レイヤを設定します。
レベル設定()	レベルを設定します。
カラーパレット設定()	カラーパレットを設定します。カラーパレットは、レイヤ・レベル・ペン・線種のデータ表示色、要素のカラーとして使用します。
ペン設定()	ペンを設定します。
線種設定()	線種を設定します。
形状表示()	属性別の各階層毎に形状表示します。
入力属性設定()	データを入力するときの属性を設定します。入力属性ツールバーでも確認・変更が可能です。
値設定()	図面上において、座標値を入力、または距離、面積、勾配、寸法などの値を表示するときの丸め、丸めの最小単位、小数点以下の桁数、角度の表示方法などの設定を行います。
用紙設定()	用紙種類、内枠サイズ、用紙オフセットなどを設定します。
表示モード表示色:レイヤ()	図面上のデータをレイヤ別に設定した色で表示します。このモードでは[レイヤ設定]で設定した色が有効です。
表示モード表示色:ペン()	図面上のデータをペン No 別に設定した色で表示します。このモードでは[ペン設定]で設定した色が有効です。
表示モード表示色:線種()	図面上のデータを線種別に設定した色で表示します。このモードでは[線種設定]で設定した色が有効です。
表示モード表示色:レベル()	図面上のデータをレベル別に設定した色で表示します。このモードでは[レベル設定]で設定した色が有効です。
表示モード表示色:カラー()	図面上のデータを属性のカラーで設定した色で表示します。このモードでは[カラーパレット設定]で設定した色が有効です。
入力モードドラフタ()	ドラフタ機能を有効にする、しないを切り替えます。ドラフタ機能がオンの時、入力の際に設定した角度の方向のみ限定して入力することができます。
入力モード座標補正Δxy()	データの編集時の入力位置や基準位置を指定するとき、マウスでクリックした位置からの縦、横の移動量を入力して入力点、基準点の位置を設定する機能のオン、オフを切り替えます。

[設定]メニューのコマンド	
入力モード絶対座標入力()	絶対座標値を指定して入力します。
入力モード相対座標入力()	図面上で 2 点目以降のデータを入力するとき、次点の入力位置を前点からの相対座標(距離)を指定して入力します。
入力モード極座標入力()	図面上で 2 点目以降のデータを入力するとき、次点の入力位置を前点からの距離と方向角を入力して指定します。このコマンドは、同一データで 2 点目のデータ入力時に有効です。
入力モード距離・勾配入力()	図面上で 2 点目以降のデータを入力するときなどに次点の入力位置を前点からの距離と勾配を入力して指定します。このコマンドは、同一データで 2 点目のデータ入力時に有効です。
選択モードパック指定()	図面上のデータを選択する際、選択対象データをパック単位にするか、しないかのモードを切り替えます。例えば、線や文字が混在しているデータでパック化されているとき、その一部のデータを選択するとパックされているデータも選択されます。
選択モードポイント()	マウスでクリックした点のデータを選択します。
選択モードクロス()	2 点間上に交差するデータを選択します。
選択モード矩形イン()	2 点指定矩形内のデータを選択します。
選択モード矩形タッチ()	2 点指定矩形上に交差するデータ、または矩形内に囲まれているデータを選択します。
選択モード多角形イン()	N 点指定多角形内のデータを選択します。
選択モード多角形タッチ()	N 点指定多角形上に交差するデータ、または多角形内に囲まれているデータを選択します。
選択モードフリーハンド()	マウスで描いた軌跡上に交差するデータを選択します。
選択モードフリーハンドタッチ()	マウスで描いた軌跡上の領域に交差するデータ、領域内に囲まれているデータを選択します。
選択モード選択移動()	選択移動の場合、選択したデータにはハンドルが表示され、データの移動、複写ができます。また、ハンドルをクリックして移動した場合は、データ自体の移動ではなく、ハンドルの移動になります。
選択モード全選択()	要素別に全てのデータを選択します。
選択モード属性選択()	属性別の階層毎にデータを選択します。
選択モード要素属性で再選択()	選択対象にする属性を設定します。
ピックモードマーク()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近いプロットマークの中心点にします。
ピックモード交点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い交点にします。
ピックモード端点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い端点にします。
ピックモードグリッド()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近いグリッドの交点にします。
ピックモードフリー()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置にします。























[設定]メニューのコマンド	
ピックモード-線上()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い線上にします。
ピックモード-中点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い線の中点にします。
ピックモード-中心()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い円(円弧)、または楕円(楕円弧)の中心点にします。
ピックモード-ラスタ()	ラスタデータのピックモードを有効にします。
ピックモード-ダイナミックピック	マウスポインターにピックすることができる点のイメージを表示するかしないかを切り替えます。
ピックモード-音声ガイド	入力位置や基準位置をマウスで指定したときに、ピックモード名を音声にしてくれるモードで、そのオン、オフの切り替えをします。
ピックモード-設定()	ピックモードに関する設定を行います。
座標系-測量系()	データ入力時の座標を測量座標系に設定します。
座標系-数学系()	データ入力時の座標を数学座標系に設定します。
成果情報	図面に成果情報を設定します。
属性パターン入力モード	属性パターンを入力するモードのオン・オフを切り替えます。属性パターンとは、要素がもつ属性(レイヤ、ペン、線種、カラー、フォント、サイズ、間隔)の設定状態を保持したテンプレートです。要素の新規入力時に、属性パターン(レイヤ、ペン、線種、カラー、フォント、サイズ、間隔)、または CAD 製図基準運動(レイヤ、線種、カラー)の属性を一括して設定することができます。また配置済み要素属性の一括変更も可能です。
DM 入力モード	DM 属性を入力するモードのオン・オフを切り替えます。
カスタマイズ	ポップアップ、キーボード、ツールバー、コマンドバー、メニューを使い易いようにカスタマイズします。
[配筋図]メニューのコマンド	
かぶり線-閉合図形選択	閉合図形指定でかぶり線を入力します。
かぶり線-連続線	連続線指定でかぶり線を入力します。
かぶり線-矩形	矩形指定でかぶり線を入力します。
かぶり線-多角形	多角形指定でかぶり線を入力します。
鉄筋線-閉合図形選択	閉合図形指定でかぶり線を設定して鉄筋線を入力します。設定したかぶり線は作成しません。
鉄筋線-かぶり線選択	かぶり線を指定して鉄筋線を入力します。
鉄筋線-矩形	矩形指定でかぶり線を設定して鉄筋線を入力します。設定したかぶり線は作成しません。
鉄筋線-多角形	多角形指定でかぶり線を設定して鉄筋線を入力します。設定したかぶり線は作成しません。
中抜き-矩形	矩形指定で中抜きを設定し、補強鉄筋を入力します。
中抜き-円形	円形指定で中抜き範囲を指定し、補強鉄筋を入力します。
組立筋-壁用／・矩形	壁用／の組立筋を矩形範囲で指定して配置します。

[配筋図]メニューのコマンド	
組立筋―壁用〔・矩形	壁用〔の組立筋を矩形範囲で指定して配置します。
組立筋―壁用／・多角形	壁用／の組立筋を多角形範囲で指定して配置します。
組立筋―壁用〔・多角形	壁用〔の組立筋を多角形で範囲指定し、配置します。
組立筋―断面用	断面用の組立筋を 4 点指定で範囲設定し、配置します。
断面筋―直線・円弧選択	直線・円弧指定で断面筋を入力します。
断面筋―円選択	円指定で断面筋を入力します。
断面筋―2 点指定	2 点指定で断面筋を入力します。
断面筋―任意	断面筋を入力します。
継ぎ手―自動選択	鉄筋線を自動選択し、継ぎ手を入力します。既に継ぎ手が配置されている場合は変更になります。鉄筋径の変更は、既に配置済みの引出線、加工図、鉄筋重量表にも連動可能です。継ぎ手長の変更は連動しません。
継ぎ手―区間選択	鉄筋線を区間選択し、継ぎ手を入力します。既に継ぎ手が配置されている場合は変更になります。鉄筋径の変更は、既に配置済みの引出線、加工図、鉄筋重量表にも連動可能です。継ぎ手長の変更は連動しません。
継ぎ手―任意選択	任意選択した鉄筋線(線要素)に継ぎ手を入力します。継ぎ手を配置できる要素データは、線(鉄筋線なども含む)要素のみです。既に継ぎ手が配置されている場合は変更になります。鉄筋径の変更は、既に配置済みの引出線、加工図、鉄筋重量表にも連動可能です。継ぎ手長の変更は連動しません。
継ぎ手―削除	継ぎ手を一括削除します。既に配置済みの引出線、加工図、鉄筋重量表には連動しません。
引出線―自動選択	鉄筋線を選択し、引出線を入力します。
引出線―区間選択	指定した平行な 2 線間内の線に引出線を入力します。
引出線―任意選択	任意選択した線、円、円弧に引出線を入力します。
引出線―枝状	任意選択した線(主に組立筋、鉄筋線)、円(主に断面筋)に枝状の引出線を入力します。
引出線―放射状	任意選択した線(主に組立筋、鉄筋線)、円(主に断面筋)に放射状引出線を入力します。
引出線―移動	引出線を移動・回転します。
引出線―削除	引出線を削除します。
引出線―属性編集	引出線の種別記号、番号など属性を訂正します。種別記号、番号の訂正は、他の同一種別の引出線も一括変更することができます。ただし、加工図、鉄筋重量表には連動しません。径のみ変更した場合は、他の同一種別の引出線の径、加工図、鉄筋重量表の径も連動します。
加工図―作成	[引出線]で入力した加工種別・形状を利用して加工図を入力します。[新規作成]で加工図を作成して入力することもできます。加工文字のみを入力することもできます。
加工図―削除	加工図、または加工文字を削除します。
加工図―重量表	加工図データより鉄筋重量表を作成します。
加工図―配筋図設定	配筋図の各コマンドで入力するデータの各種設定を行います。


宅地割り計画

























1 宅地割り計画のコマンドの紹介

宅地割り計画のメニューバーのコマンドを紹介します。




















[汎用]メニューのコマンド	
制御-確定 ()	連続してデータを入力する場合などで、最終的に確定する場合に使用するコマンドです。
制御-後退 ()	データの入力処理の過程、または編集処理の過程で一つ前の入力状態に戻します。
制御-取消 ()	確定前の入力データやデータの選択範囲などを取り消す場合などに使用するコマンドです。
制御-中止 ()	実行中のコマンドを終了し、コマンド選択または、オブジェクト選択状態にします。
ページ-計画ページ ()	計画ページを表示します。宅地割り計画は、計画ページで行います。
ページ-削除 ()	ページを削除します。
ページ-ページ名称変更 ()	ページ名称を変更します。
ページ-前ページ ()	前ページへ移動します。
ページ-次ページ ()	次ページへ移動します。
ページ-一覧 ()	ページを一覧表示して、編集する図面のページを選択します。
表示-範囲拡大 ()	指定範囲を拡大します。
表示-倍率拡大 ()	表示範囲を、一定倍率で拡大します。
表示-倍率縮小 ()	表示範囲を、一定倍率で縮小します。
表示-移動(枠指定) ()	表示範囲を移動します。
表示-原図 ()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。ただし、原図領域が設定されている場合は、原図領域が原図範囲となります。
表示-原図領域 ()	表示範囲を、原図コマンドで表示する「原図領域」に設定します。
表示-前表示 ()	表示範囲、表示率を 1 つずつ戻します。ただし、戻せる回数は 5 回までです。
表示-再描画 ()	画面内容を表示し直します。
計測-2 点間の距離方向角 ()	指定した 2 点間の距離および方向角を表示します。
計測-一点と線の距離方向角 ()	任意の点と直線を指定して、その間におろせる垂線の距離および方向角を表示します。表示する実際の距離、および実際の方向角は、レベルの縮尺、回転角に影響します。
計測-連続距離 ()	図面上で連続的に点を指定していき、その総延長を表示します。
計測-3 点内角 ()	3 点を指定して、内角 (1 点目から 2 点目の進行方向に対して右回りの角度) を表示します。























[汎用]メニューのコマンド	
計測-3点垂直()	指定した2点と任意の点との距離を表示します。
計測-斜距離()	任意の2点を指定し、2点のZ座標を入力して斜距離を表示します。斜距離は、レベルに影響します。ただし、指定した2点がプロットマークの場合、そのマークを入力したレベルが有効になります。
計測-斜面積()	図面上の任意の3点を指定し、指定した3点のZ座標を入力して斜面積を表示します。斜面積は、レベルに影響します。ただし、指定した3点がプロットマークの場合、そのマークを入力したレベルが有効になります。
計測-面積()	面積を表示します。面積は、レベルの縮尺に影響します。
計測-要素長()	線、円、円弧、自由曲線、クロソイド要素の要素長を表示します。
計測-合計()	CADで複数選択した文字列(数値)を合計し、合計値を配置します。
計測-データ量の状態()	図面に入力されている要素数(データ数)を表示します。
計測-座標デジタイズ()	任意の点を指定して、用紙座標上のX、Y座標値、現場座標上のX、Y、Z座標値を表示します。
文字-入力()	文字列を入力します。
文字-引出線()	要素を指定して、関連する文字列を引き出します。文字、線、マーク、引出線が対象です。
寸法線-水平・垂直(要素)()	要素指定で図形の水平・垂直距離の寸法値を入力します。
寸法線-水平・垂直(任意)()	任意にクリックした点間の水平・垂直距離の寸法を入力します。
寸法線-2点指示()	任意の2点を指定して、2点間の距離を寸法入力します。
寸法線-弧長・円周()	円を選択して、円周を寸法入力します。または、円弧を選択して、円弧の長さを寸法入力します。
寸法線-要素と点の距離()	直線、円、円弧に対して任意の点までの寸法を入力します。道路などの寸法を出す場合に使用します。
寸法線-3点垂直()	指定した2点の補助線に対して任意の点までの寸法を入力します。
線-入力()	図面上の任意位置を指定して、直線を連続入力します。
線-入力(基準線)()	方向角の基準となる線を指定して、入力する直線の始点から通過点までの距離と、基準線からの角度を入力して線を作成します。
線-垂線()	基準線(直線、円、円弧、クロソイド)から、垂線を入力します。
線-連続平行線()	基準となる線に対する平行線を距離指定で入力します。
線-平行線()	基準となる線を指定し、その基準線に対して平行線を入力します。
円-中心半径()	中心、半径指定で円を入力します。
円弧-3点弧(内接)()	3点を指定して、その3点内角に接する円弧を入力します。
円弧-3点弧(外接)()	3点を指定して、その3点に外接する円弧を入力します。
円弧-円弧伸縮()	円弧の線を延長、または短縮します。





[汎用]メニューのコマンド	
マーカーマーク入力()	マークを入力します。
マーカー点番名()	座標管理で登録されている座標を抽出してマークを入力します。
マーカー地番指定()	地番管理に登録されている地番構成点を抽出してマークを入力します。
自由曲線-連続線のコンタ化 ()	任意の数の連続線を指定し自由曲線を作成します。また、作成する自由曲線のハンドルの編集も行うことができます。
ハッチング・塗り-ハッチング()	ハッチングを入力します。
ハッチング・塗り-塗り潰し()	塗り潰しを入力します。
補助-任意線()	補助線を入力します。
補助-平行線()	基準線(連続線、上下線、補助線)を指定し、平行補助線を入力します。
補助-任意点()	任意の位置に補助点を入力します。
補助-円の中心()	円・円弧・楕円・楕円弧を指定して中心点に補助点を入力します。
補助-オフセット点(要素指定) ()	線、円、円弧、クロソイド要素を指定し、端点、または、指定点からオフセット距離を設定して補助点を入力します。
補助-オフセット点(2点指定) ()	2点指定でオフセット距離を設定して補助点を入力します。
補助-4点交点()	4点を指定して、1点目と2点目を通る直線と3点目と4点目を通る直線の交点に補助点を入力します。
補助-2円の交点()	円の中心点位置と半径数値を入力した2つの円の交わる点に補助点を入力します。
補助-垂線の足(要素指定) ()	線・円・円弧・クロソイド要素を指定して、任意点から指定した要素に対しておろした垂線の足に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。
補助-垂線の足(2点指定) ()	2点指定で、任意の点から指定した2点間の延長線に対しておろした垂線の足に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。
補助-垂直点()	線・円・円弧・クロソイドを指定して、指定した要素に対しておろした垂直線の上に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。
補助-等分割(要素指定) ()	線・円・円弧・クロソイドを指定して、分割した点に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線が対象です。
補助-等分割(2点指定)()	2点を指定して、指定した2点間を等分割した点に補助点を入力します。
補助-隅切補助点()	辺長あるいはせん除長を指定して隅切計算を行い、隅切点に補助点を入力します。
補助-全削除()	補助点・補助線を全削除します。
ラスタ・写真-配置()	ラスタデータ(画像・写真)を配置します。
ラスタ・写真-訂正()	ラスタデータを訂正します。レイヤ設定・レベル設定で非表示またはレイヤ設定で検索オフのラスタデータも対象です。










[汎用]メニューのコマンド	
ラスタ・写真一部分編集()	ラスタデータを部分的に編集します。
ラスタ・写真削除()	ラスタデータを削除します。
データ読み込み-DXF・DWG()	DXF・DWG 形式のデータを読み込みます。
データ読み込み-JWC・JWW()	JWC・JWW 形式のデータを読み込みます。
データ読み込み-アスキー()	アスキー形式のデータを読み込みます。
データ読み込み-EXCEL()	EXCEL データを CAD 要素(線や文字要素)に変換して読み込みます。 Microsoft Office Excel(Microsoft Excel)がインストールされている必要があります。
データ書き込み-DXF・DWG()	データを DXF・DWG 形式に変換してファイルに書き込みます。
データ書き込み-JWC・JWW()	データを JWC・JWW 形式に変換してファイルに書き込みます。
データ書き込み-アスキー()	データをアスキー形式に変換しファイルに書き込みます。
データ書き込み-画像出力()	図面を画像データ(JPEG・TIFF)で出力します。 ※OLE オブジェクトを画像に出力することはできません。
データ書き込み-Google Earth ()	図面の情報を Google Earth 上に表示できるファイル(*.kmz)を出力します。 Google Earth がインストールされていれば、ファイル出力後に Google Earth を起動して表示します。 ※Google Earth は、Google から無料で提供されている世界中の衛星写真を閲覧できるソフトです。
特殊図形-特殊線()	境界線、徒歩道、トンネル内の通路など特殊線を指定して入力します。あらかじめシンボル登録しておけば、シンボルを参照して任意形状の特殊線を入力することも可能です。
特殊図形-特殊記号()	特殊記号を入力します。家、塀、階段などあらかじめ登録されている特殊な記号を指定して図面上に入力します。
特殊図形-シンボル入力()	神社、寺院などシンボルを指定して、図面上に入力します。
特殊図形-シンボル登録()	図形を選択してシンボルとして登録します。
特殊図形-方位入力()	方位マークを指定して、図面上の任意の位置に配置します。 固定レイヤ(方位マーク)に入ります。
測量-座標値プロット()	座標値をプロットします。
測量-拡大図()	部分拡大図を配置します。
[データ編集]メニューのコマンド	
移動()	データを移動します。
複写()	データを複写します。
訂正()	データを訂正します。
一括訂正()	データを一括訂正します。
削除()	データを削除します。
回転()	データを回転します。

[データ編集]メニューのコマンド	
伸縮()	データを伸縮します。
文字編集—整列()	文字列を整列させます。
文字編集—平行移動()	文字列を平行移動します。文字要素、直線寸法線、直径寸法線、半径寸法線、引出線要素の文字要素が対象です。
文字編集—移動・回転()	文字列を移動・回転します。
文字編集—サーチ()	図面上の線や円などのデータと文字の重なり、または文字同士の重なりを検索して文字列の移動を行います。サーチすると自動的に[移動・回転]になります。
文字編集—置換()	文字を置換します。
文字編集—分解()	文字列を1文字単位に分解します。円・楕円・矩形文字を分解した場合、円・楕円・線要素と個々の文字に分解します。
線編集—線伸縮()	線を伸縮します。線分、連続線、上下線が対象です。
線編集—整合()	2つの要素の交点で整合(交点まで伸縮)します。線分、連続線、上下線、円、円弧が対象です。
線編集—延長止線()	指定した線を、他方で指定したライン上まで延長、または切断します。線分、連続線、上下線が対象、止める側は線分、連続線、補助線、円、円弧、上下線、自由曲線が対象です。
線編集—連続線延長()	連続線を延長します。線分、連続線、上下線が対象です。
線編集—面取()	同一頂点に整合されている2つの要素を面取りします。線分、連続線、円弧が対象です。
線編集—重複線サーチ()	重複線を検索し発見した重複線を1本化します。線分、連続線が対象です。
線編集—線記号反転()	重複線を検索し発見した重複線を1本化します。線分、連続線が対象です。
レベル編集—レベル追加()	レベルを追加します。
レベル編集—レベル編集()	レベルを編集します。ただし、レベルが1つも追加されていない用紙系 1/1 のレベル、元ページから配置したレベルは編集できません。
レベル編集—レベル複写()	表示ページに、他のページのレベルを複写します。同一ページ内へのレベルの複写も可能です。
レベル編集—形状移動(1点) ()	1点指定で形状を移動してレベル原点、回転角を訂正します。元ページから配置したレベルがある場合、そのレベルはこのコマンド実行後に元ページとの関連性がなくなります。
レベル編集—形状移動(回転) ()	1点1方向で形状を移動してレベル原点、回転角を訂正します。元ページから配置したレベルがある場合、そのレベルはこのコマンド実行後に元ページとの関連性がなくなります。
レベル編集—用紙移動(1点) ()	1点指定で用紙を移動してレベル原点、回転角を訂正します。元ページから配置したレベルがある場合、そのレベルはこのコマンド実行後に元ページとの関連性がなくなります。
レベル編集—用紙移動(回転) ()	1点1方向で用紙を移動してレベル原点、回転角を訂正します。元ページから配置したレベルがある場合、そのレベルはこのコマンド実行後に元ページとの関連性がなくなります。

[データ編集]メニューのコマンド	
パッカー入力()	要素を選択し、それぞれの属性を保持しながら1つのデータとしてパックします。編集するときに、パック単位で処理ができます。ここでパック化されたデータは、[パック指定]がオンになっているときに有効です。
パッカー解除()	パックしたデータを解除します。解除したデータは、パック単位での編集が行えません。
クリップボード複写()	図面上で選択したデータをクリップボードに複写します。
クリップボード貼り付け()	クリップボードに複写されたデータを図面上に貼り付けます。
[専用]メニューのコマンド	
外周線入力()	外周線を入力します。外周線の最大構成点数は1024です。外周線で囲まれた領域は区画になります。外周線は、固定レイヤ(外周線)に入ります。外周線を再入力する場合、既に入力済みの外周線、道路、区画は全て削除します。
外周線構成点 移動・挿入・削除()	外周線を構成する構成点を編集します。外周線の最大構成点数は1024です。構成点を編集して、形状が変わる場合は区画を変形、新たな領域ができた場合は無属性の新しい区画となります。
外周線面積調整変換()	外周線領域の面積を調整します。
道路入力()	道路を入力します。道路の端点については、詳細設定で自動で伸縮可能です。
道路訂正()	道路を訂正します。
道路削除()	道路を削除します。
道路伸縮()	道路を伸縮します。端点に転回広場があってもなくても伸縮の対象ですが、円弧道路は伸縮の選択対象外です。また、伸縮先からさらに自動延長して他の道路や外周線に接続することはありません。
道路平行移動()	道路を平行移動します。移動方向は、指定した道路の進行方向に対して垂直方向のみです。平行移動させる道路の始点(終点)が他の道路(または外周線)と接続している場合には、必ずその道路(または外周線)に接続したままで平行移動します。
区画区画情報()	区画情報を設定します。区画名や区画属性などの区画情報の設定と区画の並べ替えが可能です。
区画個別訂正()	区画情報を個別に訂正します。
区画定面積分割()	定面積分割で区画を分割します。等分割、面積指定、距離指定で分割することができます。
区画分割線入力()	区画線(分割線)を入力し区画を分割します。区画線(分割線)が複数の区画にまたがっている場合は、分割線が入力されている全ての区画を分割します。区画線(分割線)の端点が区画辺上(外周線上、道路線上)にない場合は、自動的に延長します。
区画旗竿地作成()	旗竿地(旗形地・敷地延長・旗竿敷地)を作成し、区画を分割します。旗竿地は、L字型の旗竿地のみ作成可能です。T字型などの旗竿地は作成できません。
区画区画合成()	隣接する複数の区画を合成します。合成後の区画属性は、合成前の属性が全て同一のときは継承し、違うときは未設定になります。
座標地番登録()	区画による座標、地番を座標管理、地番管理に登録します。

[専用]メニューのコマンド	
他の計画の読み込み()	同一現場データの他の計画データを読み込みます。既に計画ページにデータが存在する場合は、全てのデータ(ラスターデータも含む)を削除して他の計画データを読み込みます。
ARCHITREND 出力()	ARCHITREND ZやVirtual Houseで取り込み可能な連携ファイル:FCXデータに変換します。区画を敷地属性、道路を道路属性(※固定属性:セットバック、固定属性:道路の区画は、敷地属性になります)として出力し、ARCHITREND Zでは、配置図に取り込まれます。
道路スタイル()	隅切り・転回広場のスタイルを設定します。
区画属性マスター()	区画属性の名称、塗り潰しの有無、塗り潰し色、透過度を設定します。
数値表示設定()	区画名、区画面積、辺長の表示を設定します。
背景の削除()	背景データを削除します。背景データは、[汎用]－[データ読み込み]－[DXF/DWG][JWC/JWW][アスキー]で読み込んだデータで、編集ができず表示のみで図面にも適用されないデータを指します。
[設定]メニューのコマンド	
共通設定()	共通項目を設定します。
メニュー設定()	ポップアップ、ツールバーに関して設定します。
レイヤ設定()	レイヤを設定します。
レベル設定()	レベルを設定します。
カラーパレット設定()	カラーパレットを設定します。カラーパレットは、レイヤ・レベル・ペン・線種のデータ表示色、要素のカラーとして使用します。
ペン設定()	ペンを設定します。
線種設定()	線種を設定します。
形状表示()	属性別の各階層毎に形状表示します。
値設定()	図面上において、座標値を入力、または距離、面積、勾配、寸法などの値を表示するときの丸め、丸めの最小単位、小数点以下の桁数、角度の表示方法などの設定を行います。
グリッド設定()	配置ページの図面全体に表示するグリッドの間隔や角度などを設定します。
用紙設定()	用紙種類、内枠サイズ、用紙オフセットなどを設定します。
表示モード表示色:レイヤ()	図面上のデータをレイヤ別に設定した色で表示します。このモードでは[レイヤ設定]で設定した色が有効です。
表示モード表示色:ペン()	図面上のデータをペン No 別に設定した色で表示します。このモードでは[ペン設定]で設定した色が有効です。
表示モード表示色:線種()	図面上のデータを線種別に設定した色で表示します。このモードでは[線種設定]で設定した色が有効です。
表示モード表示色:レベル()	図面上のデータをレベル別に設定した色で表示します。このモードでは[レベル設定]で設定した色が有効です。
表示モード表示色:カラー()	図面上のデータを属性のカラーで設定した色で表示します。このモードでは[カラーパレット設定]で設定した色が有効です。

[設定]メニューのコマンド	
表示モード表示モード設定	共通設定の[表示:全般]の各項目を設定します。
入力モードドラフト()	ドラフト機能を有効にする、しないを切り替えます。ドラフト機能がオンの時、入力の際に設定した角度の方向のみ限定して入力することができます。
入力モード座標補正 Δxy ()	データの編集時の入力位置や基準位置を指定するとき、マウスでクリックした位置からの縦、横の移動量を入力して入力点、基準点の位置を設定する機能のオン、オフを切り替えます。
入力モード絶対座標入力()	絶対座標値を指定して入力します。
入力モード相対座標入力()	図面上で 2 点目以降のデータを入力するとき、次点の入力位置を前点からの相対座標(距離)を指定して入力します。
入力モード極座標入力()	図面上で 2 点目以降のデータを入力するとき、次点の入力位置を前点からの距離と方向角を入力して指定します。このコマンドは、同一データで 2 点目のデータ入力時に有効です。
入力モード距離・勾配入力()	図面上で 2 点目以降のデータを入力するときなどに次点の入力位置を前点からの距離と勾配を入力して指定します。このコマンドは、同一データで 2 点目のデータ入力時に有効です。
選択モードパック指定()	図面上のデータを選択する際、選択対象データをパック単位にするか、しないかのモードを切り替えます。例えば、線や文字が混在しているデータでパック化されているとき、その一部のデータを選択するとパックされているデータも選択されます。
選択モードポイント()	マウスでクリックした点のデータを選択します。
選択モードクロス()	2 点間上に交差するデータを選択します。
選択モード矩形イン()	2 点指定矩形内のデータを選択します。
選択モード矩形タッチ()	2 点指定矩形上に交差するデータ、または矩形内に囲まれているデータを選択します。
選択モード多角形イン()	N 点指定多角形内のデータを選択します。
選択モード多角形タッチ()	N 点指定多角形上に交差するデータ、または多角形内に囲まれているデータを選択します。
選択モードフリーハンド()	マウスで描いた軌跡上に交差するデータを選択します。
選択モードフリーハンドタッチ()	マウスで描いた軌跡上の領域に交差するデータ、領域内に囲まれているデータを選択します。
選択モード選択移動()	選択移動の場合、選択したデータにはハンドルが表示され、データの移動、複写ができます。また、ハンドルをクリックして移動した場合は、データ自体の移動ではなく、ハンドルの移動になります。
選択モード全選択()	要素別に全てのデータを選択します。
ピックモードマーク()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に 1 番近いプロットマークの中心点にします。
ピックモードマーク()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に 1 番近い交点にします。
ピックモード端点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に 1 番近い端点にします。

[設定]メニューのコマンド	
ピックモードグリッド()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近いグリッドの交点にします。
ピックモードフリー()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置にします。
ピックモード線上()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い線上にします。
ピックモード中点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い線の中点にします。
ピックモード中心()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い円(円弧)、または楕円(楕円弧)の中心点にします。
ピックモードラスタ()	ラスタデータのピックモードを有効にします。
ピックモードダイナミックピック	マウスポインターにピックすることができる点のイメージを表示するかしないかを切り替えます。
ピックモード音声ガイド	入力位置や基準位置をマウスで指定したときに、ピックモード名を音声にしてくれるモードで、そのオン、オフの切り替えをします。
ピックモード設定()	ピックモードに関する設定を行います。
ピックモードラスタピック設定	ラスタのピックモードを設定します。
表示色設定()	レイヤ表示色、レイヤ内データの表示・非表示を設定します。
[図面]メニューのコマンド	
配置()	計画ページのデータに用紙を配置して図面を作成します。 既に作成してあるページの訂正はできません。

電子野帳取込

1 電子野帳取込のコマンドの紹介

電子野帳取込のメニューバーのコマンドを紹介します。

[生データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
電子野帳取込み	電子野帳(データコレクタ)、各種メモリーカードに記録されている野帳データ(生データ)をコンピューターに取り込みます。[専用コマンド]―[接続条件]で接続する電子野帳の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
接続条件	電子野帳の機種、使用するシリアルポート、コンピューター側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。
生データ出力	[専用コマンド]―[電子野帳取込み]で電子野帳(データコレクタなど)から取り込んだ生データ([生データ]ウィンドウに表示されているデータ)をテキストファイルで出力します。
生データ入力	電子野帳で取り込んだ生データ(テキストファイルのデータ)を入力します。[専用コマンド]―[接続条件]で生データを観測した接続機種を設定してから、このコマンドを実行してください。
年に 2000 をプラスする	[専用コマンド]―[電子野帳取込み]で野帳データを取り込むときに、年に 2000 をプラスするかどうかを切り替えます。
ミラー定数確認	生データ内のミラー定数を確認します。
[測点データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
測点名連続付け直し	指定した範囲の測点の点名を、指定した点名からの連番に付け直します。または、点名が未入力の測点に連番の点名を入力します。
[手簿データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
現場情報	観測データの現場情報(作業名、等級、座標系、縮尺係数、温度計、気圧計)を設定します。
器械点情報	器械点情報(器械点名、器械高、対回数、方向数、器械定数など)を設定します。[生データ]タブの[専用コマンド]―[電子野帳取込]で電子野帳からデータを取り込んだときは、電子野帳で入力した器械点情報が初期値として表示されます。
計算条件設定	手簿計算時の条件を設定します。
手簿計算	観測データの手簿計算(対回計算、中数計算)を行います。
手簿分割	指定した範囲の視準データを分割して、新たな器械点を作成します。同一器械点の中に対回データと単回データが混在している場合などは、ここで器械点を分割してください。
手簿合成	他の器械点の視準点データを読み込み、現在表示中の視準点データと合成します。
器械点对回情報作成	器械点情報の対回数、方向数([専用コマンド]―[器械点情報]の[対回数][方向数]で設定)を視準データの測点名から判断して自動的に設定し直します。
視準点对回情報作成	視準データの[対回][方向][望遠鏡]を器械点情報の対回数、方向数([専用コマンド]―[器械点情報]の[対回数][方向数]で設定)から判断して、自動的に設定し直します。

[手簿データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
制限値	手簿計算を行ってからコマンドを実行してください。手簿データの水平角の倍角差、観測差、鉛直角の定数差、距離の内較差、間較差を一覧表示します。制限をオーバーしたデータは赤色で表示します。制限から外れた観測、または制限内でも精度の悪い観測を探す場合に有効です。
制限値設定	観測における制限を設定します。
全体形状確認	視準データの全体形状を表示します。また、このコマンドを実行した際には、自動的に手簿計算が行われます。
POCKET 電子野帳データ取込み	POCKET (ハンディ観測システム) の電子野帳観測データを取り込みます。
XYCLONE・Field com 取込み	XYCLONE・Field com の観測データを取り込みます。
X-FIELD ファイル取込み	X-FIELD ファイルの観測データを取り込みます。
CAD 取込み	CAD の作業データを取り込みます。
CIMPHONY 連携	CIMPHONY 上に保存されている作業データ(観測)を取り込みます。(ダウンロードのみ可能です。)※オプションサービスが必要です。
標準フォーマット (APA) 出力	[手簿データ]タブの器械点一覧および観測データセルの内容を、標準フォーマット (APA・SIMA) ファイル形式で出力します。
トラバース計算に移動	トラバース計算の作業データを新規作成します。電子野帳データはトラバース計算の[野帳データ]に連動します。
縦断野帳に移動	縦横断測量の作業データを新規作成します。電子野帳データは縦横断測量[縦断野帳]に連動します。
横断野帳に移動	縦横断測量の作業データを開きます。電子野帳データは縦横断測量の[横断野帳]に連動します。

電子野帳 座標入出力

1

電子野帳座標入出力のコマンドの紹介

電子野帳座標入出力のメニューバーのコマンドを紹介します。

[座標取込み]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

座標取込み	電子野帳(データコレクタ)、各種メモリーカードに記録されている座標データをコンピューターに取り込みます。[専用コマンド]－[接続条件]で接続する電子野帳の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
接続条件	電子野帳の機種、使用するシリアルポート、コンピューター側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。

[座標送出]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

座標送出	座標管理に登録されている座標データを電子野帳(データコレクタ)、各種メモリーカードに送出(逆転送)します。[専用コマンド]－[接続条件]で接続する電子野帳の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
接続条件	電子野帳の機種、使用するシリアルポート、コンピューター側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。

電子レベル

1 電子レベルのコマンドの紹介

電子レベルのメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成	電子レベルより取り込んだデータをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[電子レベル取込]で作成または変更することができます。
----------	--

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド


電子レベル取込み	電子レベルや電子野帳に記録されている野帳データ(生データ)をコンピューターに取り込みます。[専用コマンド]-[接続条件]で接続する機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
接続条件	電子レベルの機種、使用するシリアルポート、コンピューター側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。
生データ出力	[専用コマンド]-[電子レベル取込]で電子レベルから取り込んだ生データをテキストファイルで出力します。
生データ入力	電子レベルで取り込んだ生データ(テキストファイルのデータ)を入力します。[専用コマンド]-[接続条件]で生データを観測した接続機種を設定してから、このコマンドを実行してください。
年に 2000 をプラスする	[専用コマンド]-[電子レベル取込]でレベルデータを取り込むときに、年に 2000 をプラスするかしないかを切り替えます。

トラバース計算

1 トラバース計算のコマンドの紹介

トラバース計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[野帳データ]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	高度角補正計算書、観測記簿計算書を作成します。
--	-------------------------



[野帳データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

データ読み込み	電子野帳取込で電子野帳から取り込んだデータを読み込みます。複数のデータを一括して読み込むこともできます。
器械点標高を既知点参照	[器械点標高]が未入力 of 行に対して、器械点名から座標管理に登録済みの座標を検索して Z 座標を抽出し[器械点標高]に設定します。
器械点ソート	野帳データを並べ替えます。
行移動上、行移動下	指定した行を 1 行上、1 行下に移動します。
器械点チェック	2 つ目以降の器械点が、それ以前の器械点から観測されているか、いないかをチェックします。観測されていないときは、トラバースのデータに正しく変換されない of、データの整合性を確認してください。

[路線データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初点器械点	電子野帳から読み込んだデータ(路線データ)の初点の器械点、後視点を変更します。
路線追加	トラバース路線に開放路線を追加します。
路線削除	指定した路線を削除します。削除する路線のセルの項目をクリックしてからこのコマンドを実行します。
分岐チェック	[開放路線]の器械点が[トラバース路線]の中に含まれているかいないかをチェックします。含まれていないときは、トラバースのデータに正しく変換されない of、データを入力し直してください。

[観測データ]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	すでに入力されているデータよりトラバース計算を行い計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[トラバース計算]で作成または変更することができます。
登録 ()	トラバース計算より求められた視準点の座標を登録します。[視準点番][視準点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

[観測データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初期設定	トラバース計算をするデータの条件を設定します。
モード切り替え	混合トラバースのデータを入力するときに、視準点の入力モード(トラバースの種類)を切り替えます。モードを切り替える行のセルの項目をクリックしてからこのコマンドを実行すると、モードが切り替わります。変更する入力モードのセルをクリックしたときは、Space キーを押して切り替えることもできます。
器械点変更	器械点、後視点を変更します。[放射]または[開放]モードのとき([専用コマンド]-[初期設定]コマンドの[モード]で[放射][開放]を指定したとき)のみ変更できます。器械点、後視点を変更すると、方向角も再計算されます。方向角は訂正することもできます。器械点を変更する行のセルの項目をクリックしてからこのコマンドを実行します。


[観測データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
点番変更	指定した範囲の視準点の点番を一括して変更します。混合トラバースのデータを入力したとき、主路線、放射、開放別に点番を付け直すときに有効です。視準点番を変更するセルを選択してから、このコマンドを実行してください。
閉合差表示	閉合トラバース、閉合と放射・開放の混合トラバース、結合トラバース、結合と放射・開放の混合トラバースのデータ([モード]で[閉合][結合][結合(取付無し)][結合(後視・取付無し)]を指定して入力したデータ)より誤差計算を行い、その結果を表示します。2与点トラバースのデータ([結合(後視・取付無し)])を入力したときは、真の方向角が計算されて表示されます。
成果簿情報	成果簿情報を設定します。
一筆地測量情報	「一筆地測量観測手簿・計算簿」で必要な情報を設定します。
電子納品-座標地番 SIMA 出力	電子納品用 SIMA データを出力します。
電子納品-地籍調査成果簿出力	電子納品用地籍(基本)調査成果簿の図根多角点成果簿の数値データファイル、地籍細部図根測量成果簿の数値データファイルを出力します。
電子納品-成果数値プレビュー	電子納品用成果データを確認します。

逆トラバース計算

1 逆トラバース計算のコマンドの紹介

逆トラバース計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	すでに入力されているデータより距離、方向角計算を行い、逆トラバース計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[逆トラバース計算]で作成または変更することができます。
--	---

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド



入力モード	視準点の入力モード(トラバースの種類)を切り替えます。モードを切り替える行のセルの 1 つをクリックしてからこのコマンドを実行すると、[開放]と[放射]が切り替わります。変更する入力モードのセルをクリックしたときは、Space キーを押して切り替えることもできます。
放射検索	視準点を器械点からの距離、点の数、点名を指定して自動入力します。このコマンドは放射モードで視準点を入力する場合のみ有効です。器械点からの点数、距離、ワイルドカードを指定して視準点を放射検索し入力します。
器械点変更	器械点、後視点を変更します。このコマンドをクリックすると、その行の[器械点番]のセルがアクティブセル(黒い四角枠)になります。そこで変更する器械点を入力してください。入力途中で器械点を変更するときに有効です。
電子納品-座標地番 SIMA 出力	電子納品用 SIMA データを出力します。
電子納品-座標地番 SIMA プレビュー	電子納品用成果データを確認します。

交点計算

1 交点計算のコマンドの紹介

交点計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書—新規作成 ()	交点計算の結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[交点計算]で作成または変更することができます。
登録 ()	交点計算より求められた交点の座標を登録します。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

計算追加	交点計算(座標点、距離、半径などのデータを入力しておこなう各種交点計算)を追加します。計算タイプを指定し、データをセルに入力して交点を求めます。
計算挿入	すでに交点計算が入力されているとき、指定した交点計算の場所に、新しく交点計算を挿入します。
計算削除	すでに入力されている交点計算を削除します。
点間距離表示	選択されているセルの交点計算の各点(P)から交点(Q)までの点間距離の表示、非表示を切り替えます。
距離入力	[3点垂直]で任意の点より直線または円に垂直におろした点(交点)を求めるとき、指定した範囲(直線または円からの距離)内のすべての点から垂直におろした交点を一括して求めます。ただし、このコマンドは、[計算タイプ]が[3点垂直]で垂線をおろす直線または円が入力されているときに有効です。
杭打ちデータ取込み	CIMPHONY上に保存されている作業データ(交点計算)を取り込みます。(ダウンロードのみ可能です。)座標に設定されている写真情報を座標管理の[リンク]セルに取り込みます。近景より開いている箇所に取り込みますが、すべて埋まっている場合は取り込みません。※オプションサービスが必要です。


座標プリント

1

座標プリントのコマンドの紹介

座標プリントのメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()

入力した座標をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[座標プリント]で作成または変更することができます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

点名ソート

入力した座標データを点名順に並べ替えます。点名順で座標をプリントする場合は、このコマンドを実行した後、[ファイル]-[計算書]-[新規作成]で[プリント順・最終点]タブの[プリント順]の[入力順]を指定して、座標データをプリントします。

重複点削除

入力データ中の重複点を削除します。
重複点のチェックは、点番でのチェックです。

重複点チェック

重複点のチェックを行う、行わないかを設定します。
重複点のチェックは、点番でのチェックです。

電子納品-座標地番 SIMA 出力

電子納品用 SIMA データを出力します。

電子納品-
座標地番 SIMA プレビュー


電子納品用成果データを確認します。

ST 計算

1 ST 計算のコマンドの紹介

ST計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	ST計算より求められた計算結果をもとに、ST計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[ST計算]で作成または変更することができます。
--	--

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド


入力モード	器械点、視準点を入力するモード(標準、開放、放射)を設定します。
放射検索	器械点からの点数、距離、ワイルドカードを指定して視準点を放射検索し入力します。

用地境界点計算


1 用地境界点計算のコマンドの紹介

用地境界点計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()

用地境界点計算より算出された座標をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[用地境界点計算]で作成または変更することができます。

登録 ()

用地境界点計算より算出された座標および地番を登録します。外側の用地境界点は、[外側]ウィンドウの[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名、内側の用地境界点は、[内側]ウィンドウの[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初期設定


用地境界点を算出する計算方法、パラメータ、算出した用地境界点を登録する開始点番・点名を設定します。

拡幅計算


1 拡幅計算のコマンドの紹介

拡幅計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()

拡幅計算の結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[拡幅計算]で作成または変更することができます。

登録 ()

拡幅計算により求められた拡幅点の座標を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初期設定


道路曲線部の摺り付けをおこなう道路曲線(同向曲線か反向曲線か)を選択して、拡幅計算のパラメータ(直線部延長、直線部幅員、基点側半径、終点側半径、最大拡幅量、最小拡幅量、基点、方向点)を変更します。

境界点成果对比 計算


1 境界点成果対比計算のコマンドの紹介

境界点成果対比計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()

境界点成果対比計算された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[境界点成果対比計算]で作成または変更することができます。

登録 ()

計算より求められた確定座標を登録します。[B 点番] [B 点名]に入力されている点番点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初期設定


道路曲線部の摺り付けをおこなう道路曲線(同向曲線か反向曲線か)を選択して、拡幅計算のパラメータ(直線部延長、直線部幅員、基点側半径、終点側半径、最大拡幅量、最小拡幅量、基点、方向点)を変更します。

直線巾杭計算

1 直線巾杭計算のコマンドの紹介

直線巾杭計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	入力した基準線、定幅、測点をもとに、基準線に対する左右の位置、幅員(基準線と測点の距離)、定幅と幅員の差、測点から基準線上に垂線をおろした点の基準点 1 からの距離を計算して計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[直線巾杭計算]で作成または変更することができます。
--	---

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド


初期設定	直線巾杭計算の基準となる線、定幅を確認または変更します。
------	------------------------------

スライド計算


1 スライド計算のコマンドの紹介

スライド計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()

スライド計算された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[スライド計算]で作成または変更することができます。

登録 ()

スライド計算後の座標を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初期設定


dx、dy (X 座標、Y 座標における成果座標と実測座標の差)の制限値を確認または変更します。入力した成果座標と実測座標の dx、dy が制限値を超えた場合は、dx、dy の値の表示色が変わり、その値は dx、dy の合計値および平均値の算出には使用されません。

回歸直線

1 回帰直線のコマンドの紹介

回帰直線のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	左側、右側の回帰直線、中心線を求める条件を確認または変更して、計算書(回帰直線計算書、中心線予測計算書)を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[回帰直線]で作成または変更することができます。
--	---

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

計算条件	直線回帰するときや、中心線を決めるときの条件を入力します。
------	-------------------------------



定面積分割

1

定面積分割のコマンドの紹介

定面積分割のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書—新規作成 ()	定面積分割計算の計算結果をもとに、計算書を作成します。 計算書のフォームはフリーフォーマット作成の[定面積分割]で作成または変更することができます。
登録 ()	定面積分割計算により、新たにつくられた地番、座標を登録します。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

等分割	等分割計算を追加します。
面積	面積を指定して分割する計算を追加します。
距離	距離を指定して分割する計算を追加します。
オフセット	オフセットを指定して分割する計算を追加します。
初期設定	分割面積、仮座標、仮地番の初期設定を行います。
入替	分割の基準となる線(基準線 P1→基準線 P2)の P1 と P2 を入れ替えて、基準線の方法を反対にします。入れ替える基準線のセル([基準線 P1 点番]または[基準線 P2 点番])をクリックしてから、このコマンドを実行します。
残地を分割する	1つの地番を連続して分割する場合に、分割して残った方の形状を次々に分割するときは、このコマンドにチェックを付けます。チェックが付いているときは、2行目以降の[地番名]には、1つ前の行で分割した地番の残地の仮地番名が自動入力されます。チェックが付いていないときは、1行目で入力した地番名が2行目以降の[地番名]に自動入力されます。
計算追加	既に入力されている計算の1番最後に、新規に分割計算を追加します。
計算挿入	指定した分割計算の場所に、新しく分割計算を挿入します。
計算削除	指定した分割計算(等分割、面積指定、距離指定)を削除します。削除する分割計算のセルの項目をクリックしてから、このコマンドを実行します。
仮地番表示	分割計算により新しくつくられた地番の仮地番 No.、仮地番名、逆算座標法面積の表示、非表示を切り替えます。
仮座標表示	分割計算により新しくつくられた交点の仮点番.、仮点名、X 座標値、Y 座標値の表示、非表示を切り替えます。


地番プリント

1

地番プリントのコマンドの紹介

地番プリントのメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()

入力した地番をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[地番プリント]で作成または変更することができます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

地番名ソート


地番データを地番名順に並べ替えます。地番名順で地番をプリントする場合は、このコマンドを実行した後、[ファイル]-[計算書]-[新規作成]で地番データをプリントします。

面積計算

1 面積計算のコマンドの紹介

面積計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	直角座標法、倍横距法、三斜法、ヘロン法により求められた計算結果をもとに、それぞれの計算方法の計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[面積計算]で作成または変更することができます。
--	--

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド



地番名ソート	入力した地番データを地番名順に並べ替えます。地番名順で面積計算書を作成する場合は、このコマンドを実行した後、[ファイル]-[計算書]-[新規作成]で面積計算書を作成します。
地番ソート	地番を設定した通りに並べ替えます。比較結果が同じ場合は、セルの行番号で並べ替えを行います。
電子納品-座標地番 SIMA 出力	電子納品用 SIMA データを出力します。
電子納品-座標地番 SIMA プレビュー	電子納品用成果データを確認します。

街区一連計算

1 街区一連計算のコマンドの紹介

街区一連計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	街区一連計算の計算結果をもとに、計算書を作成します。 計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[街区一連計算]で作成または変更することができます。
登録 ()	街区一連計算により、新たに求められた地番、地番の構成点の座標を登録します。地番は、[地番 No] [地番名]に入力されている地番 No、地番名で、座標は、[頂点点番] [頂点点名] [街区点 1 点番] [街区点 1 点名] [街区点 2 点番] [街区点 2 点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド



計算追加	新たに街区一連計算を追加します。すでに入力されている計算の 1 番最後に追加されます。いくつかの地番の街区一連計算を連続しておこない、1 つの計算書にまとめてプリントする場合に有効です。
計算削除	指定した街区一連計算を削除します。削除する街区一連計算のセルの項目をクリックしてからこのコマンドを実行します。

多角形座標変換

1 多角形座標変換のコマンドの紹介

多角形座標変換のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	多角形座標変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[多角形座標変換]で作成または変更することができます。
登録 ()	多角形座標変換後の座標および座標より構成される地番を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初期設定	座標変換の最初の座標点(初点)、次の点(第2点)を確認または変更します。
------	--------------------------------------



凸凹補正計算

1

凸凹補正計算のコマンドの紹介

凸凹補正計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド



計算書-新規作成 ()	凸凹補正計算の計算結果をもとに、計算書を作成します。 計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[凸凹補正計算]で作成または変更することができます。
登録 ()	凸凹補正後の地番、新たに求められた境界点の座標を登録します。地番は、[登録地番 No][登録地番名]に入力されている地番 No、地番名で、座標は、[登録点番][登録点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

路線地番交点計算

1 路線地番交点計算のコマンドの紹介

路線地番交点計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	路線地番交点計算の計算結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[路線地番交点計算]で作成または変更することができます。
登録 ()	路線地番交点計算により新しくつくられた交点の座標、分割後の地番を登録します。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド



初期設定	路線地番交点計算を行うことにより新しくつくられる交点の開始点番、点名、新しくつくられる地番の開始地番 No、地番名、残地面積の最小値を設定します。
データ読み込み	路線測量で登録した巾杭データを読み込みます。すでに入力されている巾杭データに追加することもできます。
地番登録設定	地番の登録順序を設定します。[ファイル]-[登録]、[ファイル]-[計算書]-[新規作成]での作成時は、ここでの設定に従って地番登録順を並べ替えます。また、複数残地がある場合の処理を設定します。

N点固定 面積調整変換

1 N点固定面積調整変換のコマンドの紹介

N点固定面積調整変換のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書—新規作成 ()	N 点固定面積調整変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[N 点固定面積調整変換]で作成または変更することができます。
登録 ()	N 点固定面積調整変換後の座標および地番は、[ファイル]—[登録]で登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド


変換条件	入力した地番(入力した座標で構成される多角形)の変換後の面積を設定します。[面積調整変換条件]ダイアログで、変換後の面積を設定して[OK]をクリックすると、設定した面積になるように面積調整変換を行い、変換後の座標値を計算します。変換基準点は重心の点です。
再計算	設定されている座標の拘束状態で、設定されている面積になるように面積調整変換を行い、変換後の座標値を再計算します。変換基準点は重心の点です。 座標および座標の拘束状態を訂正した場合などは、未計算の状態に戻ります。したがって、面積調整変換後の計算書を作成したり、座標を登録するときは、必ずこのコマンドで、再計算を行ってください。

基準点測量

1 基準点測量のコマンドの紹介

基準点測量のメニューバーのコマンドを紹介します。

[ファイル]メニューのコマンド

計算書—新規作成 ()	観測手簿、距離計算簿、観測記簿、点検計算の各種計算書、網平均計算書、精度管理表などを作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[基準点測量]で作成または変更することができます。
--	---


[生データ]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド



現場情報	基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の 1 部は、精度管理表に印刷されます。 ただし、手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目（縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど）を確認、変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。
電子野帳取込み	電子野帳（データコレクタ）、各種メモリーカードに記録されている野帳データ（生データ）をコンピューターに取り込みます。[専用コマンド]—[接続条件]で接続する電子野帳の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
接続条件	電子野帳の機種、使用するシリアルポート、コンピューター側の通信条件（通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御）を設定します。
生データ出力	電子野帳で取り込んだ生データ（テキストファイルのデータ）を入力します。[専用コマンド]—[接続条件]で生データを観測した接続機種を設定してから、このコマンドを実行してください。
生データ入力	電子野帳で取り込んだ生データ（テキストファイルのデータ）を入力します。[専用コマンド]—[接続条件]で生データを観測した接続機種を設定してから、このコマンドを実行してください。
年に 2000 をプラスする	[専用コマンド]—[電子野帳取込み]で野帳データを取り込むときに、年に 2000 をプラスするかしないかを切り替えます。
ミラー定数確認	生データ内の距離、ミラー定数などを確認します。標準フォーマット（APA・SIMA）を取り込み時のみ確認可能です。



[測点]タブの[基準点測量]メニューのコマンド

現場情報	基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の 1 部は、精度管理表に印刷されます。 ただし、手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目（縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど）を確認、変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。
電子野帳取込み	電子野帳取込で各種電子野帳（データコレクタやメモリーカード）からコンピューターに転送された観測データ、または手入力した観測データを読み込み、基準点の観測データに変換します。 電子野帳取込でも手簿計算を行えますが、このコマンドでは観測データのみを読み込みます。したがって、電子野帳取込で手簿計算を行う必要はありません。手簿計算されていても、記簿データ（中数データ）は読み込まれません。
路線合成	別の基準点測量の観測データを、すでに入力されている観測データの最後に追加します。途中に挿入することはできません。また、読み込んだ観測データは観測順が変わってしまうため移動できないので注意してください。

[手簿]タブの[基準点測量]メニューのコマンド	
現場情報	<p>基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の 1 部は、精度管理表に印刷されます。</p> <p>ただし、手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目（縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど）を確認、変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。</p>
器械点情報	<p>器械点の情報（器械点名、器械高、対回数、方向数など）を設定します。</p> <p>[測点]タブの[基準点測量]－[電子野帳取込み]で、電子野帳データを読み込んだ場合は、電子野帳データの器械点情報が初期値として表示されます。</p>
測点一覧	測点一覧から測点を指定して入力します。
手簿計算	観測データの対回計算（中数計算）を行って、記簿データを作成します。
手簿分割	指定した範囲の視準データを分割して、新たな器械点を作成します。同一器械点の中に対回データと単回データが混在している場合などは、ここで器械点を分割してください。
手簿合成	他の器械点の視準点データを読み込み、現在表示中の視準点データと合成します。
器械点对回情報作成	器械点情報の対回数、方向数（[専用コマンド]－[器械点情報]の[対回数][方向数]で設定）を視準データの測点名から判断して自動的に設定し直します。
視準点对回情報作成	視準データの[対回][方向][望遠鏡]を器械点情報の対回数、方向数（[専用コマンド]－[器械点情報]の[対回数][方向数]で設定）から判断して、自動的に設定し直します。
点検測量	<p>点検測量を行った手簿データを読み込み、点検値と採用値を比較します。</p> <p>ただし、手簿計算が行われていない手簿データは読み込むことができません。</p> <p>点検測点数は、作業規程より後視点を入れない観測数（観測器械点数）の5%とします。点検測量の内容は、精度管理表の点検測量の欄に印刷されます。</p>
記簿	記簿データを確認または変更します。
制限値	<p>手簿計算を行ってからコマンドを実行してください。</p> <p>手簿データの水平角の倍角差、観測差、鉛直角の定数差、距離の内較差、間較差を一覧表示します。制限をオーバーしたデータは赤色で表示します。制限から外れた観測、または制限内でも精度の悪い観測を探す場合に有効です。</p>
制限値設定	観測における制限を設定します。
全体形状確認	視準データの全体形状を表示します。また、このコマンドを実行した際には、自動的に手簿計算がおこなわれます。
標準フォーマット（APA）出力	[手簿]ウインドウの器械点一覧および観測データセルの内容を、標準フォーマット（APA・SIMA）ファイル形式で出力します。
[点検路線]タブの[基準点測量]メニューのコマンド	
現場情報	<p>基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の 1 部は、精度管理表に印刷されます。</p> <p>ただし、手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目（縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど）を確認、変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。</p>
閉合差制限	路線単位での閉合差（許容範囲）制限を設定します。
測点一覧	測点一覧から測点を指定して入力します。
次点検索	点検路線の次点を自動検索して[測点]セルに入力します。

[点検路線]タブの[基準点測量]メニューのコマンド	
点検計算	入力した点検路線にしたがって、高度角補正計算、器械高目標高補正計算（偏心点があるとき）、高低計算、偏心補正計算（偏心点があるとき）、座標計算を行います。
[厳密網測点]タブの[ファイル]メニューのコマンド	
登録()	厳密水平網平均計算、厳密高低網平均計算より算出された求点（新点、交点）の座標を登録します。
[厳密網測点]タブの[厳密網]メニューのコマンド	
上位桁	求点の座標を入力する場合の X 座標、Y 座標の不変値を設定します。入力される座標は、「上位桁+入力値（正負）」になります。上位桁の設定値がマイナスの場合、「上位桁-入力値（正負）」になります。
現場情報	基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の 1 部は、精度管理表に印刷されます。 ただし、手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目（縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど）を確認、変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。
初期設定	地区名、厳密網計算を行う平面直角座標系、重量計算の要素を設定します。
データ作成	記簿データを読み込んで、厳密網のデータを作成します。
網一括計算	入力した厳密網データより、厳密水平網平均計算、厳密高低網平均計算を一括して行います。
水平網計算	入力した厳密網データより、厳密水平網平均計算を行います。
高低網計算	入力した厳密網データより、厳密高低網平均計算を行います。
水平網会社名登録	厳密水平網平均計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
高低網会社名登録	厳密高低網平均計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
成果数値データ出力（作業規程）	厳密網平均計算によって作成された成果数値データを、アスキー形式テキストファイルに変換します。フロッピーディスクなどの電子媒体に、成果数値データを記録して提出する場合に使用します。
路線名編集	厳密網の路線名称を変更します。
地籍測量名称-路線名称作成	1/5000 図郭名称、次数を元に水平網・高低網の両方の路線名称を変更します。ただし、水平網・高低網で路線数が違う場合は、水平網のみ変更します。[初期設定]で地籍測量に設定されている場合に有効です。
地籍測量名称-測点名称作成	1/5000 図郭名称、路線名称を元に測点名称を作成します。ただし、放射法による細部図根点番号を付加した測点名称の作成は対応していません。[初期設定]で地籍測量に設定されている場合に有効です。
電子納品-成果数値データ出力	電子納品用成果データを出力します。測量成果電子納品要領(案)の付属資料にある成果表出力フォーマットに準拠します。
電子納品-地籍調査成果簿出力	電子納品用地籍(基本)調査成果簿の三角点成果簿の数値データファイルを出力します。
電子納品-成果数値プレビュー	電子納品用成果データを確認します。

[厳網球距離][厳網観測角][厳網高低角]タブの[厳密網]メニューのコマンド	
現場情報	<p>基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の 1 部は、精度管理表に印刷されます。</p> <p>ただし、手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目（縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど）を確認、変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。</p>
[任網水平]タブの[ファイル]メニューのコマンド	
登録()	任意型簡易水平網平均計算より算出された新点、交点の X、Y 座標値を登録します。
[任網水平]タブの[任意網]メニューのコマンド	
現場情報	<p>基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の 1 部は、精度管理表に印刷されます。</p> <p>ただし、手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目（縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど）を確認、変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。</p>
初期設定	偏差の許容値、座標系、路線名、初点データを設定します。
データ作成	記簿データを読み込んで、任意型簡易網のデータを作成します。
路線選択	路線を変更、追加、削除します。
水平網計算	入力した任意簡易網のデータより、任意型簡易水平網平均計算を行います。
水平網会社名登録	任意型簡易水平網平均計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
成果数値データ出力(作業規程)	任意型簡易水平網平均計算によって作成された成果数値データを、アスキー形式テキストファイルに変換します。フロッピーディスクなどの電子媒体に、成果数値データを記録して提出する場合に使用します。
地籍測量名称-路線名称作成	1/5000 図郭名称、次数を元に水平網・高低網の両方の路線名称を変更します。ただし、水平網・高低網で路線数が違う場合は、水平網のみ変更します。[初期設定]で地籍測量に設定されている場合に有効です。
地籍測量名称-測点名称作成	1/5000 図郭名称、路線名称を元に測点名称を作成します。ただし、放射法による細部図根点番号を付加した測点名称の作成は対応していません。[初期設定]で地籍測量に設定されている場合に有効です。
電子納品-成果数値データ出力	電子納品用成果データを出力します。測量成果電子納品要領(案)の付属資料にある成果表出力フォーマットに準拠します。
電子納品-地籍調査成果簿出力	電子納品用地籍(基本)調査成果簿の図根多角点成果簿の数値データファイル、地籍細部図根測量成果簿の数値データファイルを出力します。
電子納品-成果数値プレビュー	電子納品用成果データを確認します。
[任網高低]タブの[ファイル]メニューのコマンド	
登録()	任意型簡易高低網平均計算より算出された新点、交点のZ座標値を登録します。

[任網高低]タブの[任意網]メニューのコマンド	
現場情報	<p>基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の 1 部は、精度管理表に印刷されます。</p> <p>ただし、手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目（縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど）を確認、変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。</p>
初期設定	偏差、座標系、路線名、初点標高を設定します。
データ作成	記簿データを読み込んで、任意型簡易網のデータを作成します。
路線選択	路線を変更、追加、削除します。
高低網計算	入力した任意型簡易網データより、任意型簡易高低網平均計算を行います。
高低網会社名登録	任意型簡易高低網平均計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
[単路水平]タブの[ファイル]メニューのコマンド	
登録()	単路線水平平均計算より算出された新点の X、Y 座標値を登録します。
[単路水平]タブの[単路線]メニューのコマンド	
現場情報	<p>基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の 1 部は、精度管理表に印刷されます。</p> <p>ただし、手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目（縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど）を確認、変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。</p>
初期設定	偏差の許容値、座標系、路線名、初点データを設定します。
データ作成	[点検路線]タブで入力した路線より点検計算済みの記簿データを読み込んで、単路線データを作成します。
水平計算	入力した単路線データより、単路線水平計算を行います。
水平網会社名登録	単路線水平計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
地籍測量名称-路線名称作成	1/5000 図郭名称、次数を元に水平網・高低網の両方の路線名称を変更します。ただし、水平網・高低網で路線数が違う場合は、水平網のみ変更します。 [初期設定]で地籍測量に設定されている場合に有効です。
地籍測量名称-測点名称作成	1/5000 図郭名称、路線名称を元に測点名称を作成します。ただし、放射法による細部図根点番号を付加した測点名称の作成は対応していません。 [初期設定]で地籍測量に設定されている場合に有効です。
電子納品-成果数値データ出力	電子納品用成果データを出力します。測量成果電子納品要領(案)の付属資料にある成果表出力フォーマットに準拠します。
電子納品-地籍調査成果簿出力	電子納品用地籍(基本)調査成果簿の三角点成果簿の数値データファイルを出力します。
電子納品-地成果数値プレビュー	電子納品用成果データを確認します。
[単路高低]タブの[ファイル]メニューのコマンド	
登録()	単路線高低平均計算より算出された新点の Z 座標値を登録します。


[単路高低]タブの[単路線]メニューのコマンド	
現場情報	<p>基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の 1 部は、精度管理表に印刷されます。</p> <p>ただし、手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目（縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど）を確認、変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。</p>
初期設定	偏差、座標系、路線名、初点標高、結合標高を設定します。
データ作成	[点検路線]タブで入力した路線より点検計算済みの記簿データを読み込んで、単路線データを作成します。
高低計算	入力した単路線データより、単路線高低計算を行います。
高低網会社名登録	単路線高低計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。

ST計算（検定）

1 ST計算(検定)のコマンドの紹介

ST計算(検定)のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	ST 計算(検定)より求められた計算結果をもとに、ST 計算書(検定フォーム)を作成します。
--	--

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

会社名登録	計算書の表紙に出力するユーザー様の会社名、プログラム管理者を登録します。登録した会社名、プログラム管理者は、計算書のプログラム管理者の欄に「会社名 プログラム管理者」として出力されます。
-------	---


経緯度座標変換 (検定)

1

経緯度座標変換(検定)のコマンドの紹介

経緯度座標変換(検定)のメニューバーのコマンドを紹介します。

[経緯度→座標][座標→経緯度]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()

経緯度座標変換(検定)より求められた結果をもとに、計算書を作成します。

[経緯度→座標][座標→経緯度]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

会社名登録


計算書の表紙に出力するユーザー様の会社名、プログラム管理者を登録します。登録した会社名、プログラム管理者は、計算書のプログラム管理者の欄に「会社名 プログラム管理者」として出力されます。

水準測量

1 水準測量のコマンドの紹介

水準測量のメニューバーのコマンドを紹介します。


[手簿]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書—新規作成 ()	水準観測手簿を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[水準測量]の[観測手簿]で作成または変更することができます。
--	--

[手簿]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド


電子レベルデータ読み込み	電子レベル取込で電子レベルから取り込んだ直接水準測量のデータを読み込みます。電子レベル取込の作業データに保存されている電子レベルデータが、1つの路線の観測データとして読み込まれます。読み込まれた路線は、現在画面に表示されている路線の前に挿入されます。
水準点選択	[自・至水準点]の水準点名・標高を、既に登録されている水準点から選択して設定します。
等級変更	選択中の路線の等級を変更します。
観測条件入力	観測条件を、観測データ単位(往路、復路、再測 1、再測 2 再測 3)に入力します。[専用コマンド]—[電子レベルデータ読み込み]で電子レベルのデータを読み込んだときは、電子レベル側で記録した観測条件が表示されます。
プロット縦横比	形状プロットの縦横の比率を変更します。
合成	現在表示されている路線の観測データに、指定した路線の観測データを合成します。このコマンドは、[専用コマンド]—[電子レベルデータ読み込み]で、別々の片道の路線として読み込まれた往路、復路、再測などの路線を 1つの路線に合成するときに有効です。
手簿計算(結果一覧)	手簿計算結果を一覧表示します。
点検測量	点検用路線を確認・編集します。

[路線]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書—新規作成 ()	水準網平均計算書を作成します。計算書のフォームは、日本測量協会の検定を受けていて、変更することができません。 全路線・観測者ごとの 1km 当たりの標準偏差計算書を作成することもできます。この計算書は、変動量計算水準網のとき([初期設定]ダイアログで[変動量計算]が「行う」のとき)のみ作成可能です。 精度管理表を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[水準測量]の[精度管理表]で作成または変更することができます。
--	---

[路線]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初期設定	厳密水準網平均計算の計算モード、補正方法などを設定します。厳密水準網平均計算は、日本測量協会の検定を受け、国土地理院に登録されています。
現場情報	水準測量における現場情報を入力します。ここで入力した現場情報は、精度管理表に印刷されます。
手簿路線読み込み	[手簿]タブの路線データを読み込みます。複数の路線データを一括して読み込むこともできます。ただし、簡易水準測量のデータは読み込むことができません。
成果読み込み	[成果]タブの成果データを読み込みます。[成果]タブの[専用コマンド]—[固定フォーマット読み込み]で取り込んだ固定フォーマット(地理院フォーマット)のデータを読み込む場合に有効です。
既知点・求点入力	既知点、求点の点名及び標高を入力します。求点を入力するときは、必ず、既知点を全て入力後、求点を入力してください。


[路線]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
会社名登録	厳密水準網平均計算書の表紙に出力するユーザー様の会社名、プログラム管理者名を登録します。ここで登録した会社名、プログラム管理者名は、水準網平均計算書を作成したときに、プログラム管理者の欄に「会社名 プログラム管理者名」として出力されます。
点検路線	路線を連結して、既知点間結合または環閉合になる点検路線を作成します。
水準網平均計算	入力した水準網データより、水準網平均計算を行います。
電子納品ー成果表出力	電子納品用成果データを出力します。測量成果電子納品要領(案)の付属資料にある成果表出力フォーマットに準拠します。
電子納品ー成果表プレビュー	電子納品用成果データを確認します。
[成果]タブの[ファイル]メニューのコマンド	
計算書ー新規作成()	観測成果表を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[水準測量]の[成果表]で作成または変更することができます。
[成果]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
水準点選択	[水準点名]および[初点標高]セルに入力する水準点名及び標高を、登録されている水準点一覧から選択します。
成果条件入力	成果データの条件を入力します。条件は、各路線の自点、至点で設定します。条件を設定する行の項目をクリックしてから、このコマンドを実行してください。
手簿路線読み込みー水準点のみ	[手簿]タブの路線データの水準点を読み込みます。複数の路線を一括して読み込むこともできます。このコマンドでは、各路線の自点、水準点([モード]が[水準点]の測点)、至点を水準点として取り込みます。
手簿路線読み込みー固定点あり	[手簿]タブの路線のデータを固定点まで読み込みます。複数の路線を一括して読み込むこともできます。このコマンドでは、各路線の自点、水準点([モード]が[水準点]の測点)、固定点([モード]が[固定点]の測点)、至点を水準点として取り込みます。
網平均路線読み込みー自点ー至点	[路線]タブの小規模水準網路線または変動量計算水準網路線の自点、至点のみを読み込みます。[路線]タブで、水準網平均計算を行ってからこのコマンドを実行してください。
網平均路線読み込みー全データ	[路線]タブの網平均路線データを読み込みます。このコマンドでは、各路線の全ての点を水準点として取り込みます。
固定フォーマット読み込み	固定フォーマット(地理院フォーマット)のデータを読み込みます。
電子納品ー観測成果表出力	電子納品用観測成果データを出力します。測量成果電子納品要領(案)の付属資料にある成果表出力フォーマットに準拠します。
電子納品ー観測成果表プレビュー	電子納品用観測成果データを確認します。

点の記

1 点の記のコマンドの紹介

点の記のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	入力した座標をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[点の記]で作成または変更することができます。
--	--

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

計算書グループ選択	作成する計算書グループを選択します。
点名ソート	[データ入力]の座標データを点名で並べ替えます。

数值地籍情報

1

数値地籍情報のコマンドの紹介

数値地籍情報のメニューバーのコマンドを紹介します。


[地区情報][地図番号][図根点][筆・長挟物][仮行政界]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
地籍フォーマット2000ファイル読み込み	地籍フォーマット 2000 データを読み込みます。
地籍フォーマット2000ファイル書き込み	データを地籍フォーマット2000データの形式に変換してファイルに書き込みます。
連動設定	地番管理との所有者・共有者情報の連動方法を設定します。
[筆界点]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
地籍フォーマット2000ファイル読み込み	地籍フォーマット 2000 データを読み込みます。
地籍フォーマット2000ファイル書き込み	データを地籍フォーマット2000データの形式に変換してファイルに書き込みます。
連動設定	地番管理との所有者・共有者情報の連動方法を設定します。
電子納品ー地籍調査成果簿出力	電子納品用地籍(基本)調査成果簿の筆界点成果簿の数値データファイルを出力します。
電子納品ー成果数値プレビュー	電子納品用成果データを確認します。
[筆属性]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
地籍フォーマット2000ファイル読み込み	地籍フォーマット 2000 データを読み込みます。
地籍フォーマット2000ファイル書き込み	データを地籍フォーマット2000データの形式に変換してファイルに書き込みます。
連動設定	地番管理との所有者・共有者情報の連動方法を設定します。
電子納品ー地籍調査成果簿出力	電子納品用地籍調査成果簿の地積測定成果簿の数値データファイルを出力します。
電子納品ー成果数値プレビュー	電子納品用成果データを確認します。
[共有者]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
地籍フォーマット2000ファイル読み込み	地籍フォーマット 2000 データを読み込みます。
地籍フォーマット2000ファイル書き込み	データを地籍フォーマット2000データの形式に変換してファイルに書き込みます。
連動設定	地番管理との所有者・共有者情報の連動方法を設定します。
共有者の追加	共有者に 2 人以上入力されている地番を参照し、地番情報を地番管理から取得し追加します。
[筆界未定構成]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
地籍フォーマット2000ファイル読み込み	地籍フォーマット 2000 データを読み込みます。
地籍フォーマット2000ファイル書き込み	データを地籍フォーマット2000データの形式に変換してファイルに書き込みます。
連動設定	地番管理との所有者・共有者情報の連動方法を設定します。
筆界未定地の追加	地番管理の[地籍地番情報]が筆界未定地の地番が、筆界未定地番に入力されていない場合は追加します。筆界未定地番 No および地番 No に入力されている地番を参照し、地番情報を地番管理から取得し更新します。

精度管理表 (地籍)

1 精度管理表(地籍)のコマンドの紹介

精度管理表(地籍)のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成()	精度管理表を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[精度管理表(地籍)]で作成または変更することができます。
---	---

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

データ読み込み	トラバース計算、基準点測量のデータを読み込みます。
路線名ソート	路線名で並べ替えます。
成果簿情報	成果簿情報を設定します。
基準点厳密網-詳細情報	読み込んだ基準点厳密網の詳細情報を確認・編集します。

精度管理表 (座標)

1

精度管理表(座標)のコマンドの紹介

精度管理表(座標)のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初期設定


精度管理表を作成するための初期条件を設定します。

地積測定

1 地積測定のコマンドの紹介

地積測定のマニューバーのコマンドを紹介します。

[求積地番][外周地番]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()

抽出地番をもとに計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[地積測定]で作成または変更することができます。

[求積地番][外周地番]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

ソート



地番を設定した通りに並べ替えます。

路線測量






1 路線測量のコマンドの紹介

路線測量のメニューバーのコマンドを紹介します。






[路線計画]タブの[ファイル]メニューのコマンド




















計算書—新規作成 ()	路線データより算出された座標をもとに計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[路線測量]で作成または変更することができます。
登録 ()	IP 点、各路線計算により求められた主要点(役杭)、中間点、プラス杭を座標登録します。



















[路線計画][巾杭]タブの[路線条件]メニューのコマンド




















初期条件 ()	初期条件として、路線名、データの入力法、IP 開始 No、IP 点および中間点の登録開始点番、No 杭および中間点のピッチ、初点杭 No および追加距離を設定します。
表示条件 ()	路線プロットに表示する路線データ、座標地番データ、CAD データなどの、結線、マーク、名称の有無、色、表示方法、その他属性について設定します。
計算条件 ()	路線計算における直線部の弦方向角、横断角の算出方法、マイナス測点の表示方法、河川対応の有無、クロソイド部の単曲線の SP の有無について設定します。
路線スタイル ()	路線計画で IP 点の入力をするときに、そのときの IA により曲線要素を自動的に入力することができます。この IA の範囲に対する曲線要素をスタイル(条件)として設定します。
測点スタイル ()	路線計算で作成される IP 点、主要点(役杭)、中間点(No 杭)、巾杭、および役杭の座標が一致したときの名前の付け方を設定します。点名スタイルは保存することができ、別の現場、別の作業データからでも呼び出すことができます。
表示距離丸め	中間点要素表、主要点計算書、中間点計算書で表示される単距離、追加距離の表示距離の丸めを設定します。路線計算は、[ツール]—[条件設定]で設定した丸めを使用しています。[ツール]—[条件設定]の距離の丸めを適用した追加距離に、ここで設定したを表示距離丸めを適用して表示します。単距離は、丸めを適用した[実際の追加距離]から再計算します。

[路線計画][巾杭]タブの[路線計画]メニューのコマンド

作業範囲設定 ()	路線プロットの作業範囲を左下座標と右上座標で設定します。現場に登録されている座標値が 2 点未満で、[IP 法路線入力(CAD)]コマンドでマウスによる線形入力を行うときに使用します。登録座標が 2 点以上ある時、路線データ入力後は、このコマンドは選択することができません。
IP 法路線入力(CAD) ()	IP 法の路線データの入力を路線プロット上をマウスでクリックして行います。各 IP 点の曲線要素は路線スタイルと IA より算出され自動入力されます。このコマンドを効率よく使用するには、事前に[路線条件]—[路線スタイル]で路線スタイルを設定しておく必要があります。また、IP 点は既知点をピックすることも、自由な位置をクリックして新規に作成することもできます。
IP 法路線入力(表) ()	要素表上で、IP 法の路線データの入力を行います。既に路線データが入力されているときは、そのデータを消去して新規入力になります。
IP 法路線訂正(表) ()	要素表上で、IP 法の路線データの訂正を行います。
IP 点追加 ()	入力されている IP 法の線形に対して、路線プロット上をマウスでクリックして路線データの追加を行います。追加された IP 点の曲線要素は路線スタイルと IA より算出され自動入力されます。

[路線計画][巾杭]タブの[路線計画]メニューのコマンド	
IP 点挿入 ()	入力されている IP 法の線形に対して、路線プロット上をマウスでクリックして IP 点の挿入を行います。挿入された IP 点の曲線要素は路線スタイルとIAより算出され自動入力されます。
IP 点削除 ()	入力されている IP 法の線形に対して、路線プロット上をマウスでクリックして IP 点の削除を行います。このとき削除された前後の IP 点の曲線要素は変化しません。
IP 点移動-フリ ()	入力されている IP 法の線形に対して、路線プロット上の IP 点をマウスで自由な位置に移動します。このとき設定されている曲線要素は変化しません。
IP 点移動-IP 結線上に移動 ()	入力されている IP 法の線形に対して、路線プロット上の IP 点を指定した IP 結線の範囲内でマウスで移動します。このとき設定されている曲線要素は変化しません。
IP 点移動-IP 結線平行移動 ()	入力されている IP 法の線形に対して、路線プロット上の IP 結線をマウスで平行移動し、両端の IP 点を移動します。このとき設定されている曲線要素は変化しません。
IP 法曲線要素詳細表示 ()	入力されている IP 法の線形に対して、路線プロット上の IP 点をマウスで指定して、その曲線要素を表示します。
垂線の足-新規入力 ()	入力されている路線データに対して、垂線データを入力します。路線外の点から路線上に垂線をおろして、垂線の長さ、路線上の位置を求めることができます。すでに垂線データが入力されているときは、そのデータを消去して新規入力になります。
垂線の足-訂正 ()	垂線データを訂正します。
垂線の足-削除 ()	垂線データを削除します。
垂線の足-距離表示 ()	路線プロット上の垂線データをマウスでクリックして、路線までの距離、路線上の位置を確認します。
中間点表示 ()	現在入力されている路線データ、垂線データ、プラス杭データ、ブレーキ点データにより計算された中間点の一覧を表示します。この一覧上で算出された中間点について、登録点番、点名の変更、表示追加距離の変更、座標登録するしないの設定を行うことができます。
+ (プラス) 杭-新規入力 ()	入力されている路線データに対して、プラス杭データを入力します。すでにプラス杭データが入力されているときは、そのデータを消去して新規入力になります。
+ (プラス) 杭-訂正 ()	プラス杭データを訂正します。
+ (プラス) 杭-ピッチ入力 ()	入力されている路線データに対して、指定した区間内に等ピッチでプラス杭データを入力します。
ブレーキ点-入力 ()	入力されている路線データに対して、ブレーキ点を入力します。ブレーキ点は中間点やプラス杭などの既知点を指定することも、新点(プラス杭)として作成することもできます。ただし、主要点(役杭)をブレーキ点に指定したときは、新点(プラス杭)を作成してブレーキ点とします。
ブレーキ点-一覧 ()	入力されているブレーキ点を一覧表示します。
S 型路線計算-IP 点固定 ()	入力されている路線データに対して、IP 点は固定のまま曲線要素のみを調整して S 型曲線(単曲線またはクロノイド曲線)を設置します。
S 型路線計算-始終点固定 ()	入力されている路線データに対して、始点位置または終点位置と曲線要素を指定して S 型曲線(単曲線またはクロノイド曲線)を設置します。
S 型路線計算-単曲線固定 ()	入力されている路線データに対して、単曲線部を固定した上でクロノイドパラメータを調整して、S 型クロノイド曲線を設置します。









[路線計画][巾杭]タブの[路線計画]メニューのコマンド	
他路線表示 ()	路線プロットに別の作業データの路線形状を表示します。複数の路線を同時に表示することができます。
平行線表示 ()	路線プロットに表示されている路線データに対して、巾を指定して平行線を表示します。
他路線計算 ()	現在入力されている路線データと、別の作業データの路線データとで交点計算を行い、算出座標を現在の路線データにプラス杭として登録します。
ラスターデータ配置 ()	ラスターデータ(画像・写真)を配置します。読み込むラスターデータの量およびメモリの容量によって読み込めない場合もあります。
ラスターデータ書込み ()	路線プロット上に配置されているラスターデータを書き込みます。
ラスターデータ部分削除 ()	路線プロット上に貼り付けられているラスターデータを部分的に削除します。
ラスターデータ全削除 ()	路線プロット上に貼り付けられているラスターデータを削除します。
ラスターデータ-GeoTIFF 配置 ()	GeoTIFF を配置します。
外部ファイル読み込み-CAD ()	路線プロット上に CAD の作業データ、XYCLONE・Fieldcom ファイル、X-FIELD ファイルを読み込みます。
外部ファイル読み込み-DXF ()	路線プロット上に、DXF・DWG 形式のデータを読み込みます。作業範囲が設定されていないと有効になりません。
外部ファイル読み込み-SIMA ()	路線 SIMA 形式のアスキーファイルを路線測量のデータとして読み込みます。
外部ファイル読み込み-X-FIELD ファイル ()	X-FIELD ファイルの路線データを読み込みます。
外部ファイル書込み-SIMA ()	路線測量で作成した路線データを、SIMA データに変換して書き込みます。
外部ファイル書込み-Pocket ()	路線測量で作成した路線データを、POCKET の座標計算杭打ちプログラムで使用するデータ(pcr)としてファイルに書き込みます。
外部ファイル書込み-X-FIELD・XYCLONE 路線データ ()	路線測量で作成した路線データを、X-FIELD・XYCLONE で読み込めるデータ(xrf)としてファイルに書き込みます。
外部ファイル書込み-CIMPHONY 連携 ()	CIMPHONY へ作業データ(線形)をアップロードします。 ※オプションサービスが必要です。
外部ファイルデータ削除-CAD ()	路線プロット上に貼り付けられている CAD のデータを全て削除します。
外部ファイルデータ削除-DXF ()	路線プロット上に貼り付けられているDXF・DWG形式のデータを全て削除します。
電子納品-成果テキスト出力	電子納品用成果データを出力します。 電子納品用成果データは作業データに 1 つだけ保持し、測量計算・図面データビューアーで利用できます。複数作成できません。
電子納品-成果テキストプレビュー	電子納品用成果データを確認します。














[路線計画][巾杭]タブの[汎用コマンド]メニューのコマンド	
制御－確定()	連続してデータを入力する場合などで、最終的に確定する場合に使用するコマンドです。
制御－後退()	データの入力処理の過程、または編集処理の過程で一つ前の入力状態に戻します。
制御－取消()	確定前の入力データやデータの選択範囲などを取り消す場合などに使用するコマンドです。
制御－中止()	実行中のコマンドを終了し、コマンド選択または、オブジェクト選択状態にします。
表示－範囲拡大()	指定範囲を拡大します。
表示－倍率拡大()	表示範囲を、一定倍率で拡大します。
表示－倍率縮小()	表示範囲を、一定倍率で縮小します。
表示－移動(枠指定)()	表示範囲を移動します。
表示－原図()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。
表示－原図領域()	表示範囲を、原図コマンドで表示する「原図領域」に設定します。
表示－前表示()	表示範囲、表示率を 1 つずつ戻します。ただし、戻せる回数は 5 回までです。
表示－再描画()	画面内容を表示し直します。
[巾杭]タブの[ファイル]メニューのコマンド	
計算書－新規作成()	巾杭データより算出された座標をもとに計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[路線測量]で作成または変更することができます。
登録()	[巾杭]タブで入力した巾杭データから算出される巾杭点を座標登録します。
[巾杭]タブの[巾杭]メニューのコマンド	
初期条件()	巾杭計算時の点番の付け方、左右逆にするしない、折れ点の巾の取り方について設定します。
点名入力()	主要点名や中間点名を指定して巾杭を作成する杭 No+L の入力を行います。
縦横断データ読込()	縦横断測量の[現況]で入力した控杭、[横断計画]で入力した巾杭算出点、現況交点のデータを読み込んで、巾杭データとして入力します。
巾杭点表()	[巾杭]タブで入力した情報をもとに算出した巾杭点の点番点名を入力します。
幅員・拡幅個別入力()	幅員と拡幅量込みの巾杭を入力します。


















縦横断測量





















1 縦横断測量のコマンドの紹介



















縦横断測量のメニューバーのコマンドを紹介します。




















[縦断入力]の[ファイル]メニューのコマンド	
計算書-新規作成 ()	縦横断測量の各種計算書を印刷するには、[ファイル]-[計算書]-[新規作成]で行います。計算書のフォーム(様式)はフリーフォーマット作成で作成または変更することができます。
[縦断入力]の[縦断共通]メニューのコマンド	
表示条件 ()	[縦断野帳][縦断現況][縦断計画]タブのプロットに表示する縦断現況データの線、測点名の有無、色、表示方法などについて設定します。
横断図プロット表示 ()	横断現況線と計画線の形状を表示するダイアログの表示非表示を切り替えます。
構造物-入力 ()	[縦断野帳]または[縦断現況]タブで構造物を入力します。
構造物-訂正 ()	構造物の属性を変更します。
構造物-削除 ()	構造物を削除します。
リンク ()	点に写真をリンク付けします。
パラメトリック編集 ()	パラメトリックを起動して、構造物を編集します。
土工一覧表	[詳細土量]タブで入力した土量データを読み込んで、土工一覧表を作成します。ここでデータを編集することもできます。
表示距離丸め	計算書に表示する単距離、追加距離の丸めを設定します。
外部ファイル読み込み-縦断観測 SIMA	本プログラムや他プログラムで作成した縦断観測 SIMA データ(バージョン 03)を縦横断測量の縦断観測データに読み込みます。
外部ファイル読み込み-縦横断 SIMA	本プログラムや他プログラムで作成した縦横断 SIMA データを縦横断測量の成果データに読み込みます。
外部ファイル読み込み-縦横断アスキー	他のプログラムで作成した縦横断アスキーデータを縦横断成果データに変換し、開いている現場の縦横断測量の[縦断現況]タブに読み込みます。縦横断測量の[縦断現況]タブにすでに成果データが入力されている場合、既存のデータは消去されますのでご注意ください。
外部ファイル読み込み-JEC 縦断観測	JECの縦断観測データ(*.58)を縦横断測量の縦断野帳データに読み込みます。
外部ファイル書き込み-縦断観測 SIMA	縦横断測量で作成した縦断観測データを、縦断観測 SIMA データ(バージョン 03)に変換します。
外部ファイル書き込み-縦横断 SIMA	縦横断測量で作成した縦断・横断成果データを、縦横断 SIMA データに変換します。
外部ファイル書き込み-縦横断アスキー	現在開いている《縦横断測量》の[縦断現況]ウィンドウに入力されている縦断・横断成果データを縦断アスキーまたは横断アスキーに変換します。縦横断 SIMA とは異なり、1つのファイルにすることはできません。
電子納品-縦断成果テキスト出力	電子納品用縦断成果データを出力します。電子納品用縦断成果データは作業データに1つだけ保持し、測量計算・図面データビューアーで利用できます。複数作成できません。





















[縦断入力]の[縦断共通]メニューのコマンド	
電子納品－横断成果テキスト出力	電子納品用横断成果データを出力します。電子納品用横断成果データは作業データに 1 つだけ保持し、測量計算・図面データビューアーで利用できます。複数作成できません。
電子納品－成果テキストプレビュー	電子納品用成果データを確認します。
[縦断入力]の[縦断野帳]タブの[縦断測量]メニューのコマンド	
初期条件 ()	縦断野帳データの観測 (往復観測か往路観測か)、観測方向を設定します。
分割観測－追加 ()	複数に分けて観測した縦断野帳データを入力する場合に、分割観測入力ページを追加 (同路線名) します。クリックするごとに入力ページが作成され、1 路線につき 5 観測まで追加できます。
分割観測－削除 ()	[縦断野帳]タブに表示されている分割観測を削除します。このコマンドは、分割観測のデータが入力されている場合のみ有効です。
路線データ取り込み ()	[縦断条件]タブの杭下観測順、[縦断測量]－[初期条件]の観測 (往復観測か往路観測か)、観測方向の設定で、路線データを読み込みます。
電子野帳データ取り込み ()	[縦断測量]－[路線データ取り込み]で路線データを読み込んだ後に、電子野帳データを読み込みます。
電子レベルデータ取込み ()	電子レベル取込で電子レベルやデータコレクタから取り込んだレベルデータを読み込み、縦断野帳データにします。
X-FIELD 縦断観測データ取込み ()	X-FIELD の縦断観測データを取り込みます。
CIMPHONY 連携 ()	CIMPHONY 上に保存されている作業データ (観測) を取り込みます。(ダウンロードのみ可能です。) ※オプションサービスが必要です。
成果作成 ()	入力した縦断野帳データより、縦断成果データ (現況データ) を作成します。補正配分方法、往復平均方法は、[縦断条件]タブの[野帳計算]の[補正配分方法][往復平均方法]で設定します。
[縦断入力]の[縦断現況]タブの[縦断測量]メニューのコマンド	
路線データ取り込み ()	路線測量のデータから、センター測点とその単距離、実追加距離、追加距離、曲線要素 (縦横断計画に連動) を読み込みます。路線測量で標高計算対象のデータを CAD から取り込み、路線計画を作成している場合は、標高から概算の地盤高を計算して読み込むことが可能です。
3 次元座標から現況データ作成 ()	座標管理の登録座標を抽出して縦横断の現況データを作成します。縦断現況は 4000 点、横断現況は断面片側 3000 点まで抽出可能です。縦断現況データは、点名、単距離、追加距離、地盤高に取り込みます。横断現況データは、[横断条件]: 断面名、地盤高、XY 座標、横断方向角、[横断現況]: 測点名称、距離、地盤高、XY 座標に取り込みます。ただし、横断方向角は、縦断・横断現況点を単純に折点として結んだ時の横断方向角を計算しています。クロノイドなどの曲線要素情報も含めて、計算はしていませんので、実際の横断方向角とは異なる場合があります。
横断図デジ読み ()	デジタイザ (タブレット、プラニメータ含む) を使用して、横断図面上のセンター点、横断各点 (現況点) を読み取り、横断成果データとします。
横断平面デジ読み ()	デジタイザ (タブレット、プラニメータを含む) を使用し、路線図などの平面図上からセンター点、横断各点 (現況点) の座標を読み取り、標高値を手入力して成果データとします。






[縦断入力]の[縦断計画]タブの[縦断計画]メニューのコマンド	
計画入力(CAD) ()	縦断計画データを、縦断計画 CAD に対してマウスクリックで入力します。計画データの細かい設定や縦断曲線 (VCL、R) は、[縦断計画]タブで入力、訂正します。
変化点追加 ()	入力済みの縦断計画データ(最終計画点)に対し、縦断計画 CAD 上でマウスクリックにより、計画点を追加します。
変化点挿入 ()	入力済みの縦断計画データに対し、縦断計画 CAD 上でマウスクリックにより、計画点を任意位置に挿入追加します。
変化点削除 ()	入力済みの縦断計画データに対し、縦断計画 CAD 上でマウスクリックにより、計画点を削除します。
変化点移動フリー ()	入力済みの縦断計画データに対し、縦断計画 CAD 上でマウスクリックにより、計画点を任意の位置へ移動します。
変化点移動—計画点を線上移動 ()	入力済みの縦断計画データに対し、縦断計画 CAD 上でマウスクリックにより、前点または後点からの勾配は一定のまま、縦断計画点の追加距離と標高を変更します。
変化点移動—計画点を上下移動 ()	入力済みの縦断計画データに対し、縦断計画 CAD 上でマウスクリックにより、追加距離は一定のまま、縦断計画点の標高のみを変更します。
変化点移動—計画線を上下移動 ()	縦断計画 CAD 上でマウスを使用し、追加距離と勾配は一定のまま 2 点同時に標高を変更します。
成果位置の計画高 ()	縦断計画高の計算内容を表示します。表示内容を印刷するには、[ファイル]—[計算書]—[新規作成]で縦断計画高計算書を作成します。
縦断スタイル ()	縦断計画スタイルの登録、読み込みを行います。CAD からの計画入力を行う前に縦断スタイルを読み込むと、縦断曲線長などを自動入力できます。
電子納品—成果テキストプレビュー	電子納品用成果データを確認します。
[縦断入力]の[曲線・拡幅・片勾配]タブの[曲線・拡幅・片勾配]メニューのコマンド	
拡幅・片勾配表示条件 ()	[曲線・拡幅・片勾配]タブに表示する測点を設定します。
曲線要素入力 ()	曲線要素のデータを入力します。路線測量のデータを読み込んでいる場合は、すでに曲線要素が入力されています。
拡幅計算 ()	拡幅データ入力の設定を行い、指定した IPNo の拡幅計算を行います。拡幅は、[曲線・拡幅・片勾配]—[拡幅スタイル]で設定した値をもとに自動計算(手調整可能)されます。
片勾配計算 ()	片勾配データ入力の設定を行い、指定 IPNo の片勾配計算を行います。片勾配は、[曲線・拡幅・片勾配]—[片勾配スタイル]で設定した値をもとに自動計算(手調整可能)されます。
拡幅個別入力 ()	拡幅データを個別に入力します。
片勾配個別入力 ()	片勾配データを個別に入力します。
成果位置の拡幅・片勾配 ()	縦断成果データの拡幅・片勾配を表示します。表示内容を印刷するには、[ファイル]—[計算書]—[新規作成]コマンドで拡幅計算書、片勾配計算書を作成します。

[縦断入力]の[曲線・拡幅・片勾配]タブの[曲線・拡幅・片勾配]メニューのコマンド	
拡幅スタイル()	拡幅計算条件スタイルの設定、登録を行います。単曲線半径に対する1車線あたりの拡幅量を元に、線形要素の組み合わせの違いによるすりつけ長を決定します。拡幅スタイルを設定後、続けて拡幅計算を行うこともできます。 このコマンドで拡幅計算を行わない場合は、[曲線・拡幅・片勾配]－[拡幅計算]で拡幅スタイルを反映させる必要があります。
片勾配スタイル()	片勾配スタイルの設定、登録を行います。片勾配スタイルを設定後、続けて片勾配計算を行うこともできます。 このコマンドで片勾配計算を行わない場合は、[曲線・拡幅・片勾配]－[片勾配計算]で片勾配スタイルを反映させる必要があります。
[横断入力]の[横断共通]メニューのコマンド	
表示条件()	横断プロットに表示する横断野帳、現況、計画、土量データの形状表示に関する設定を行います。
土質名称設定()	詳細土量計算で使用する土質の名称を設定します。名称は、5種類まで設定できます。
前断面()	1つ前の断面に切り替えます。
次断面()	次の断面に切り替えます。
断面選択()	表示する断面を選択します。
新規断面()	新規断面を表示します。
断面複写()	現在開いている横断成果データを別断面に複写します。複数の断面に複写することもできます。
断面削除()	横断面のデータを削除します。野帳データ、成果データ、横断計画データのみを削除することもできます。
縦断センター名連動()	縦断センター名を横断断面名に連動します。
構造物一入力()	構造物を入力します。
構造物一訂正()	構造物の属性を変更します。
構造物一削除()	構造物を削除します。
特殊線一入力()	特殊線を入力します。特殊線は線の外側の点(終了点)を指定して入力します。特殊線は被覆、ブロック、石積み、露岩などを入力するのに有効です。
特殊線一削除()	[横断共通]－[特殊線]－[削除]で入力した特殊線を削除します。
特殊記号一入力()	特殊記号を入力します。特殊記号は、その記号を出す点と方向を指定して入力します。横断では、特殊記号は家や塀・フェンスを入力するのに有効です。
特殊記号一削除()	[横断共通]－[特殊記号]－[入力]コマンドで入力した特殊記号を削除します。
リンク()	点に写真をリンク付けします。
パラメトリック編集()	パラメトリックを起動して、構造物を編集します。
土工一覧表	[詳細土量]タブで入力した土量データを読み込んで土工一覧表を作成します。
CAD 数値化	CAD データを数値化し横断現況データ・横断計画データを算出します。

[横断入力]の[横断野帳]タブの[横断測量]メニューのコマンド	
初期条件()	横断野帳データを入力するための初期条件を設定します。 さらに、[横断野帳]タブのセル状態を作業に合わせることをお勧めします。 [セル]－[セル項目変更]－[テンプレート管理]から、[レベル+ポール][トランシット Ts+ポール][トランシット Td+ポール]のいずれかを選択します。
分割観測－追加()	横断面の分割観測(同断面を複数に分けて観測)を行った場合に、分割観測入力ページを追加(同断面名)します。クリックするごとに入力ページが作成され、1断面につき9観測まで追加できます。
分割観測－削除()	[横断測量]－[分割観測]－[追加]コマンドで追加した観測断面を削除します。
電子野帳データ一括取込み()	電子野帳取込で電子野帳から取り込んだデータを、横断野帳データに取り込みます。さらに、[横断野帳]タブのセル状態を作業に合わせることをお勧めします。 [セル]－[セル項目変更]－[テンプレート管理]で、観測に合ったテンプレートを選択します。
電子野帳データ追加取込み()	電子野帳取込で電子野帳から取り込んだデータから、選択した断面を横断野帳データに追加します。さらに、[横断野帳]タブのセル状態を作業に合わせることをお勧めします。 [セル]－[セル項目変更]－[テンプレート管理]で、観測に合ったテンプレートを選択します。
電子レベルデータ取込み()	電子レベル取込で電子レベルやデータコレクタから取り込んだレベルデータを読み込み、横断野帳データにします。
POCKET 横断野帳データ取込()	POCKET (ハンディ観測システム)の横断観測データを取り込みます。 POCKET でイメージ(手書きメモ)データが入力されている場合は、イメージデータもCADに取り込まれます。
XYCLONE・Field com 横断観測データ取込み()	XYCLONE、Fieldcom の横断観測データを取り込みます。イメージ(手書きメモ)データが入力されている場合は、イメージデータもCADに取り込まれます。
X-FIELD 横断観測データ取込み()	X-FIELD の横断観測データを取り込みます。イメージ(手書きメモ)データが入力されている場合は、イメージデータもCADに取り込まれます。
横断観測 SIMA 取込み()	横断観測 SIMA データ(バージョン 04)を横断野帳データに取り込みます。 常に新規断面を作成し、入力方法には左右同時を適用します。
JEC 横断観測取込み()	JECの横断観測データ(*.57)を縦横断測量の横断野帳データに読み込みます。
CIMPHONY 連携()	CIMPHONY 上に保存されている作業データ(観測)を取り込みます。(ダウンロードのみ可能です。)※オプションサービスが必要です。
成果作成()	[横断野帳]に入力した横断野帳データより、横断成果データ(横断現況)を作成します。
一括成果作成()	選択した断面の横断成果データ(横断現況)を、一括して作成します。
[横断入力]の[横断現況]タブの[横断現況]メニューのコマンド	
断面設定()	既に現況点として平面座標と地盤高がわかっている点を用いて横断成果を作成する場合に、このコマンドで断面を設定します。(横断測量を行わずに横断成果を作成することが可能です。)
センター地層線()	センター地層線の深さを設定します。
水位線入力()	水位線を入力します。
現場プロット()	現場プロットの表示／非表示を切り替えます。

[横断入力]の[横断現況]タブの[横断現況]メニューのコマンド	
距離で並べ替え()	指定した断面の左右に関して距離で並べ替えを行います。 左右同時観測で左右交互(順不同)に電子野帳で観測してきたデータを取り込み、成果作成を行ってから、距離で並べ替える場合に有効です。
平行移動量一括()	各断面毎に移動量を指定して横断現況センターを平行移動します。
横断データ取込み()	他の縦横断測量の作業データから、横断データ(野帳・現況・計画)を取り込みます。
横断成果 CAD 並べ替え()	CAD で指定した順番に、測点を並べ替えます。[横断野帳]タブの順番には影響しません。
[横断入力]の[横断計画]タブの[横断計画]メニューのコマンド	
計画一括訂正()	横断計画データを一括して訂正します。
計画線名称設定()	計画線の名称を設定します。
任意舗装-入力()	横断計画では、舗装部のデータは、道路部の舗装データと道路部以外の任意舗装データに分けられます。道路部の舗装データは、[横断計画]タブの[断面形状選択]で[道路部]、[詳細]で[舗装部]を選択して入力します。 道路部以外(道路部その他、法面部、法面部その他)は、[横断計画]-[任意舗装]-[入力]で入力します。
任意舗装-訂正()	[横断計画]-[任意舗装]-[入力]で入力した任意舗装データを訂正します。
任意舗装-一括設定()	断面を指定して、道路部その他の全範囲に任意舗装データを一括設定します。
標高算出点-入力()	各断面の指定した変化点を結線し、縦断計画線を作成することができます。 [横断計画]-[標高算出点]で、標高算出点を設定することにより、横断からの縦断計画線を作成します。[横断計画]で、標高算出点を設定することもできますが、この場合は1断面ごとに設定する必要があります。[標準断面]にあらかじめ入力しておくと、複数の断面に一度に読み込めるので便利です。
標高算出点-削除()	[横断計画]-[標高算出点]-[入力]で設定した標高算出点を削除します。
巾杭算出点-入力()	横断成果と横断計画まで入力済みの縦横断測量データから、路線巾杭点を自動作成することができます。[横断計画]-[巾杭算出点]-[入力]で横断計画点を「巾杭算出点」に指定し、[路線測量]で縦横断データを読み込むと、巾杭算出点を路線巾杭データにします。[横断計画]で、巾杭算出点を設定することもできますが、この場合は1断面ごとに設定する必要があります。[標準断面]にあらかじめ入力しておくと、複数の断面に一度に読み込めるので便利です。
巾杭算出点-削除()	[横断計画]-[巾杭算出点]-[入力]で設定した巾杭算出点を削除します。
路肩高算出点-入力()	路肩高算出点を入力します。 設定できる点は断面形状が道路部の点のみです。
路肩高算出点-削除()	[横断計画]-[路肩高算出点]-[入力]で設定した路肩高算出点を削除します。
寸法線-入力()	横断寸法線のデータを入力します。横断図面で寸法線を描画するには、この[横断計画]-[寸法線]-[入力]であらかじめ設定しておく必要があります。
寸法線-削除()	[横断計画]-[寸法線]-[入力]コマンドで設定された横断寸法線を削除します。
勾配()	計画点間の勾配値と法長(長さ)を表示します。横断図面で各計画線の勾配や長さ(法長)を描画するには、この[横断計画]-[勾配]であらかじめ設定しておく必要があります。
巾杭設置()	現況交点からの余裕巾を設定し巾杭を入力します。巾杭は2つまで登録できます。

[横断入力]の[横断計画]タブの[横断計画]メニューのコマンド	
変化点情報()	横断計画 CAD 上の横断計画点(変化点)をクリックし、その点の計画高や地盤高などの点情報を表示します。
面積算出-領域選択()	閉合領域を指定して面積を算出します。
面積算出-多角形指定()	範囲を指定して面積を算出します。
長さ算出()	指定点間の長さを算出します。
法面部設定()	法面部、法面部その他を作成する条件を設定します。
舗装区分名称設定()	舗装区分の名称を設定します。
登録	横断計画点を座標管理に登録します。
測点スタイル	横断計画点の測点スタイルを設定します。
[横断入力]の[詳細土量]タブの[詳細土量]メニューのコマンド	
初期条件()	詳細土量の計算条件を設定して、土量計算を行います。ただし、地層線は考慮されず第 1 層に計上されますので、層が 2 層以上ある場合は、[詳細土量]-[面積]-[領域選択入力]、[詳細土量]-[法長]-[入力]で入力し直してください。
丸め設定()	詳細土量計算を行う場合の丸めを設定します。ここで設定する丸めは、[詳細土量]タブ、土量計算書、法面積計算書、CAD の横断図の求積表で使用します。
土工名称設定()	切土、盛土、床掘・埋戻、法面の名称を設定します。
土工設定-切土工()	切土工の計算条件を設定して、切土工のみ再計算します。再計算の対象となるのは、選択されて横断プロットに表示されている断面のみです。また、ここで設定した計算条件は、断面ごとに保持されます。ただし、地層線は考慮されず第 1 層に計上されますので、層が 2 層以上ある場合は、手動選択で土工量計算を行ってください。
土工設定-盛土工()	盛土工の計算条件を設定して、盛土工のみ再計算します。再計算の対象となるのは、選択されて横断プロットに表示されている断面のみです。また、ここで設定した計算条件は、断面ごとに保持されます。ただし、地層線は考慮されず、数量はすべて第 1 層に格納されます。層が 2 層以上ある場合は、手動選択で土工量計算を行ってください。
面積-領域選択入力()	閉合領域に、切土、盛土、床掘・埋戻を入力します。
面積-多角形指定入力()	指定領域に、切土、盛土、床掘・埋戻を入力します。
面積-削除()	すでに入力されている切土、盛土、床掘・埋戻を削除します。
法長-入力()	刈払長、切土法長、盛土法長を入力します。
法長-削除()	すでに入力されている法長を削除します。
段切り-入力()	現況地盤線に対して段切りを入力します。入力した段切りの面積は、[切土]の[段切り]の[面積]セルに追加されます。
段切り-削除()	すでに入力されている段切りを削除します。
厚み-入力()	現況地盤線に対して表土剥ぎの厚みを入力します。入力した厚みの面積は、[切土]の[表土剥ぎ]の[面積]セルに追加されます。
厚み-削除()	すでに入力されている表土剥ぎ、または土羽土の厚みを削除します。


[横断入力]の[詳細土量]タブの[詳細土量]メニューのコマンド	
機械・人力区別線入力()	機械・人力区別線を入力します。機械・人力区別線は、計画線、地山に囲まれた切土領域に入力します。入力できる機械・人力区別線は、1 線のみです。
土工区分線個別入力ー領域選択入力()	指定した閉合領域に土工区分線を入力します。
土工区分線個別入力ー多角形指定入力()	指定領域に土工区分線を入力します。
土工区分線個別入力ー削除()	指定した土工区分線を削除します。
補助線ー入力()	補助線を入力します。土量の区分を選択する場合の領域の境に入力します。また、舗装などで掘削を伴う場合に掘削線として使用します。
補助線ー削除()	すでに入力されている補助線を削除します。
補助線ー整合()	補助線を整合します。
土工量の削除()	指定した断面に入力されている土工量を全て削除します。
[汎用コマンド]メニューのコマンド	
制御ー確定()	連続してデータを入力する場合などで、最終的に確定する場合に使用するコマンドです。
制御ー取消()	確定前の入力データやデータの選択範囲などを取り消す場合などに使用するコマンドです。
制御ー中止()	実行中のコマンドを終了し、コマンド選択または、オブジェクト選択状態にします。
制御ー後退()	データの入力処理の過程、または編集処理の過程で一つ前の入力状態に戻します。
表示ー拡大()	指定範囲を拡大します。
表示ー前表示()	表示範囲、表示率を 1 つずつ戻します。ただし、戻せる回数は 5 回までです。
表示ー移動()	表示範囲を移動します。
表示ー原図()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。
表示ー再描画()	画面内容を表示し直します。
絶対座標入力()	絶対座標値を指定して入力します。
相対座標入力()	図面上で 2 点目以降のデータを入力するとき、次点の入力位置を前回の入力点からの相対座標(距離)を指定して入力します。
距離・勾配入力()	図面上で 2 点目以降のデータを入力するときなどに次点の入力位置を前回の入力点からの距離と勾配を入力して指定します。このコマンドは、同一データで 2 点目のデータ入力時に有効です。

土量計算

1 土量計算のコマンドの紹介

土量計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	すでに入力されているデータより土量計算を行い、土量計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[土量計算]で作成または変更することができます。
--	---

[データ入力]タブの[土量計算]メニューのコマンド



計算条件	前測点からの距離、断面積、体積などの丸めや係数に関する項目を設定します。設定内容は、土量計算にのみ有効です。
横断データ読み込み	成果および計画データ入力までおこなった縦横断データを読み込みます。

座標変換

1 座標変換のコマンドの紹介

座標変換のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	座標変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[座標変換]の[座標変換 1][座標変換 2][座標系の統一]で作成または変更することができます。
登録 ()	座標変換後の座標を登録します。[登録点番] [登録点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド



初期設定	変換条件を設定して、座標変換を行います。
------	----------------------

座標変換 (BL)

1 座標変換(BL)のコマンドの紹介

座標変換(BL)のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	座標変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[座標変換(BL)]で作成または変更することができます。
登録 ()	座標変換後の座標を登録します。[登録点番] [登録点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初期設定	すでに登録されている座標の BL 変換条件を変更します。旧座標系(現在登録されてる座標系)、新座標系(変換後の座標系)を設定して、緯度、経度より新しい座標系に変換します。
------	---



經緯度座標变换

1

経緯度座標変換のコマンドの紹介

経緯度座標変換のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	座標変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[経緯度変換]で作成または変更することができます。
登録 ()	座標変換後の座標を登録します。[点番] [点名]に入力した点番点名で登録されます。座標変換後の座標を登録します。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド



初期設定	入力した緯度、経度を変換して座標値を求める座標系を変更します。
------	---------------------------------

面積調整変換

1 面積調整変換のコマンドの紹介

面積調整変換のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書—新規作成 ()	面積調整変換された結果をもとに計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[面積調整変換]で作成または変更することができます。
登録 ()	面積調整変換後の座標を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

変換条件	入力した地番(入力した座標で構成される多角形)の面積を希望の面積に変換する条件(調整面積、相似形への変換の基点)を設定します。
------	---



ヘルマート変換

1

ヘルマート変換のコマンドの紹介

ヘルマート変換のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	ヘルマート変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームはフリーフォーマット作成の[ヘルマート変換]で作成または変更することができます。
登録 ()	ヘルマート変換後の座標を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

変換条件	入力した変換元座標点(変換する点)、変換先座標点(変換の基準とする点)より計算された変換式の定数(a, b)、移動原点、伸縮率、回転角を確認します。また、伸縮率(移動原点から変換座標までの距離/原点から変換元座標までの距離)を 1.0 に変更することもできます。
------	---



座標変換 (世界測地系)

1

座標変換(世界測地系)のコマンドの紹介

座標変換(世界測地系)のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	計算簿を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[座標変換(世界測地系)]で作成または変更することができます。
登録 ()	世界測地系の座標を座標管理に登録します。プロットマークは変換元のプロットマークを使用して登録します。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

座標変換	日本測地系の座標を世界測地系の座標に変換します。
会社名登録	計算書の表紙に出力するユーザー様の会社名、プログラム管理者を登録します。登録した会社名、プログラム管理者は、検定フォーム([ファイル]-[計算書]-[新規作成]の[計算書グループ]で[検定フォーム]を選択)のプログラム管理者の欄に「会社名 プログラム管理者」として出力されます。



座標変換 (PatchJGD 準拠)

1

座標変換 (PatchJGD準拠) のコマンドの紹介

座標変換 (PatchJGD準拠) のメニューバーのコマンドを紹介します。

[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	座標補正された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[座標補正 (PatchJGD 準拠)]で作成または変更することができます。
登録 ()	補正後の座標を登録します。[補正後点番] [補正後点名]に入力されている点番、点名で登録されます。プロットマークは補正元のプロットマークを使用します。

[PatchJGD 補正]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

座標補正	国土地理院のパラメータファイル(*.par)を使用して、座標を補正します。パラメータファイルは、国土地理院のホームページよりダウンロードできます。
会社名登録	計算書に出力する会社名を登録します。
成果数値データ出力	補正によって作成された成果数値データを、成果数値データファイル標準様式に沿ったテキストファイルに変換します。

[点検(座標)]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

作業情報	計算書に出力する作業情報を設定します。
参照先-PatchJGD 補正結果	[PatchJGD 補正]タブで補正結果を参照して、データを入力します。
参照先-登録済み座標	座標管理に登録済みの座標を参照して、データを入力します。
PatchJGD 補正対象地番の構成辺取込み	[PatchJGD 補正]タブの補正元点が使用している地番構成辺をすべて取り込みます。※参照先が、[PatchJGD 補正結果]のときに有効です。

[点検(面積)]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド


参照先-PatchJGD 補正結果	[PatchJGD 補正]タブで補正結果を参照して、データを入力します。
参照先-登録済み座標	座標管理に登録済みの座標を参照して、データを入力します。
PatchJGD 補正対象地番の構成辺取込み	[PatchJGD 補正]タブの補正元点が使用している地番構成辺をすべて取り込みます。※参照先が、[PatchJGD 補正結果]のときに有効です。

精度管理表 (距離)

1 精度管理表(距離)のコマンドの紹介

精度管理表(距離)のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	入力したデータ(測点 1、測点 2、実測値、区分)をもとに、指定した計算タイプで精度管理表(距離)を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[精度管理表(距離)]で作成または変更することができます。
--	---

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

初期設定	計算タイプおよび作業情報を設定します。ここで入力した計算タイプにしたがって、計算をおこない精度管理表を作成します。また、ここで入力した作業情報は、精度管理表に印刷されます。日本測地系の座標を世界測地系の座標に変換します。
入力モード	測点を入力するモード(標準、開放、放射)を設定します。
放射検索	測点 1 からの距離、点数、ワイルドカードを指定して測点 2 を放射検索し入力します。このコマンドは開放モード、放射モードで測点 2 を入力する場合のみ有効です。
距離補正パラメータ入力	距離補正に関して設定します。
対辺測定観測データ取込み	トータルステーションで観測した対辺測定観測データを取り込みます。拡張子は、TOPCON(*.O2T)、SOKKIA(*.crd)、Trimble(*.34)になります。
電子野帳取り込みから実測値設定	測点名 1、測点名 2 がセットされていて実測値が未入力の場合に、電子野帳取込の作業データから実測値を取り込みます。


精度管理表 (世界測地系)

1

精度管理表(世界測地系)のコマンドの紹介

精度管理表(世界測地系)のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成()	入力したデータをもとに、指定した計算タイプで精度管理表(世界測地系)を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[精度管理表(世界測地系)]で作成または変更することができます。
---	---

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド


初期設定	精度管理表作成に必要な初期項目を設定します。
旧座標取込み	現場ファイルを指定し精度管理表を作成する日本測地系の座標点を選択します。

偏心補正計算

1 偏心補正計算のコマンドの紹介

偏心補正計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	偏心補正された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[偏心補正計算]で作成または変更することができます。
--	--

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

入力切替	画面上部の[器械点データ]の入力と、画面下部(セル)の目標点のデータ(方向名、モード、観測角、距離など)の入力を切り替えます。このコマンドをクリックするとフォーカスが移動して切り替わります。精度管理表作成に必要な初期項目を設定します。
------	---

OCR ユーティリティ

1 OCRユーティリティのコマンドの紹介

OCRユーティリティのメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

画像取込み－ファイル	ファイルを指定してラスタデータを取り込みます。
画像取込み－スキャナー	TWAIN 対応の外部デバイス(スキャナーやカメラなど)からラスタデータを取り込みます。外部デバイス(スキャナーやカメラなど)は Windows のコントロールパネルの[スキャナーとカメラ]で設定してください。
画像取込み－クリップボード	クリップボードからラスタデータを取り込みます。
傾き自動補正	自動で傾きを補正します。
表罫線削除	罫線を自動で削除します。
拡大	左側ウィンドウに表示されているラスタデータを拡大(2 倍)表示します。
縮小	左側ウィンドウに表示されているラスタデータを縮小(1/2)表示します。
環境設定	ラスタデータを変換するときの認識モード、認識対象文字種、出力形式の設定を変更します。読み取る領域(左のウィンドウで、2 点で指定した矩形範囲)ごとに設定を変更してデータを変換することができます。
変換	左側のウィンドウで指定した領域内(マウスの左ボタンを押しながらドラッグして指定)のラスタデータが変換されて、右側のウィンドウに表示されます。変換後のテキストデータは、[編集]－[コピー]、[編集]－[貼り付け]で別のプログラム(座標管理など)にコピーして使用することができます。

座標地番アスキー

1 座標地番アスキーのコマンドの紹介

座標地番アスキーのメニューバーのコマンドを紹介します。

[座標出力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

フォーマット設定	アスキーデータに出入力するフォーマットに、項目を追加します。フォーマットは座標部、地番部、地番構成点部に分かれています。
フリーフォーマット書込み	座標と地番データを設定したフォーマットで出力します。出力形式は、TXT、CSV形式です。
固定フォーマット書込みー タイプ J 座標書込み	座標データをタイプ J のアスキーデータに変換して出力します。(アスキーテキストファイルとして保存します。)タイプ J の地番データは、[地番出力]タブの[専用コマンド]ー[固定フォーマット書込み]ー[タイプ J 地番書込み]で出力します。

[地番出力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

フォーマット設定	アスキーデータに出入力するフォーマットに、項目を追加します。フォーマットは座標部、地番部、地番構成点部に分かれています。
フリーフォーマット書込み	座標と地番データを設定したフォーマットで出力します。出力形式は、TXT、CSV形式です。
固定フォーマット書込みー タイプ J 地番書込み	地番データをタイプ J のアスキーデータに変換して出力します。(アスキーテキストファイルとして保存します。)タイプ J の座標データは、[座標出力]タブの[専用コマンド]ー[固定フォーマット書込み]ー[タイプ J 座標書込み]で出力します。

[取込み]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド


フォーマット設定	アスキーデータに出入力するフォーマットに、項目を追加します。フォーマットは座標部、地番部、地番構成点部に分かれています。
フリーフォーマット読込み	座標、地番のデータを読み込みます。ファイル形式は、TXT、CSV 形式です。
固定フォーマット読込みー タイプ J 座標読込み	タイプ J の座標のアスキーデータを読み込みます。
固定フォーマット読込みー タイプ J 地番読込み	タイプ J の地番のアスキーデータを読み込みます。

太陽による方向角 計算

1 太陽による方向角計算のコマンドの紹介

太陽による方向角計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[データ入力]タブの[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	入力したデータをもとに、方向角を計算して手簿計算書を作成します。観測データを入力したときは、観測計算書を作成することもできます。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[太陽による方向角計算]で作成または変更することができます。
--	--

[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド



計算条件	太陽による方向角の計算条件(原点経度、観測点の緯度、経度など)を確認または変更します。
丸め	角度、時刻を入力または計算するときの単位、小数点の値を計算するときの小数点以下の桁数を設定します。丸めの方法は四捨五入です。
観測データ入力	観測データより、輪郭、観測時刻、測角を求めて入力します。

GPS 变换

1 GPS変換のコマンドの紹介

GPS変換のメニューバーのコマンドを紹介します。

[ファイル]メニューのコマンド

計算書—新規作成 ()	TRIMBLE または SOKKIA の GPS 変換より求められた結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成 の[GPS 変換]で作成または変更することができます。
登録 ()	GPS 変換後の座標を登録します。[点番][点名]に入力されている点番点名で登録されます。

[TRIMBLE]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

新規読み込み	TRIMBLE の GPS の観測データを読み込みます。
追加読み込み	TRIMBLE の GPS の観測データを追加して読み込みます。すでに読み込まれている観測データの 1 番最後に追加されます。
機種選択	GPS データを読み込む機種を選択します。
データ一覧	読み込んだファイル名のデータの GPS 座標系(WGS-84)での XYZ 座標値を、種類(拡張子)別に一覧表示します。一覧表示するファイル名のセルをクリックしてからこのコマンドを実行します。
座標系選択	変換する日本測地系の座標系(平面直角座標系)を選択します。


[TOPCON/SOKKIA]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

新規読み込み	TOPCON の GPS データを読み込みます。 必ず、[専用コマンド]—[機種選択]で、TOPCON を選択してから、このコマンドを実行してください。
追加読み込み	TOPCON の GPS データを追加して読み込みます。すでに読み込まれている観測データの 1 番最後に追加されます。 必ず、[専用コマンド]—[機種選択]で、TOPCON を選択してから、このコマンドを実行してください。
機種選択	GPS データを読み込む機種を選択します。
座標系選択	変換する日本測地系の座標系(平面直角座標系)を選択します。

座標読取 (プロッタ)

1 座標読取(プロッタ)のコマンドの紹介


座標読取(プロッタ)のメニューバーのコマンドを紹介します。

[ファイル]メニューのコマンド	
登録()	読み取った座標を登録します。
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
接続条件	座標を読み取るプロッターの機種、コンピューター側の通信条件を設定します。
動作条件	プロッターで座標を読み取る時のプログラム側での補正方法を設定します。
図面条件	図面の補正条件を設定します。[専用コマンド]－[接続条件][動作条件]で接続するプロッターの機種、通信条件、補正方法を設定してからこのコマンドを実行してください。補正方法によって補正条件が異なります。使用するプロッターは、必ずコンピューターに接続して電源を入れておいてください。
データ読取	プロッターより座標を読み取ります。[専用コマンド]－[接続条件][動作条件][図面条件]で接続するプロッターの機種および通信条件、補正条件を設定してからこのコマンドを実行してください。使用するプロッターは、必ずコンピューターに接続して電源を入れておいてください。
種類変更	プロッターより読み取った座標の種類(新点、同一点)を変更します。変更する座標をクリックしてから、このコマンドを実行します。

座標読取

1 座標読取のコマンドの紹介

座標読取のメニューバーのコマンドを紹介します。


[ファイル]メニューのコマンド	
登録()	読み取った座標を登録します。
[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド	
接続条件	デジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種、コンピューター側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。
動作条件	図面の補正方法、およびデジタイザ(タブレット、プラニメータ)で読み取る座標の同一点チェック、既知点チェックの有無を設定します。[専用コマンド]－[接続条件]で接続するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
図面条件	図面の補正条件を設定します。[専用コマンド]－[接続条件][動作条件]で接続するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種、通信条件、補正方法を設定してからこのコマンドを実行してください。([専用コマンド]－[動作条件]の[図面補正]で設定した補正方法によって補正条件が異なります。)使用するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)は、必ずコンピューターに接続して電源を入れておいてください。
データ読取	デジタイザ(タブレット、プラニメータ)より座標を読み取ります。[専用コマンド]－[接続条件][動作条件][図面条件]で接続するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種および通信条件、補正条件を設定してからこのコマンドを実行してください。使用するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)は、必ずコンピューターに接続して電源を入れておいてください。 このコマンドでは、地番単位で座標データを読み込みますが、[座標のみ]のチェックをオンにすると、座標点のみを読み込むことができます。
読取訂正	デジタイザ(タブレット、プラニメータ)より読み取った座標を訂正(読み取り直)します。訂正する座標をクリックしてから、このコマンドを実行します。
種類変更	デジタイザ(タブレット、プラニメータ)より読み取った座標の種類(新点、同一点、既知点)を変更します。変更する座標をクリックしてから、このコマンドを実行します。

距離・面積計算

1 距離・面積計算のコマンドの紹介

距離・面積計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	計測結果をもとに、距離結果一覧、面積結果一覧を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成で作成または変更することができます。
--	--


[データ入力]タブの[専用コマンド]メニューのコマンド

接続条件	デジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種、コンピューター側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。
メニューシート	タブレット(メニューシート使用可の機種)でメニューシートの位置を読み取ります。メニューシートの左下、右上を読み取ることによって、プログラムがメニューシートの位置を認識します。
動作条件	許容誤差、デジタイザ補正の有無、図面縮尺、読取回数、およびデジタイザ(タブレット、プラニメータ)で読み取る座標の同一点チェックの有無を設定します。[専用コマンド]-[接続条件]で接続するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
距離計測	デジタイザ(タブレット、プラニメータ)より座標を読み取り、点間距離を計測して表示します。[専用コマンド]-[接続条件][動作条件]で接続するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種および通信条件、補正条件を設定してからこのコマンドを実行してください。使用するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)は、必ずコンピューターに接続して電源を入れておいてください。
距離表示終了	[専用コマンド]-[距離計測]で、デジタイザ(タブレット、プラニメータ)より座標を読み取り、計算された平均点間距離、誤差、判定の表示を終了して、[データ入力]タブに戻ります。
面積計測	デジタイザ(タブレット、プラニメータ)より面積を計測する地番の座標を読み取ります。[専用コマンド]-[接続条件][動作条件]で接続するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種および通信条件、補正条件を設定してからこのコマンドを実行してください。使用するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)は、必ずコンピューターに接続して電源を入れておいてください。
面積表示終了	[専用コマンド]-[面積計測]で、デジタイザ(タブレット、プラニメータ)より座標を読み取り、計算された地番の平均面積、誤差、判定の表示を終了して、[データ入力]ページに戻ります。

2回読み面積計算

1 2回読み面積計算のコマンドの紹介

2回読み面積計算のメニューバーのコマンドを紹介します。

[ファイル]メニューのコマンド	
計算書-新規作成 ()	読み取った計測結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[2 回読み面積計算]で作成または変更することができます。
[専用コマンド]メニューのコマンド	
接続条件	デジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種、コンピューター側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。
動作条件	図面の補正方法、およびデジタイザ(タブレット、プラニメータ)で読み取る座標の同一点チェックの有無、公差、許容誤差を設定します。[専用コマンド]-[接続条件]で接続するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
図面条件	図面の補正条件を設定します。[専用コマンド]-[接続条件][動作条件]で接続するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種、通信条件、補正方法を設定してからこのコマンドを実行してください。([専用コマンド]-[動作条件]の[図面補正]で設定した補正方法によって補正条件が異なります。)使用するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)は、必ずコンピューターに接続して電源を入れておいてください。
データ読取	デジタイザ(タブレット、プラニメータ)より座標を読み取ります。1 度に読み取ることができる座標点は最大 10,000 点です。[専用コマンド]-[接続条件][動作条件][図面条件]で接続するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)の機種および通信条件、補正条件を設定してからこのコマンドを実行してください。使用するデジタイザ(タブレット、プラニメータ)は、必ずコンピューターに接続して電源を入れておいてください。


鋪装展開図

1











舗装展開図のコマンドの紹介

舗装展開図のメニューバーのコマンドを紹介します。






[ファイル]メニューのコマンド











計算書-新規作成 ()	幅員データ・3 辺データをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[舗装展開図]で作成または変更することができます。
--	---

[幅員データ]タブの[舗装展開図]メニューのコマンド

初期条件 ()	初期条件として、路線名、データの入力方法、初点追加距離を設定します。さらに No 杭を自動作成するときは、No 杭のピッチ、初点杭 No+L、マイナス測点の表示方法を設定します。
表示条件 ()	舗装展開図プロット上の幅員データの表示に関する設定を行います。
測点スタイル ()	測点名称は、[測点名]セルに何も入力されていないとき[測点 No] [+L]で作成されます。そのときの測点名称のスタイルを設定します。
ブロック選択 ()	ブロックを追加・削除、または、データを別のブロックに切り替えます。
構造物入力 ()	マンホールや集水桝などの構造物を幅員データに入力します。入力した構造物の面積は控除(引き算)されます。控除する構造物がない場合には入力する必要はありません。
路線・縦横断データ読み込み ()	幅員データに、路線測量データまたは縦横断測量データを読み込みます。そのとき、測点名、追加距離、単距離にデータが連動します。また、[舗装展開図]-[初期条件]の[No 杭ピッチ][初点情報]も連動します。縦横断測量データに横断計画が入力されていた場合には、一番上層の舗装の断面データを、設計値の各幅員データにも連動させることも可能です。ただし、控除部を連動させたいときは、[入力方法]で[左右幅員]を選択します。その他の入力方法では控除部は入力できません。
面積確認 ()	幅員データより左右の車道、路肩別に面積を算出して表示します。
設計値取込み ()	設計値のデータを実測値に取り込みます。
実測値取込み ()	実測値のデータを設計値に取り込みます。
丸め設定 ()	距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。

[幅員データ]タブの[汎用コマンド]メニューのコマンド

表示-拡大 ()	指定範囲を拡大します。
表示-前表示 ()	表示範囲、表示率を 1 つずつ戻します。ただし、戻せる回数は 5 回までです。
表示-移動 ()	表示範囲を移動します。
表示-原図 ()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。
表示-再描画 ()	画面内容を表示し直します。

[3辺データ]タブの[3辺展開図]メニューのコマンド	
初期条件 ()	プロット画面上の3辺データの表示に関する設定を行います。
ブロック選択 ()	ブロック(3辺データ)を追加・削除、または、表示を別のブロックに切り替えます。
構造物入力 ()	マンホールや集水桝などの構造物を3辺データに入力します。構造物の面積は控除(引き算)されます。
面積確認 ()	3 辺データより面積を算出して表示します。
設計値取込み ()	設計値のデータを実測値に取り込みます。
実測値取込み ()	実測値のデータを設計値に取り込みます。
丸め設定 ()	距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。
回転指定 ()	展開図プロット上の 3 辺データ図を 2 点指定で回転します。
直線化 ()	展開図プロット上の 3 辺データ図の直線化補正を行います。測点値の誤差の積み重ねにより本来直線の形状が折れ曲がってしまう場合があります。そのような場合に入力値は変更せず、図化イメージのみ直線化を行うのに有効です。
頂点移動 ()	展開図プロット上の 3 辺データ図の頂点移動補正を行います。測点値の誤差の積み重ねにより本来同一辺を共有する箇所が別の線になり重なったり、離れたりする場合があります。そのような場合に入力値は変更せず、図化イメージのみ頂点の移動を行うのに有効です。


簡易舖裝展開圖

1











簡易舗装展開図のコマンドの紹介

簡易舗装展開図のメニューバーのコマンドを紹介します。






[ファイル]メニューのコマンド











計算書-新規作成 ()	幅員データ・3 辺データをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[簡易舗装展開図]で作成または変更することができます。
--	---

[幅員データ]タブの[簡易舗装展開図]メニューのコマンド

初期条件 ()	初期条件として、路線名、初点追加距離を設定します。さらに No 杭を自動作成するときは、No 杭のピッチ、初点杭 No+L、マイナス測点の表示方法を設定します。
表示条件 ()	簡易舗装展開図プロット上の幅員データの表示に関する設定を行います。
測点スタイル ()	測点名称は、[測点名]セルに何も入力されていないとき[測点 No] [+L]で作成されます。そのときの測点名称のスタイルを設定します。
ブロック選択 ()	ブロックを追加・削除、または、データを別のブロックに切り替えます。
構造物入力 ()	マンホールや集水桝などの構造物を幅員データに入力します。入力した構造物の面積は控除(引き算)されます。
路線・縦横断データ読み込み ()	幅員データに、路線測量データまたは縦横断測量データを読み込みます。そのとき、測点名、追加距離、単距離にデータが連動します。また、[簡易舗装展開図]-[初期条件]の[No 杭ピッチ]、[初点情報]も連動します。[接続基準点]には、全て「センター」がセットされます。
面積確認 ()	幅員データより車道部の面積を算出して表示します。
設計値取込み ()	設計値のデータを実測値に取り込みます。
実測値取込み ()	実測値のデータを設計値に取り込みます。
丸め設定 ()	距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。

[幅員データ]タブの[汎用コマンド]メニューのコマンド

表示-拡大 ()	指定範囲を拡大します。
表示-前表示 ()	表示範囲、表示率を 1 つずつ戻します。ただし、戻せる回数は 5 回までです。
表示-移動 ()	表示範囲を移動します。
表示-原図 ()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。
表示-再描画 ()	画面内容を表示し直します。

[3辺データ]タブの[3辺展開図]メニューのコマンド	
初期条件 ()	プロット画面上の3辺データの表示に関する設定を行います。
ブロック選択 ()	ブロック(3辺データ)を追加・削除、または、表示を別のブロックに切り替えます。
構造物入力 ()	マンホールや集水桝などの構造物を3辺データに入力します。構造物の面積は控除(引き算)されます。
面積確認 ()	3 辺データより面積を算出して表示します。
設計値取込み ()	設計値のデータを実測値に取り込みます。
実測値取込み ()	実測値のデータを設計値に取り込みます。
丸め設定 ()	距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。
回転指定 ()	展開図プロット上の 3 辺データ図を 2 点指定で回転します。
直線化 ()	展開図プロット上の 3 辺データ図の直線化補正を行います。測点値の誤差の積み重ねにより本来直線の形状が折れ曲がってしまう場合があります。そのような場合に入力値は変更せず、図化イメージのみ直線化を行うのに有効です。
頂点移動 ()	展開図プロット上の 3 辺データ図の頂点移動補正を行います。測点値の誤差の積み重ねにより本来同一辺を共有する箇所が別の線になり重なったり、離れたりする場合があります。そのような場合に入力値は変更せず、図化イメージのみ頂点の移動を行うのに有効です。


法面展開図

1

法面展開図のコマンドの紹介

法面展開図のメニューバーのコマンドを紹介します。

[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()

幅員データ・3 辺データをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[法面展開図]で作成または変更することができます。

[幅員データ]タブの[法面展開図]メニューのコマンド

初期条件 ()


初期条件として、路線名、法面種別(切土法面、盛土法面)、初点追加距離、初点起点標高値を設定します。さらに No杭を自動作成するときは、No杭のピッチ、初点杭 No+L、マイナス測点の表示方法を設定します。

表示条件 ()

法面展開図プロット上の幅員データの表示に関する設定を行います。

法面名称設定 ()


[法長 1]～[法長 5]、[小段 1]～[小段 4]セルで入力した法面と小段の名称を設定します。入力された名称は、計算書、求積表の法面名称、小段名称として使用されます。

測点スタイル ()


測点名称は、[測点名]セルに何も入力されていないとき[測点 No] [+L]で作成されます。そのときの測点名称のスタイルを設定します。

ブロック選択 ()

ブロックを追加・削除、または、データを別のブロックに切り替えます。


構造物入力 ()

マンホールや集水桝などの構造物を幅員データの各法面、小段に入力します。入力した構造物の面積は控除(引き算)されます。

路線・縦横断データ読み込み ()

幅員データに、路線測量データまたは縦横断測量データを読み込みます。そのとき、測点名、測点 No、+L、追加距離、単距離にデータが連動します。また、[法面展開図]-[初期条件]の[No 杭ピッチ]、[初点情報]も連動します。


縦横断測量データに横断計画が入力されていた場合には、設計値の各幅員データに連動させることも可能です。

設計・施工管理データ読み込み ()

幅員データに、設計・施工管理データを読み込みます。そのとき、測点名、測点 No、+L、追加距離、単距離、起点標高、法長、小段にデータが連動します。また、[法面展開図]-[初期条件]の[No 杭ピッチ] [初点情報] [初点起点標高値]も連動します。縦横断測量データに横断計画が入力されていた場合には、設計値の各幅員データに連動させることも可能です。

面積確認 ()


幅員データより各法面、小段ごとの面積を算出して表示します。

設計値取込み ()
















設計値のデータを実測値に取り込みます。

実測値取込み ()

実測値のデータを設計値に取り込みます。

丸め設定 ()

距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。

[幅員データ]タブの[汎用コマンド]メニューのコマンド	
表示-拡大()	指定範囲を拡大します。
表示-前表示()	表示範囲、表示率を1つずつ戻します。ただし、戻せる回数は5回までです。
表示-移動()	表示範囲を移動します。
表示-原図()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。
表示-再描画()	画面内容を表示し直します。
[3辺データ]タブの[3辺展開図]メニューのコマンド	
初期条件()	プロット画面上の3辺データの表示に関する設定を行います。
ブロック選択()	ブロック(3辺データ)を追加・削除、または、表示を別のブロックに切り替えます。
構造物入力()	マンホールや集水桝などの構造物を3辺データに入力します。構造物の面積は控除(引き算)されます。
面積確認()	3 辺データより面積を算出して表示します。
設計値取込み()	設計値のデータを実測値に取り込みます。
実測値取込み()	実測値のデータを設計値に取り込みます。
丸め設定()	距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。
回転指定()	展開図プロット上の3 辺データ図を2 点指定で回転します。
直線化()	展開図プロット上の3 辺データ図の直線化補正を行います。測点値の誤差の積み重ねにより本来直線の形状が折れ曲がってしまう場合があります。そのような場合に入力値は変更せず、図化イメージのみ直線化を行うのに有効です。
頂点移動()	展開図プロット上の3 辺データ図の頂点移動補正を行います。測点値の誤差の積み重ねにより本来同一辺を共有する箇所が別の線になり重なったり、離れたりする場合があります。そのような場合に入力値は変更せず、図化イメージのみ頂点の移動を行うのに有効です。

斜面積展開図

1 斜面積展開図のコマンドの紹介

斜面積展開図のメニューバーのコマンドを紹介します。















[ファイル]メニューのコマンド	
計算書－新規作成 ()	三辺データをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[斜面積展開図]で作成または変更することができます。
[斜面積展開図]メニューのコマンド	
表示条件 ()	プロット画面上の三辺データの表示に関する設定を行います。 このコマンドは、[三斜データ]タブで有効です。
三斜自動 ()	範囲線を指定して、三斜データを自動で作成します。 このコマンドは、[三斜データ]で有効です。
三斜線変更 ()	斜面積展開図プロット上の三斜線を変更します。分割辺、範囲線は対象外です。 三斜線を変更は、2 つの隣接している三斜の区切り線を、残りの 2 つの構成点同士が結ばれるような区切り線にします。 このコマンドは、[三斜データ]で有効です。
分割辺指定 ()	周囲を全て三角形で囲まれている測点に対して分割辺を指定します。1 測点につき、必ず 1 つ分割辺を指定します。 このコマンドは、[三斜データ]で有効です。
分割辺自動 ()	周囲を全て三角形で囲まれている測点に対して分割辺を自動で指定します。 このコマンドは、[三斜データ]で有効です。
符号順自動 ()	符号順番を設定します。 このコマンドは、[三辺データ]で有効です。
ブロック選択 ()	ブロック(三辺データ)を追加・削除、または、表示を別のブロックに切り替えます。 このコマンドは、[三斜データ][三辺データ]で有効です。
構造物入力 ()	マンホールや集水桝などの構造物を三辺データに入力します。構造物の面積は控除(引き算)されます。 このコマンドは、[三斜データ][三辺データ]で有効です。
面積確認 ()	現在入力しているブロックの三辺データより面積を算出して表示します。 このコマンドは、[三斜データ][三辺データ]で有効です。
丸め設定 ()	距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。
三辺データの作成方法－ 平面展開図、投影図	平面展開図、投影図を切り替えます。 このコマンドは、[座標入力][三斜データ]で有効です。
[幅員データ]タブの[汎用コマンド]メニューのコマンド	
表示－拡大 ()	指定範囲を拡大します。
表示－前表示 ()	表示範囲、表示率を 1 つずつ戻します。ただし、戻せる回数は 5 回までです。
表示－移動 ()	表示範囲を移動します。
表示－原図 ()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。
表示－再描画 ()	画面内容を表示し直します。

擁壁展開図

1

擁壁展開図のコマンドの紹介

擁壁展開図のメニューバーのコマンドを紹介します。





















[ファイル]メニューのコマンド	
計算書-新規作成 ()	データをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[擁壁展開図]で作成または変更することができます。
[擁壁展開図]メニューのコマンド	
初期条件 ()	初期条件として路線名、擁壁高入力の基準位置、初点起点標高などを設定します。
表示条件 ()	擁壁展開図プロット上のデータの表示に関する設定を行います。
構造物入力 ()	マンホールや集水桝などの構造物をデータに入力します。入力した構造物の面積は控除(引き算)されます。
路線・縦横断データ読み込み ()	路線測量データまたは縦横断測量データを読み込みます。点名を[測点名]に、単距離を[上距離][下距離]に、設計値、実測値の両方に連動します。
面積確認 ()	現在入力しているデータより面積を算出して表示します。求積方法を変更すると、各面積は再計算され表示されます。
設計値取込み ()	設計値のデータを実測値に取り込みます。
実測値取込み ()	実測値のデータ在设计値に取り込みます。
丸め設定 ()	距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。
[汎用コマンド]メニューのコマンド	
表示-拡大 ()	指定範囲を拡大します。
表示-前表示 ()	表示範囲、表示率を1つずつ戻します。ただし、戻せる回数は5回までです。
表示-移動 ()	表示範囲を移動します。
表示-原図 ()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。
表示-再描画 ()	画面内容を表示し直します。




















各階平面図

1

各階平面図のコマンドの紹介






















各階平面図のメニューバーのコマンドを紹介します。








[建物]メニューのコマンド	
追加()	普通建物の建物データを追加し、建物の情報を入力します。
階設定()	階データの設定を確認・訂正します。
階複写()	階データを、建物形状データも含めて、同じ建物の別の階に複写します。 ただし、形状は引き継ぎますが、各階同型の設定は失われます。
階削除()	階データを建物形状データも含めて削除します。 削除したデータは元に戻せません。
タイプ鏡像()	タイプ形状を左右、または上下に反転します。
タイプ配置基準()	区分建物でタイプを参照して配置する際にタイプ側の基準となる点、方向を設定します。
区分建物追加()	区分建物データを追加します。最大 2000 までです。
タイプ追加()	区分建物の入力で参照するタイプを追加します。最大 128 までです。
[各階平面図]メニューのコマンド	
表入力()	ツリー部で選択した階データに、表入力で建物形状データを入力します。
表訂正()	表訂正画面で、建物形状データを確認・訂正します。
CAD 入力()	ツリー部で選択した階データに、各階平面図 CAD 画面上をマウスでクリックして、建物形状データを入力します。入力時には、ピックモードが有効となり、ラバーバンドには辺長が表示されます。
閉合図形取得()	ツリー部で選択した階データに、各階平面図 CAD 画面上の閉合図形の形状を取得して、建物形状データを入力します。DXF データを読み込んでトレースを行うときに使用します。閉合図形は、ツリー部で選択した階データの建物形状データ、DXF データ、補助線が対象です。
CAD 訂正ーポイント移動()	各階平面図 CAD 画面上で、建物形状データの基準点を移動します。1 つの基準点だけ移動させることも、基準点を複数まとめて移動させることもできます。
CAD 訂正ーポイント追加()	各階平面図 CAD 画面上で、建物形状データの辺上に基準点を 1 つ追加します。
CAD 訂正ーポイント削除()	各階平面図 CAD 画面上で、建物形状データの基準点を削除します。1 つの基準点だけ削除することも、基準点を複数まとめて削除することもできます。
部品入力()	登録されている部品(建物形状データ)を入力します。
部品登録()	建物形状データを部品として登録します。部品の名前や、登録してあるグループの名前の変更もできます。
タイプ参照()	区分建物でタイプを参照して、階データに建物形状データを設定します。
タイプ参照解除()	参照しているタイプを解除します。また、その下に[区分]タブで入力した接続・離れ・吹抜の建物形状データも削除します。削除したデータは元に戻せません。
タイプ配置位置()	タイプ参照している階データの配置基準を訂正します。

[各階平面図]メニューのコマンド	
形状複写()	建物形状データを各階平面図 CAD 画面上で選択し同じ階データに複写します。一度に複写できる建物形状データは 1 つだけです。[入力属性]は複写位置を決めた後に選択します。
形状削除()	選択した建物形状データを削除します。[パック]がオンのときには、選択した建物形状データを「親」として入力した建物形状データも同時に削除されます。
属性訂正()	選択した建物形状データの入力属性を変更します。
モード訂正()	建物形状データの選択された辺(直線、円弧)の入力モードを訂正します。このコマンドを使用すると、直線で入力された辺を円弧に修正したり、その逆を行えます。
開始点・傾き訂正()	建物形状データの入力開始点と傾きを訂正します。傾きは、画面上部が 0 度で右まわりです。表訂正で表示される表について、開始点が 1 行目に、傾きが縦方向に連動されます。
壁厚補正()	壁厚を考慮することで、建物形状データを修正します。実行すると壁厚分だけ形状と床面積が変化します。
接続配置()	[入力属性]を[接続]として入力した建物形状データを、別の建物形状データに接続します。
従属自動認識()	区分建物と一棟部の入力された形状から区分建物がどの一棟部の建物に含まれているかを自動認識し、区分建物の一棟部を自動設定します。形状を適当な場所でそれぞれ作成して、最後に一つの建物として配置した後などに使うと有効です。
区切り線()	建物形状データの区切り線、高さ線(三角形、台形の高さの線)を確認・編集できます。
求積式訂正()	求積式の確認・訂正を行います。実際に求積表で用いる求積式と値が表示されます。求積表の求積式は表の順番で作成されます。
[所在及び配置位置]メニューのコマンド	
デジ入力()	デジタイザ(タブレット)で所在図データを入力します。
座標地番入力()	座標管理に登録済みの座標を所在図データに入力します。
CAD 入力()	所在図データを、各階平面図CAD画面の任意の点をクリックすることで入力します。
削除()	各階平面図 CAD 画面上で選択した所在図データを削除します。1 つの所在図データだけ削除することも、複数まとめて削除することもできます。
回転()	回転基準点に対して、全ての所在図データを回転させます。
個別配置()	移動基準点を指定して建物形状データを平行移動します。[設定]－[パック]がオンのときは、選択した建物形状データを「親」として入力した建物形状データも対象になります。
全体配置()	移動基準点を指定して建物形状データを平行移動させます。ツリー部で一棟部、または、建物データを選択し全体配置を行った場合は、属している区分建物も同時に配置されます。ただし、附属建物を一棟部としてかつ[従属関係]を「なし」に設定されている区分建物は同時に配置されません。また、一棟部の階データを選択して全体配置を行っても、区分建物は同時に配置されません。
建物軸で回転()	[建物]タブの主建物(主である建物)の基本部の 1 階の傾きの方向を上部にするように、データ全体を回転させます。
寸法一追加()	各階平面図 CAD 画面に寸法線を入力します。任意の 2 点を指定して、2 点間の距離を寸法表示します。

[所在及び配置位置]メニューのコマンド	
寸法—訂正()	寸法線の数値のみ訂正して表示します。
寸法—削除()	各階平面図 CAD 上で選択した寸法線を削除します。
各階平面図 CAD 配置()	CAD または登記用 XML を起動して、各階平面図を作成します。
[汎用]メニューのコマンド	
制御—確定()	連続してデータを入力する場合などで、最終的に確定する場合に使用するコマンドです。
制御—後退()	データの入力処理の過程、または編集処理の過程で一つ前の入力状態に戻します。
制御—取消()	確定前の入力データやデータの選択範囲などを取り消す場合などに使用するコマンドです。
制御—中止()	実行中のコマンドを終了し、コマンド選択または、オブジェクト選択状態にします。
表示—範囲拡大()	指定範囲を拡大します。
表示—倍率拡大()	表示範囲を、一定倍率で拡大します。
表示—倍率縮小()	表示範囲を、一定倍率で縮小します。
表示—移動(枠指定)()	表示範囲を移動します。
表示—原図()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。
表示—原図領域()	表示範囲を、原図コマンドで表示する「原図領域」に設定します。
表示—前表示()	表示範囲、表示率を 1 つずつ戻します。ただし、戻せる回数は 5 回までです。
表示—再描画()	画面内容を表示し直します。
計測—2 点間の距離方向角()	図面上の任意の 2 点を指定して、指定した 2 点間の距離および方向角を表示します。
計測—点と線の距離方向角()	図面上の任意の点と入力されている線データを指定して、その間におろせる垂線の距離および方向角を表示します。
計測—3 点内角()	図面上の任意の 3 点を指定して、指定した 3 点の内角（1 点目から 2 点目の進行方向に対して右廻りの角度）を表示します。
計測—3 点垂直()	図面上の任意の直線 2 点と垂直におろす点を指定して、各点間距離および方向角を表示します。
補助—任意線()	補助線を図面に入力します。
補助—平行線()	基準となる線を指定し、その基準線に対して平行な補助線を作成します。
補助—任意点()	図面上の任意の位置に補助点を入力します。
補助—線の中点()	図面上に入力されている線分を指定して、指定した線分の中点位置に補助点を入力します。
補助—円の中心()	図面上の入力されている円または、円弧を指定して、指定した円(円弧)の中心点に補助点を入力します。

[汎用]メニューのコマンド	
補助-オフセット点(要素指定) ()	図面上の入力されている線・円・円弧を指定して、指定した線・円・円弧の端点から入力したオフセット距離の位置に補助点を入力します。
補助-オフセット点(2点指定) ()	基準となる点と方向を指定して、基準点からオフセットした補助点を図面上に入力します。
補助-4点交点()	4点を指定して、1点目と2点目の線分上と3点目と4点目の線分上の交わる点に補助点を図面上に入力します。
補助-2円の交点()	円の中心点位置と半径数値を入力した二つの円の交わる点に補助点を図面上に入力します。
補助-垂線の足(要素指定) ()	図面上に入力されている線・円・円弧を指定して、任意の点から指定した線・円・円弧に対しておろした垂線の足に補助点を入力します。
補助-垂線の足(2点指定) ()	基準とする直線の2点を指定して、その2点の線上外からの点からおろした垂線の足に補助点を図面上に入力します。
補助-垂直点()	図面上に入力されている線・円・円弧を指定して、指定した線・円・円弧に対しておろした垂直線上に補助点を入力します。
補助-等分割(要素指定) ()	図面上の入力されている線・円・円弧を指定して、等分割した点に補助点を入力します。
補助-等分割(2点指定)()	図面上で任意の2点を指定して、指定した2点間を等分割した点に補助点を入力します。
補助-削除()	図面上に入力されている補助線、補助点を選択して削除します。復活できませんので、注意して削除を実行してください。
補助-全削除()	図面に入力されているすべての補助線、補助点を削除します。復活できませんので、注意して削除を実行してください。
補助-既知点()	座標管理に登録されている座標を取り込んで補助点とします。
ラスタ配置()	ラスタデータ(画像・写真)を配置します。読み込むラスタデータの量およびメモリの容量によって読み込めない場合もあります。
ラスタ書き込み()	各階平面図 CAD 画面上のラスタデータをファイルに保存します。
ラスタ部分削除()	各階平面図 CAD 画面上に貼り付けられているラスタデータの一部分を削除します。矩形または多角形の領域を指定して領域内もしくは領域外のラスタデータを削除します。
ラスタ全体削除()	各階平面図 CAD 画面上に貼り付けられているラスタデータを全て削除します。
DXF-取込み()	各階平面図 CAD 画面に、DXF・DWG 形式のデータを読み込みます。
DXF-削除()	各階平面図 CAD 画面に貼り付けられている DXF・DWG 形式のデータを全て削除します。
写真-取込み()	写真ファイルを取り込みます。
写真-位置登録()	各階平面図 CAD 画面に写真を配置します。CAD 画面上では、アイコンと撮影方向を表示します。
写真-情報編集()	各階平面図 CAD 画面上の写真の情報を編集します。※[建物][区分]タブの家屋番号・所在選択時、および[タイプ]タブでは実行できません。























[汎用]メニューのコマンド	
写真-削除()	各階平面図 CAD 上から写真を削除します。
文字-追加()	各階平面図 CAD 画面上に文字列を配置します。
文字-訂正()	各階平面図 CAD 画面上の文字列を訂正します。
文字-削除()	各階平面図 CAD 画面上の文字列を削除します。
ARCHITREND Z FX 取込み ()	ARCHITREND Z で作成された平面図データ(FXデータ)を取り込みます。 1 階に取り込み可能な建物数は、各階平面図の入力制限と同じく 64 です。
建物調査データ取込み()	CIMPHONY から建物調査データを取り込みます。(ダウンロードのみ可能です。)建物調査データとは、弊社のスマホアプリ建物調査ツールで作成したデータ(建物線・敷地・寸法・文字・写真)です。※オプションサービスが必要です。
PDF 取込アシスト()	PDF ファイルをラスタに変換して配置します。
[設定]メニューのコマンド	
共通設定()	開いている作業データ全体に関する共通設定(区切り設定、丸め・単位など)を行います。
表示条件()	各階平面図 CAD 画面の表示に関する設定を行います。
作業範囲設定()	原図範囲を設定します。原図範囲とは、[汎用]-[表示]-[原図]で CAD 画面に表示される範囲のことです。
バック()	建物形状データを配置または削除するときに、その建物を「親」として入力したその他の建物形状データが同時に配置・削除されるか、されないかを切り替えます。バックモードをオンにすると、建物形状データを配置または削除したとき、その建物を「親」として入力した建物形状データも同時に配置・削除されます。
開始点・傾き()	建物形状データの入力開始点と傾きを表示するかしないかを切り替えます。
入力モード-ドラフタ()	ドラフタ機能を有効にする、しないを切り替えます。ドラフタ機能がオンの時、入力の際に設定した角度の方向のみ限定して入力することができます。
入力モード-座標補正Δxy()	データの編集時の入力位置や基準位置を指定するとき、マウスでクリックした位置からの縦、横の移動量を入力して入力点、基準点の位置を設定する機能のオン、オフを切り替えます。
入力モード-絶対座標入力()	絶対座標値を指定して入力します。
入力モード-相対座標入力()	図面上で 2 点目以降のデータを入力するとき、次点の入力位置を前点からの相対座標(距離)を指定して入力します。
入力モード-極座標入力()	図面上で 2 点目以降のデータを入力するとき、次点の入力位置を前点からの距離と方向角を入力して指定します。このコマンドは、同一データで 2 点目のデータ入力時に有効です。
選択モード-ポイント()	マウスでクリックした点のデータを選択します。
選択モード-矩形内()	2 点指定矩形内のデータを選択します。
選択モード-矩形タッチ()	2 点指定矩形上に交差するデータ、または矩形内に囲まれているデータを選択します。
選択モード-クロス()	2 点間上に交差するデータを選択します。

[設定]メニューのコマンド	
ピックモード-交点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い交点にします。
ピックモード-端点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い端点にします。
ピックモード-グリッド()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近いグリッドの交点にします。
ピックモード-フリー()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置にします。
ピックモード-線上()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い線上にします。
ピックモード-中点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い線の中点にします。
ピックモード-ラスタ()	ラスタデータのピックモードを有効にします。
ピックモード-ラスタピック設定	ラスタのピックモードを設定します。
ピックモード-音声ガイド	入力位置や基準位置をマウスで指定したときに、ピックモード名を音声にしてくれるモードで、そのオン、オフの切り替えをします。
グリッド設定	図面全体に表示するグリッドの間隔や角度などを設定します。
ドラフタ設定	ドラフタを設定します。
入力ガイド	ツリー部下方に入力ガイドを表示します。
写真バー	各階平面図 CAD 下方に写真バーを表示します。
























登記用XML作成





















1 登記用XML作成のコマンドの紹介


















登記用XML作成のメニューバーのコマンドを紹介します。

[専用コマンド]メニューのコマンド	
制御ー確定()	連続してデータを入力する場合などで、最終的に確定する場合に使用するコマンドです。
制御ー後退()	データの入力処理の過程、または編集処理の過程で一つ前の入力状態に戻します。
制御ー取消()	確定前の入力データやデータの選択範囲などを取り消す場合などに使用するコマンドです。
制御ー中止()	実行中のコマンドを終了し、コマンド選択または、オブジェクト選択状態にします。
ページー追加()	ページを追加します。最大 100 ページ(元ページ含まず)まで追加できます。
ページー挿入()	ページを挿入します。最大 100 ページ(元ページ含まず)まで挿入できます。
ページー削除()	ページを削除します。
ページーページ名称変更()	ページ名称を変更します。
ページー前ページ()	前ページへ移動します。
ページー次ページ()	次ページへ移動します。
ページー一覧()	ページを一覧表示して、編集する図面のページを選択します。
表示ー範囲拡大()	指定範囲を拡大します。
表示ー倍率拡大()	表示範囲を、一定倍率で拡大します。
表示ー倍率縮小()	表示範囲を、一定倍率で縮小します。
表示ー移動(枠指定)()	表示範囲を移動します。
表示ー原図()	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。ただし、原図領域が設定されている場合は、原図領域が原図範囲となります。
表示ー原図領域()	表示範囲を、原図コマンドで表示する「原図領域」に設定します。
表示ー前表示()	表示範囲、表示率を 1 つずつ戻します。ただし、戻せる回数は 5 回までです。
表示ー再描画()	画面内容を表示し直します。
地積図ー配置()	筆データを設定します。
地積図ースタイル()	地積図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
地積図ー数値条件()	座標値、面積、距離などの丸めを設定します。また、距離、角度の計算に使用する座標値の丸めにも適用します。角度は 1 秒固定です。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。

[専用コマンド]メニューのコマンド	
各階平面図-配置()	各階平面図を作成するデータを読み込みます。
各階平面図-スタイル()	各階平面図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
データ-土地 XML 読み込み()	XML 形式のデータを読み込みます。
データ-土地 XML 書き込み()	データを XML 形式に変換してファイルに書き込みます。
計測-2 点間の距離方向角()	指定した 2 点間の距離および方向角を表示します。
計測-一点と線の距離方向角()	任意の点と直線を指定して、その間におろせる垂線の距離および方向角を表示します。表示する実際の距離、および実際の方向角は、レベルの縮尺、回転角に影響します。
計測-連続距離()	図面上で連続的に点を指定していき、その総延長を表示します。
計測-面積()	面積を表示します。面積は、レベルの縮尺に影響します。
計測-合計()	CAD で複数選択した文字列(数値)を合計し、合計値を配置します。
計測-データ量の状態()	図面に入力されている要素数(データ数)を表示します。
計測-座標デジタイズ()	任意の点を指定して、用紙座標上の X、Y 座標値、現場座標上の X、Y、Z 座標値を表示します。
文字-入力()	文字列を入力します。
文字-引出線()	要素を指定して、関連する文字列を引き出します。文字、線、マーク、引出線が対象です。
寸法線-水平・垂直(要素)()	要素指定で図形の水平・垂直距離の寸法値を入力します。
寸法線-水平・垂直(任意)()	任意にクリックした点間の水平・垂直距離の寸法を入力します。
寸法線-2 点指示()	任意の 2 点を指定して、2 点間の距離を寸法入力します。
寸法線-弧長・円周()	円を選択して、円周を寸法入力します。または、円弧を選択して、円弧の長さを寸法入力します。
線-入力()	図面上の任意位置を指定して、直線を連続入力します。
線-垂線()	基準線(直線、円、円弧、クロソイド)から、垂線を入力します。
線-平行線()	基準となる線を指定し、その基準線に対して平行線を入力します。
線-ヒゲ線()	ヒゲ線を入力します。
円-中心半径()	中心、半径指定で円を入力します。
円弧-3 点弧(内接)()	3 点を指定して、その 3 点内角に接する円弧を入力します。
円弧-3 点弧(外接)()	3 点を指定して、その 3 点に外接する円弧を入力します。
円弧-円弧伸縮()	円弧の線を延長、または短縮します。
マーク-マーク入力()	マークを入力します。

[専用コマンド]メニューのコマンド	
塗り-塗潰し()	塗り潰しを入力します。
補助-任意線()	補助線を入力します。
補助-平行線()	基準線(連続線、上下線、補助線)を指定し、平行補助線を入力します。
補助-オフセット点(要素指定) ()	線、円、円弧、クロソイド要素を指定し、端点、または、指定点からオフセット距離を設定して補助点を入力します。
補助-オフセット点(2点指定) ()	2点指定でオフセット距離を設定して補助点を入力します。
補助-4点交点()	4点を指定して、1点目と2点目を通る直線と3点目と4点目を通る直線の交点に補助点を入力します。
補助-垂直点()	線・円・円弧・クロソイドを指定して、指定した要素に対しておろした垂直線上に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。
補助-全削除()	補助点・補助線を全削除します。
ラスタ・写真-配置()	ラスタデータ(画像・写真)を配置します。
ラスタ・写真-訂正()	ラスタデータを訂正します。レイヤ設定・レベル設定で非表示またはレイヤ設定で検索オフのラスタデータも対象です。
ラスタ・写真-部分編集()	ラスタデータを部分的に編集します。
ラスタ・写真-削除()	ラスタデータを削除します。
図枠・申請書-図枠・申請書 ()	申請書を作成する際に必要な項目を設定して図面に出力します。
図枠・申請書-申請書一括配置 ()	申請書を作成する際に必要な項目を設定して図面に一括出力します。
特殊図形-シンボル入力()	神社、寺院などシンボルを指定して、図面上に入力します。
特殊図形-シンボル登録()	図形を選択してシンボルとして登録します。
特殊図形-方位入力()	方位マークを指定して、図面上の任意の位置に配置します。 固定レイヤ(方位マーク)に入ります。
測量-座標登録()	任意位置から座標値を抽出し、座標管理に座標を登録します。
測量-座標値プロット()	座標値をプロットします。
測量-拡大図()	部分拡大図を配置します。
[データ編集]メニューのコマンド	
移動()	データを移動します。
複写()	データを複写します。
訂正()	データを訂正します。
削除()	データを削除します。

[データ編集]メニューのコマンド	
文字編集-移動・回転()	文字列を移動・回転します。
文字編集-サーチ()	図面上の線や円などのデータと文字の重なり、または文字同士の重なりを検索して文字列の移動を行います。サーチすると自動的に[移動・回転]になります。
文字編集-自動編集()	図面内の測点名、距離、地番情報の文字列の重なりを自動で取り除きます。
線編集-線伸縮()	線を伸縮します。線分、連続線、上下線が対象です。
線編集-延長止線()	指定した線を、他方で指定したライン上まで延長、または切断します。線分、連続線、上下線が対象、止める側は線分、連続線、補助線、円、円弧、上下線、自由曲線が対象です。
レベル編集-レベル編集()	レベルを編集します。ただし、レベルが1つも追加されていない用紙系 1/1 のレベル、元ページから配置したレベルは編集できません。
クリップボード-複写()	図面上で選択したデータをクリップボードに複写します。
クリップボード-貼り付け()	クリップボードに複写されたデータを図面上に貼り付けます。
[設定]メニューのコマンド	
基本設定()	基本項目を設定します。
システムカラー設定()	CAD 画面の配色を設定します。
値設定()	図面上において、座標値を入力、または距離、面積、寸法などの値を表示するときの丸め、角度の表示方法を設定します。
表示モード-文字表示	図面上の文字列を内容表示するか文字列枠のみで表示するかを切り替えます。
表示モード-マークでマスクする	マークでマスクするかしないかを切り替えます。
表示モード-グリッド表示	グリッド表示するかしないかを切り替えます。
入力モード-ドラフタ()	ドラフタ機能を有効にする、しないを切り替えます。ドラフタ機能がオンの時、入力の際に設定した角度の方向のみ限定して入力することができます。
入力モード-座標補正Δxy()	データの編集時の入力位置や基準位置を指定するとき、マウスでクリックした位置からの縦、横の移動量を入力して入力点、基準点の位置を設定する機能のオン、オフを切り替えます。
選択モード-パック指定()	図面上のデータを選択する際、選択対象データをパック単位にするか、しないかのモードを切り替えます。例えば、線や文字が混在しているデータでパック化されているとき、その一部のデータを選択するとパックされているデータも選択されます。
選択モード-ポイント()	マウスでクリックした点のデータを選択します。
選択モード-クロス()	2 点間上に交差するデータを選択します。
選択モード-矩形イン()	2 点指定矩形内のデータを選択します。
選択モード-矩形タッチ()	2 点指定矩形上に交差するデータ、または矩形内に囲まれているデータを選択します。
選択モード-多角形イン()	N 点指定多角形内のデータを選択します。
選択モード-多角形タッチ()	N 点指定多角形上に交差するデータ、または多角形内に囲まれているデータを選択します。

[設定]メニューのコマンド	
選択モードフリーハンド()	マウスで描いた軌跡上に交差するデータを選択します。
選択モードフリーハンドタッチ()	マウスで描いた軌跡上の領域に交差するデータ、領域内に囲まれているデータを選択します。
選択モード選択移動()	選択移動の場合、選択したデータにはハンドルが表示され、データの移動、複写ができます。また、ハンドルをクリックして移動した場合は、データ自体の移動ではなく、ハンドルの移動になります。
選択モード全選択()	要素別に全てのデータを選択します。
ピックモードマーク()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近いプロットマークの中心点にします。
ピックモード交点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い交点にします。
ピックモード端点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い端点にします。
ピックモードグリッド()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近いグリッドの交点にします。
ピックモードフリー()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置にします。
ピックモード線上()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い線上にします。
ピックモード中点()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い線の中点にします。
ピックモード中心()	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い円(円弧)、または楕円(楕円弧)の中心点にします。
ピックモードダイナミックピック	マウスポインターにピックすることができる点のイメージを表示するかどうかを切り替えます。
ピックモード音声ガイド	入力位置や基準位置をマウスで指定したときに、ピックモード名を音声にしてくれるモードで、そのオン、オフの切り替えをします。
ピックモード設定()	ピックモードに関する設定を行います。
グリッド設定()	図面全体に表示するグリッドの間隔や角度などを設定します。
ドラフタ設定()	ドラフタを設定します。
表示色設定()	レイヤの表示色、レイヤ内のデータの表示・非表示を設定します。
形状表示()	属性別の各階層毎に形状表示します。

法務省フォーマット 作成

1

法務省フォーマット作成のコマンドの紹介

法務省フォーマット作成のメニューバーのコマンドを紹介します。

[専用コマンド]メニューのコマンド	
法務省フォーマットファイル読み込み	法務省フォーマットファイルを読み込みます。
法務省フォーマットファイル書き込み	データを法務省フォーマットの形式に変換してファイルに書き込みます。
合筆地番の追加	地番管理の[分筆元／合筆先]から情報を取得して、[合併地番]タブに自動セットします。
筆界未定地の追加	地番管理の[地籍地番情報]が筆界未定地の地番が、仮地番に入力されていない場合は追加します。また、仮地番 No および構成地番 No に入力されている地番を参照し、地番情報を地番管理から取得し更新します。


14条調査表

1

14条調査表のコマンドの紹介

14条調査表のメニューバーのコマンドを紹介します。

[ファイル]メニューのコマンド

計算書-新規作成 ()	※「土地調査書」を選択した場合に有効です。 土地調査書を作成します。計算書のフォームは、フリーフォーマット作成の[14 条調査表]で作成または変更することができます。
--	--

[専用コマンド]メニューのコマンド

地番管理連動設定	地番管理の地目を 14 条調査表のどの項目に連動させるか設定します。
地番入力設定	地番入力時の動作を設定します。
地積等調査一覧表連動設定	※「地積等調査一覧表」を選択した場合に有効です。 14 条調査表の項目を地積等調査一覧表作成ツールのどの項目に連動させるか設定します。
地積等調査一覧表出力	※「地積等調査一覧表」を選択した場合に有効です。 地積等調査一覧表作成ツールを起動して作成します。